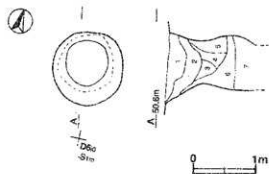


土層解説		
1	黒 強 色	ローム粒子少量、粘土ブロック、炭化した炭
2	黒 弱 色	ローム粒子少量、粘土ブロック微量
3	黒 弱 色	ロームブロック微量
4	黒 弱 色	ローム粒子少量
5	黒 弱 色	ロームブロック少量
6	黒 弱 色	ロームブロック中量
7	黒 弱 色	ロームブロック中量、粘土ブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片19点、土師器片22点、須恵器片4点(坏)が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。また余体的に細片がほとんどで、図示できなかった。

所見 中世以降の遺物がなく、須恵器坏片を含んでいることから、時期は9世紀代と考えられる。



第138図 第23号井戸跡実測図

第64号井戸跡 (第139図)

位置 調査区西部のE 618区に位置し、台地上の南側に立地している。

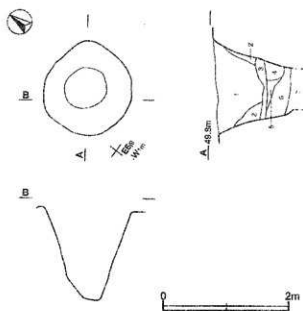
規模と形状 径1.4mほどの円形で、逆円錐状に掘り込まれている。深さは144cmである。

積土 雨水のため7層までを確認した。ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説		
1	黒 強 色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量
2	黒 弱 色	ロームブロック・粘土粒子少量
3	黒 弱 色	ロームブロック少量、粘土粒子・炭化物微量
4	黒 弱 色	ロームブロック中量
5	黒 弱 色	ロームブロック・炭化物少量
6	黒 弱 色	ロームブロック中量
7	黒 弱 色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片11点、土師器片27点、須恵器片11点(坏7, 壺4)、鏝4点が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。土器のほとんどが細片のため図示できなかった。

所見 中世以降の遺物がなく、須恵器片が多く出土していることから、時期は奈良・平安時代と考えられる。



第139図 第64号井戸跡実測図

(4) 土坑

第149号土坑 (第140図)

位置 調査区西部のD 5e6区に位置し、台地上の北側に立地している。

重複関係 第3号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.0m、短径0.9mの円形である。深さは35cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。

覆土 3層からなり、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック微量
2 黒 褐色 ローム粒子微量

- 3 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片10点、須恵器片1点(鏝)、鉄製品1点(鏝)が出土している。M46は覆土中層から出土している。

所見 時期は、第3号住居跡を掘り込んでいることと出土土器から平安時代と考えられる。



第140図 第149号土坑・出土遺物実測図

第149号土坑出土遺物観察表 (第140図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M46	鏝	(18.5)	3.6	0.5	(83.7)	鉄	木質付着	中層	PL.61

第715号土坑 (第141図)

位置 調査区西部のE 6g4区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第23号住居跡を掘り込み、ピットに掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.5m、短軸1.1mの長方形で、長軸方向はN-83°-Wである。深さは45cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

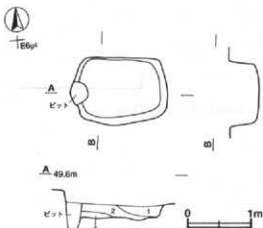
覆土 3層からなり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
2 褐 褐色 ロームブロック中量
3 暗 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片3点、土師器片23点、須恵器片1点が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入と考えられる。土器は細片のため図示できなかった。

所見 第23号住居跡を掘り込んでいることと出土土器から、時期は平安時代と考えられる。



第141図 第715号土坑実測図

第732号土坑 (第142図)

位置 調査区西部のE 5a6区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1748号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.6m、短径1.1mの楕円形で、長径方向はN-25°-Eである。深さは約16cmで、壁は緩く外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。

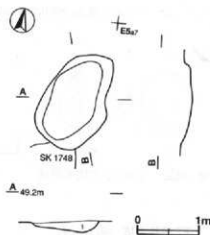
覆土 単一層であるため、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片1点、土師器片23点が出土している。土器はすべて細片のため図示できなかったが、土師器片の半数以上が坏片でロクロナデがみられる。

所見 時期は、出土土器から平安時代と考えられる。



第142図 第732号土坑実測図

第809号土坑 (第143図)

位置 調査区東部のF 10f0区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径0.9m、短径0.6mの楕円形で、長径方向はN-61°-Wである。深さは11cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 4層からなり、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

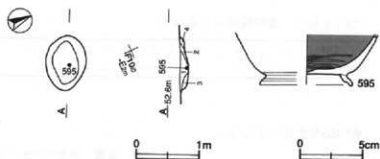
2 暗褐色 ローム粒少量、焼土ブロック微量

3 褐色 粘土ブロック少量

4 暗褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片3点、土師器片6点、須恵器片1点が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入と考えられる。595は底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から平安時代と考えられる。



第143図 第809号土坑・出土遺物実測図

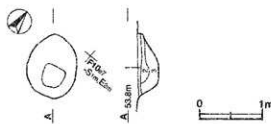
第809号土坑出土遺物観察表 (第143図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
595	土師器	高台付杯	-	(4.0)	(7.2)	石英・長石・雲母	灰・黄褐色	普通	高台貼り付け、内面へう磨き	中央部底面	80%

第812号土坑 (第144図)

位置 調査区東部のF 10e7区に位置し、台地の南側に立地している。

規模と形状 長径1.2m、短径0.8mの楕円形で、長径方向はN-40°-Wである。深さは33cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。



第144図 第812号土坑実測図

覆土 3層からなり、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説	
1	黄褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・焼石・土器片少量
2	褐色 ロームブロック・焼石・土器片、焼土粒子少量
3	褐色 ローム粒子中量、炭化物少量

遺物出土状況 縄文土器片11点、土師器片108点が出土している。土器は細片のため図示できなかった。

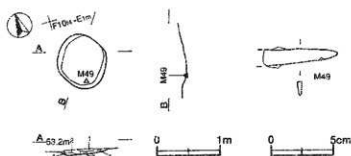
所見 時期は、出土土器から平安時代と考えられる。

第829号土坑 (第145図)

位置 調査区F10F4区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 径0.8mの円形である。深さは7cmで、壁は緩く外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。

覆土 4層からなり、含有物から人為堆積と考えられる。



土層解説	
1	赤褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
2	赤褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量
3	赤褐色 焼土粒子少量
4	褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片1点、土師器片3点、鉄製品1点(刀子)が出土している。M49は底面から出土している。

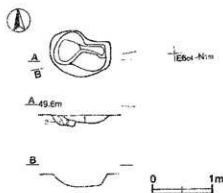
所見 時期は、出土土器から8世紀代と考えられる。

第145図 第829号土坑・出土遺物実測図

第829号土坑出土遺物観察表 (第145図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M49	刀子	(5.9)	1.4	0.4	(5.9)	鉄	刀身欠失	南寄り底面	PL61

第1485号土坑 (第146図)



第146図 第1485号土坑実測図

位置 調査区西部のE6b3区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第7号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.1m、短径0.7mの楕円形で、長径方向はN-52°-Wである。深さは20cmで、壁は緩く外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 3層からなり、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説	
1	暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
2	褐色 ロームブロック少量
3	黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 8 点, 須恵器片 1 点が出土している。土器は細片のため図示できなかった。

所見 時期は, 出土土器から平安時代と考えられる。

第1612号土坑 (第147図)

位置 調査区西部の E 6 h3k に位置し, 台地上の南側に立地している。

重複関係 中央部分をピットに掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.4m, 短軸1.0mの長方形で, 長軸方向は N-87°-E である。深さは20cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

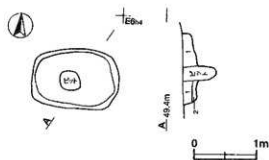
覆土 2層からなり, ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中層
- 2 灰褐色 ロームブロック中層

遺物出土状況 縄文土器片 4 点, 須恵器片 1 点が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から奈良・平安時代と考えられる。



第147図 第1612号土坑実測図

第1641号土坑 (第148図)

位置 調査区西部の E 5 a7区に位置し, 台地上の南側に立地している。

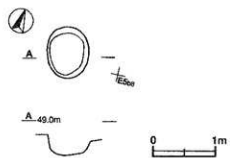
重複関係 第1640号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 長径0.8m, 短径0.7mの楕円形で, 長径方向は N-15°-W である。深さは35cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 ローム粒子を少量含む黒褐色土を基調としている。

遺物出土状況 土師器片16点が出土している。すべて細片のため図示できなかったが, ロクロの使用が認められた。

所見 時期は, 出土土器から平安時代後半と考えられる。



第148図 第1641号土坑実測図

4 中・近世の遺構と遺物

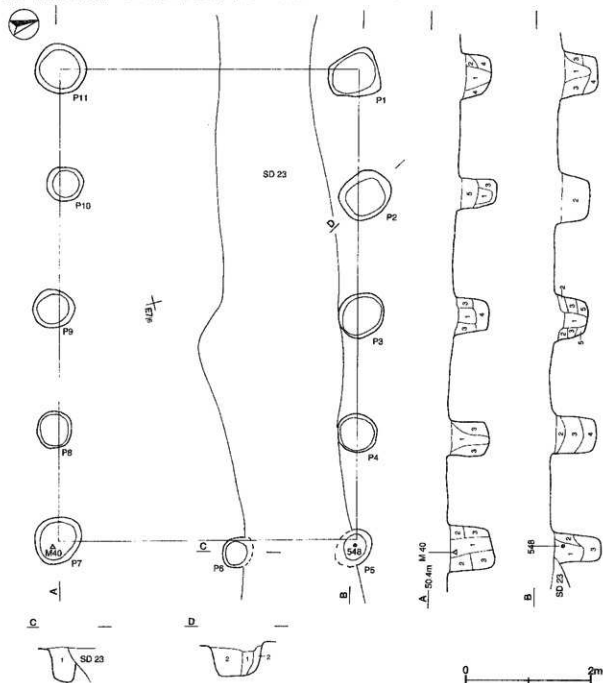
中・近世の遺構としては、掘立柱建物跡1棟、竪穴状遺構15基、地下式竈19基、井戸跡33基、墓塚12基、土坑100基、溝跡18条が確認された。特に墓塚・土坑については、出土遺物や遺構の形態など中・近世の遺構として性格の顕著なものを取り上げた。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

なお、粘土探掘坑の可能性のある第1900号土坑については、「5 その他の時代の遺構と遺物」で記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第149・150図)

位置 調査区中央部のE715区に位置し、台地上の南側に立地している。



第149図 第1号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第23号溝に掘り込まれている。

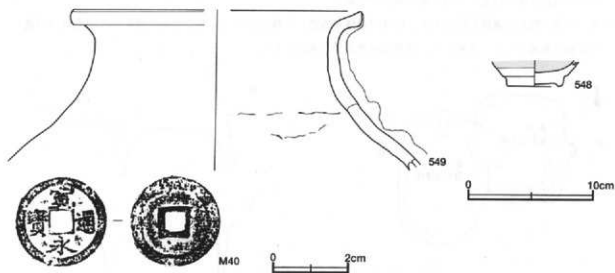
規模と形状 桁行4間、梁間2間の側柱式建物跡で、桁行方向はN-75°-Wの東西棟である。規模は桁行7.5m、梁間4.8mであり、柱間寸法は桁行が1.8~2.1m、梁間が1.8~2.0mである。

柱穴 平面形は長径70~90cmの楕円形、径60~80cmの円形、一辺70cmの不整形の三種類で、深さは50~70cmである。柱の抜き取り痕はP1~P3、P7~P11から確認されており、第1層が相当し、締まりが弱い。

土層解説(各柱穴共通)

1 暗褐色	ロームブロック・炭化材・鹿沼パミス少量	4 暗褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量	5 褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミスブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 縄文土器片12点、土師器片8点、土師質土器片11点(小皿2、内耳鍋9)、陶器片2点(碗、甕)、古銭1点(寛永通寶)が出土している。548はP5の覆土上層から逆位で、M40はP7の覆土上層から出土している。また、549は覆土中からの出土で、本跡のすぐ南側の土坑から出土したものと接合関係にある。所見 時期は、出土遺物から17世紀中葉以降と考えられる。



第150図 第1号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第150図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
548	陶器	天目茶碗	—	(2.1)	4.4	長石	灰黄	—	黒褐	鉄釉	瀬戸・美濃	—	P5上層	20%
549	陶器	甕	(23.0)	(12.8)	—	長石	にひ・黄橙	—	—	一部自然釉	常滑	—	覆土中	5%

番号	銭名	径	孔	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M40	寛永通寶	2.5	0.6	3.2	1636	銅	古寛永	P7上層	PL62

(2) 竪穴状遺構

第1号竪穴状遺構(SK232)(第151図)

位置 調査区西部のE6e5区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第2号竪穴状遺構に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.6m, 短軸1.4mの長方形で, 長軸方向は $N-9^{\circ}-E$ である。壁高は24cmほどで, いずれも直立している。

床 ほぼ平坦で, 硬化面はみられない。

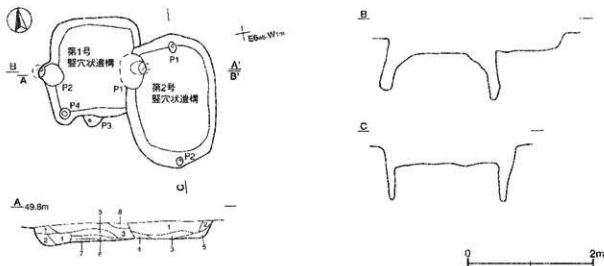
ピット 4か所。P1は深さ75cmで東壁の中央部に, P2は深さ55cmで西壁の中央部にあり, それぞれ対になっていることから柱穴に相当するものと考えられる。P3, P4はそれぞれ南壁を掘り込んでおり, 性格は不明である。

覆土 8層からなり, ロームブロックを多量に含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説	
1 黒色	ロームブロック極量
2 黒褐色	ロームブロック中量
3 黒色	ロームブロック少量
4 黒色	ロームブロック少量, 炭化物・炭灰・バミスブロック残片
5 黒褐色	ロームブロック・炭灰・バミスブロック少量, 炭化物残片
6 黄褐色	ロームブロック多量
7 黒褐色	ロームブロック少量
8 黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片18点, 土師器片11点, 須恵器片2点, 土師質土器片2点(内耳鍋)が出土している。遺物のはほとんどは人為堆積時の混入によるものと考えられる。また, 細片のため図示できなかったが, 土師質土器片は外面に煤が付着した内耳鍋の体部片である。

所見 中世に特有な遺構形態であり, 同様の遺構が近辺から確認されていることや, 混入とはいえ最新の遺物が内耳鍋であることから判断して, 時期は中世後半と考えられる。



第151図 第1・2号竪穴状遺構実測図

第2号竪穴状遺構 (SK233) (第151図)

位置 調査区西部のE6e5区に位置し, 台地上の南側に立地している。

重複関係 第1号竪穴状遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.1m, 短軸1.4mの長方形で, 長軸方向は $N-7^{\circ}-E$ である。壁高は27cmほどで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 硬化面はみられない。

ピット 2か所。P1は深さ65cmで北壁の中央部に, P2は深さ50cmで南壁の中央部にあり, それぞれ対になっていることから柱穴に相当するものと考えられる。

覆土 5層からなり, ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 紫 褐色	ロームブロック少量
2 暗 褐色	ロームブロック少量
3 黒 褐色	ロームブロック・炭化物少量

4 紫 褐色	炭化物少量、ロームブロック微量
5 暗 褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片7点、須恵器片1点、土師質土器片11点（内耳鍋）が出土している。縄文土器片や須恵器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。また、土器は細片のため図示することができなかった。所見 中世に特有な遺構形態であり、同様の遺構が近辺から確認されていることや、土師質土器が出土していることから判断して、時期は中世後半と考えられる。

第3号竪穴状遺構（SK235）（第152回）

位置 調査区西部のE 6 d5区に位置し、台地上の南傾に立地している。

重複関係 第234号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.9m、短軸1.7mの長方形で、長軸方向はN-82°-Wである。壁高は6~18cmで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面はみられない。

ピット 3か所。P1は深さ55cmで東壁の中央部に、P2は深さ48cmで西壁の中央部にそれぞれ対になっており、柱穴に相当するものと考えられる。土層としては表せなかったが、P2の覆土中層から下層にかけてかなりの炭化物が確認された。P3については性格不明である。

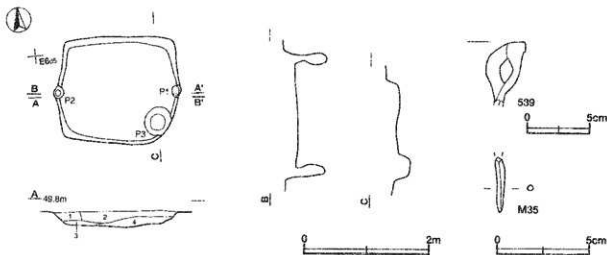
覆土 4層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 紫 色	ロームブロック少量、炭化物微量	3 黒 色	ロームブロック微量
2 黒 色	ロームブロック少量	4 黒 色	ロームブロック・炭化物少量

遺物出土状況 縄文土器片14点、土師器片14点、須恵器片3点、土師質土器片3点（内耳鍋）、鉄製品1点（釘）が出土している。縄文土器片、土師器片、須恵器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。土師質土器片はすべて内耳鍋片（口縁部1、体部2）で外面にはかなりの量の煤が付着している。

所見 中世に特有な遺構形態であり、同様の遺構が近辺から確認されていることや、最新の遺物が内耳鍋であることから判断して、時期は中世後半と考えられる。



第152回 第3号竪穴状遺構・出土遺物実測図

第3号竪穴状遺構出土物観察表 (第152図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
539	土師器土器	内耳罎	—	(5.1)	—	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	ナデ、外面磨付着	覆土中	5%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M35	釘	(2.9)	0.5	0.3	(0.8)	鉄	頭部欠失	覆土中	

第4号竪穴状遺構 (SK240) (第153図)

位置 調査区西部のE 6e5区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 南西壁を第6号竪穴状遺構に掘り込まれている。

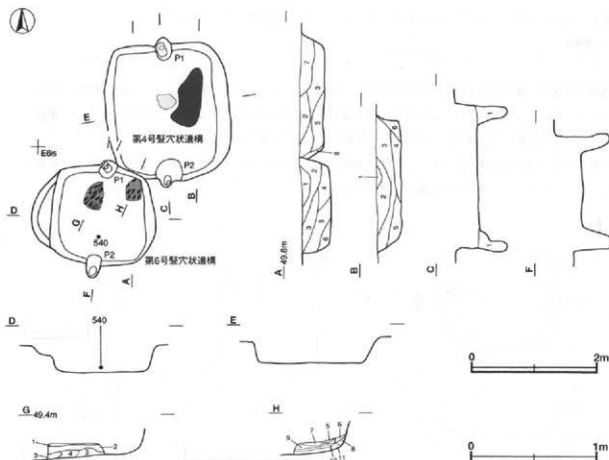
規模と形状 長軸2.2m、短軸2.0mの長方形で、長軸方向はN-9°-Wである。壁高は32~45cmで外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、硬化面はみられない。中央部に焼土の広がり確認できた。また、焼土の東側には広範囲に灰がうっすらと広がっている。

ピット 2か所。P1は深さ50cmで北壁の中央部に、P2は深さ45cmで南壁の中央部にあり、それぞれ対になっていることから柱穴に相当するものと考えられる。

ピット土層解説

1 黒 褐色 ロームブロック少量



第153図 第4・6号竪穴状遺構実測図

覆土 8層からなり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	5 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	6 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	7 褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
4 暗褐色	ロームブロック少量	8 暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片15点、土師器片23点、須恵器片4点が出土している。遺物はすべて人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 中世に特有な遺構形態であり、同様の遺構が近辺から確認されていることから、時期は中世と考えられる。

第5号竪穴状遺構 (SK257) (第154図)

位置 調査区中央部のE7c7区に位置し、台地上の中央部に立地している。

重複関係 北東コーナー付近を第254号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.6m、短軸2.4mの長方形で、長軸方向はN-80°-Wである。壁高は20~35cmではほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で、硬化面はみられない。

ピット 2か所。P1は深さ34cmで北壁の中央部に、P2は深さ50cmで南壁の中央部にそれぞれ対になっており、柱穴に相当するものと考えられる。

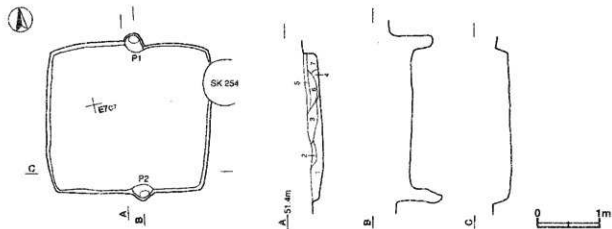
覆土 7層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量	5 褐色	ローム粒子多量
2 暗褐色	ローム粒子中量	6 暗褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ロームブロック少量	7 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量
4 黒褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 縄文土器片77点、土師器片30点、須恵器片2点、土師質土器片2点(内耳鍋)が出土している。土師質土器片以外は人為堆積時の混入によるものと考えられる。土師質土器片はいずれも表面に煤が付着した内耳鍋片であるが、細片のため図示することができなかった。

所見 中世に特有な遺構形態であり、同様の遺構が近辺から確認されていることや、最新の遺物が内耳鍋であることから判断して、時期は中世後半と考えられる。



第154図 第5号竪穴状遺構実測図

第6号竪穴状遺構 (SK261) (第153・155図)

位置 調査区西部のE6f5区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第23号住居跡、第4号竪穴状遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.0m、短軸1.6mで、西壁が外側に階段状に張り出している不整形である。長軸方向はN-74°-Wである。壁高は約42cmで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面はみられない。床面の中央北側寄りの部分と、北東コーナ一部付近の2か所から炭と骨粉が層をなしている(第1・5・8層の上面)部分が確認できた。いずれも一辺が30~40cmほどの長方形で厚さは10~15cm程度である。

層・骨粉層中層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子微量	7 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	8 暗褐色	炭化粒子・骨粉中量、ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック少量	9 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
4 褐色	ロームブロック多量	10 黒褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量
5 灰白色	骨粉多量、炭化粒子少量	11 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
6 褐色	ロームブロック中量		

ピット 2か所。P1は深さ45cmで北壁の中央部に、P2は深さ50cmで南壁の中央部にあり、それぞれ対になっていることから柱穴に相当するものと考えられる。いずれも床面に対し外傾に掘り込まれている。

覆土 6層からなり、ロームブロックを多量に含む不規則な堆積状況を呈していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量	5 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量	6 黒褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子中量
3 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量		
4 黒褐色	ロームブロック・炭化物・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量		

遺物出土状況 土師器片5点、須恵器片1点、土師質土器片5点が出土している。土師器片、須恵器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。土師質土器片はすべて外面に煤が付着した内耳銅片(口縁2、体部1、底部2)である。540は覆土下層から出土している。また図示できなかったが、他の内耳銅片も覆土下層から出土している。

所見 床面の2か所から炭化物や骨粉が確認されているが、2か所とも層内にロームブロックを含んでいることから、埋没過程で炭化物や骨粉が投棄された可能性がある。時期は、540が覆土下層から出土していることから中世後半と考えられる。



第155図 第6号竪穴状遺構出土遺物実測図

第6号竪穴状遺構出土遺物観察表 (第155図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
540	土師質土器	内耳銅	[36.8]	(7.3)	-	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	横ナテ	覆土下層	10%

第7号竪穴状遺構 (SK302) (第156図)

位置 調査区の西部E 6c3区で、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長軸2.2m、短軸1.9mの南西コーナーが内側に、階段状に張り出した長方形である。長軸方向はN-77°-Wである。壁高は約46cmで東壁、西壁は直立し、北壁、南壁は外傾している。

床 ほぼ平坦で、硬化面はみられない。

ピット 2か所。P1は東壁の中央部に、P2は西壁の中央部にあり深さはともに約45cmである。また、それぞれ対になっていることから柱穴に相当するものと考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック多量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

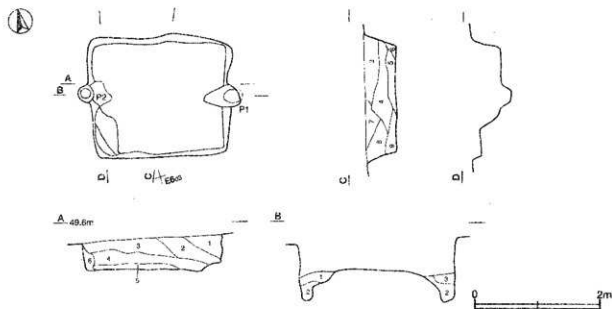
覆土 9層からなり、ロームブロックを多く含んでいることや、2層目から灰、8・9層目からは灰や骨粉が出土していることなどから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|-------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・灰少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子中量、小粒炭量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・焼沼パニスブロック・骨粉微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼沼パニスブロック微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・灰少量、焼土ブロック・骨粉微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・焼沼パニスブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片5点が出土しているが、人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 灰や骨粉が確認されているが、微量のため性格は不明である。本跡は中世に特有な遺構形態であり、同様の遺構が近辺から確認されていることから、時期は中世と考えられる。



第156図 第7号竪穴状遺構実測図

第8号竪穴状遺構 (SK303) (第157図)

位置 調査区中央部のE 6e4区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長軸1.8m、短軸1.5mの長方形で、長軸方向はN-18°-Eである。壁高は35cmで南・北壁は外傾して立ち上がり、東・西壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、硬化面はみられない。

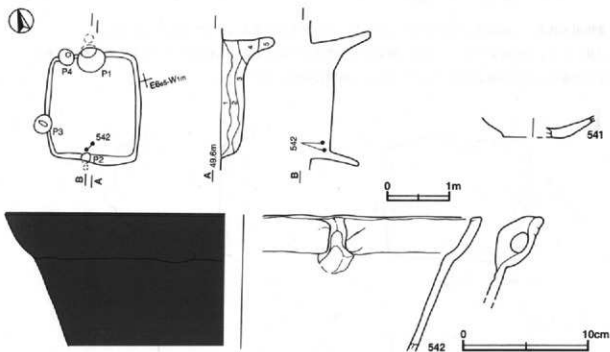
ピット 4か所。P1は深さ60cmで北壁の中央部に、P2は深さ50cmで南壁の中央部にあり、それぞれ対になっていることから柱穴に相当するものと考えられる。いずれも床面に対し外傾に掘り込まれている。また、P3、P4は深さ15~20cmで、性格は不明であるが本跡と同時期のものと考えられる。

覆土 5層からなり、ロームブロックを多く含んでいることや、炭化物を含んでいることから人為堆積と考えられる。第4・5層はピットの土層に相当する。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片20点、土師器片4点、須恵器片2点、土師質土器片18点が出土している。縄文土器片、土師器片、須恵器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。土師質土器片は外面に煤が付着した内耳鍋片15点（口縁3、体部12）、小皿片3点である。542は南側ピット2付近の覆土下層から出土している。所見 中世に特有な遺構形態であることや、542が覆土下層から出土していることから、時期は中世後半と考えられる。



第157図 第8号竪穴状遺構・出土遺物実測図

第8号竪穴状遺構出土遺物観察表（第157図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
541	土師質土器	小皿	-	(1.8)	4.6	赤色粘土・雲母	にひい黄褐色	普通	底部回転糸切り	覆土中	40%
542	土師質土器	内耳鍋	[37.8]	(10.8)	-	石英・長石・雲母	にひい黄褐色	普通	口縁部横ナデ	P2付近下層	5%

第9号竪穴状遺構（SK534）（第158図）

位置 調査区中央部のE714区に位置し、台地上の中央に立地している。

重複関係 第58・59・482号土坑を掘り込み、第23号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.9m、短軸1.6mの長方形で、長軸方向はN-57°-Eである。壁高は約50cmでほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、硬化面はみられない。

ピット 2か所。P1は深さ45cmで北壁の中央部に、P2は深さ105cmで南壁の中央部にあり、それぞれ対になっていることから柱穴に相当するものと考えられる。

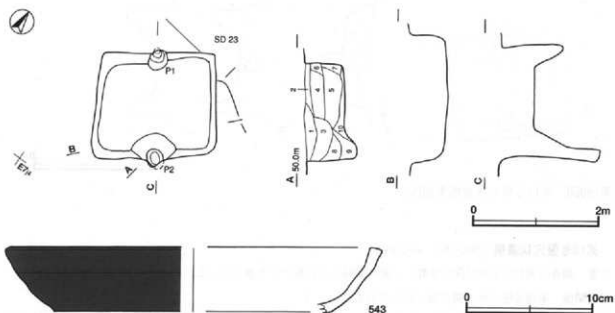
覆土 10層からなり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミスブロック少量、炭化粒子・粘土ブロック微量	5 暗褐色	ロームブロック中量、粘土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミスブロック中量
3 黒褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミス少量	7 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・鹿沼パミス・粘土粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミス少量
		9 暗褐色	ロームブロック中量
		10 暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミス・粘土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片55点、土師器片3点、須恵器片3点、土師質土器片27点が出土している。土師質土器片以外は人為堆積時の混入によるものと考えられる。土師質土器片は小皿片5点と内耳鍋片22点で、それぞれ口縁部形態の比較から複数個体出土している。小皿片は細片のため図示できなかった。

所見 中世に特有な遺構の形態であることや出土土器から、時期は中世後半と考えられる。



第158図 第9号堅穴状遺構・出土遺物実測図

第9号堅穴状遺構出土遺物観察表（第158図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
543	土師質土器	内耳鍋	[28.2]	5.1	[21.8]	長石・雲母	にぶい赤黒	普通	横ナデ	覆土中	5%

第11号堅穴状遺構（SK683）（第159図）

位置 調査区西部のE6d2区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第682・686号土坑を掘り込んでいます。

規模と形状 長軸2.0m、短軸1.7mの長方形で、長軸方向はN-88°-Wである。壁高は約12~18cmで外傾して立ち上がっている。

床 硬化面はみられないが、全体的に中央部が高くなっている。

ピット 2か所。P1は北壁の中央部に、P2は南壁の中央部にあり、深さはともに40cmほどで、それぞれ対になっていることから柱穴に相当するものと考えられる。

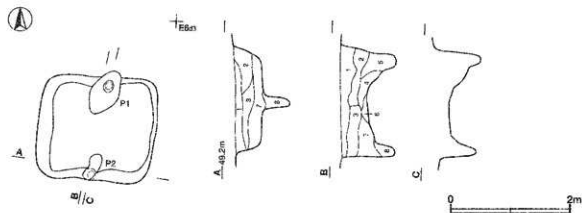
覆土 8層からなり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 基 礎 色	ロームブロック少量、密沼パミス微量	5 暗 褐色	ロームブロック少量
2 灰 褐色	ロームブロック少量	6 暗 褐色	ロームブロック少量
3 灰 褐色	ロームブロック少量、密沼パミス微量	7 黒 褐色	ロームブロック少量
4 暗 褐色	ロームブロック中量	8 暗 褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片7点、土師器片7点、須恵器片1点が出土している。遺物はすべて人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 中世に特有な遺構形態であることや、本跡のすぐ東側から同様の遺構が確認されていることから、時期は中世と考えられる。



第159図 第11号竪穴状遺構実測図

第13号竪穴状遺構 (SK820) (第160図)

位置 調査区東部のF107区に位置し、南に傾斜する台地上に立地している。

重複関係 第18号竪穴状遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.5m、短軸2.3mの長方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は北側の一番高い部分で約30cm確認されており、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、硬化面はみられない。西壁際に多少のくぼみが確認できるが性格は不明である。

ピット 2か所。P1は深さ60cmで北壁寄りの中央部に、また南壁側の対になる位置に深さ30cmのP2が確認されており、両者は柱穴に相当するものと考えられる。

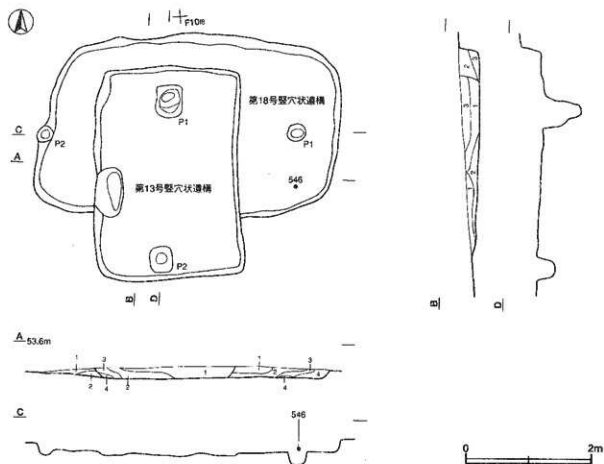
覆土 4層からなり、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗 褐色	ローム粒子・炭化粒子・密沼パミス少量、焼土ブロック微量	3 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 粉 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 明 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点、須恵器片1点が出土している。遺物はすべて人為堆積時の混入と考えられる。

所見 本跡の柱穴位置は壁に隣接しておらず、他の竪穴状遺構とは異なっている。時期は、第18号竪穴状遺構を掘り込んでいることから、中世後半と考えられる。



第160図 第13・18号竪穴状遺構実測図

第14号竪穴状遺構 (SK1815) (第161図)

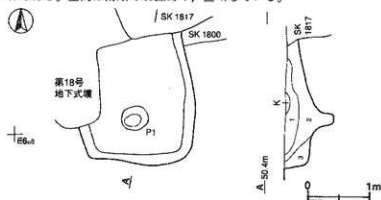
位置 調査区西部D 6J8区に位置し、台地上の南側に位置している。

重複関係 第18号地下式構、第1800・1817号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第1800号土坑に掘り込まれているため、南北方向は2.0mまで確認された。東西方向は1.8mで長方形と考えられる。長軸方向はN-10°-Wである。壁高は南壁で41cmあり、直立している。

床 平坦であるが北側に向かってスロープ状に高まっており、その途中の広い範囲に粘土の塊が確認されている。硬化面は確認されなかった。ピット 1か所。P1は南壁寄りの中央部にあり、深さは40cmである。

覆土 3層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。



第161図 第14号竪穴状遺構実測図

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 遺物は確認されなかった。

所見 遺物が確認されていないが、第13号竪穴状遺構と同形態と推測され、時期は中世と考えられる。

第15号竪穴状遺構 (SI27) (第162・163図)

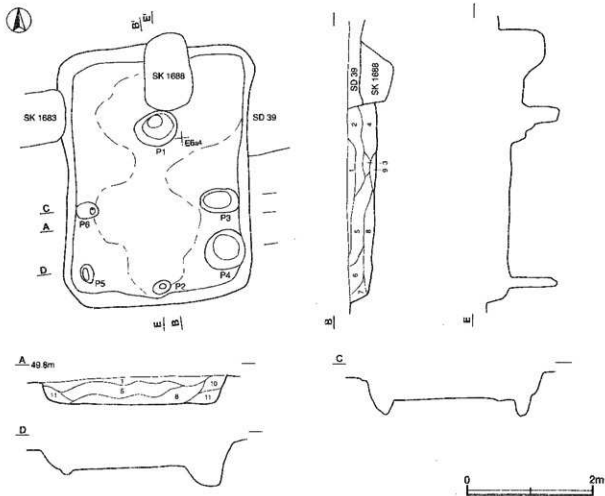
位置 調査区西部のE 6 a3区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 西壁を第1683号土坑に、北側を第39号溝、第1688号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.1m、短軸2.9mの長方形で、長軸方向はN-4°-Eである。壁高は約40cmで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面は東側のピットの内側部分と北東寄りの部分で確認された。

ピット 6か所。P1は北側の中央部に、P2は南側の中央部にあり、深さはともに75cmである。それぞれ対になっていることから柱穴に相当するものと考えられる。またP3、P6はともに深さが30cmで対になる位置にあることから、補助柱穴としての役割を果たしていたものと考えられる。P4、P5については性格不明である。



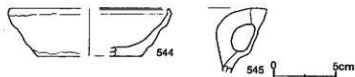
第162図 第15号竪穴状遺構実測図

覆土 11層からなり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説				
1	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・鹿沼バミスプロック微塵	5 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物・粘土ブロック微塵
2	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	7 黒褐色	ロームブロック微量
3	黒褐色	ロームブロック少量	8 黒褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量
4	暗褐色	ロームブロック中量	9 黒褐色	ロームブロック少量
5	黒褐色	ロームブロック中量	10 暗褐色	ロームブロック少量
			11 薄暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片47点、土師器片155点、須恵器片20点、土師質土器片3点（小皿2、内耳鍋1）、瓦質土器片1点が出土している。土師質土器片、瓦質土器片以外は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 他の竪穴状遺構と比較し規模が大きいが、壁が確認されていることやピットの対応関係等から1遺構と考えた。また、硬化面の広がり、一定期間生活空間として利用されたことをうかがわせる。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第163図 第15号竪穴状遺構出土遺物実測図

第15号竪穴状遺構出土遺物観察表（第163図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
544	土師質土器	小皿	[12.6]	3.8	[8.4]	赤色粘土・黒色粘土・灰母	浅黄橙	普通	底部削取未切り	覆土中	20%
545	土師質土器	内耳鍋	-	[5.3]	-	石英・長石・雲母	にぎり肌	普通	横ナデ、外面保存者	覆土中	5%

第18号竪穴状遺構（SI49）（第160・164図）

位置 調査区東部のF1077区に位置し、南に傾斜する台地上に立地している。

重複関係 第13号竪穴状遺構に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.6m、短軸3.0mの長方形である。長軸方向はN-83°-Wで、壁高は北側の一番高い部分が約30cmでほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で、硬化面はみられない。

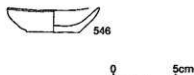
ピット 2か所。P1は深さ20cmで東壁寄りの中央部に、P2は深さ15cmで西壁の中央部にあり、それぞれ対になっていることから柱穴に相当するものと考えられる。

覆土 4層からなり、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説				
1	褐色	ローム粒子・鹿沼バミス少量、粘土粒子・炭化物微量	3 褐色	ローム粒子少量、炭化物微量
2	褐色	ローム粒子中量、炭化物少量、粘土粒子微量	4 明褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片46点、土師器片118点、須恵器片13点、土師質土器片1点（小皿）、陶器片1点が出土している。縄文土器片、土師器片、須恵器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。また、陶器片は小片のため図示できなかった。546は東側P1付近の床面から出土している。

所見 本跡の柱穴位置は壁に接してなく、他の竪穴状遺構と異なっている。主軸方向は異なるが、柱穴位置は重複関係にある第13号竪穴状遺構と同様である。時期は、出土土器や遺構の形態から中世と考えられる。



第164図 第18号竪穴状遺構出土遺物実測図

第18号竪穴状遺構出土遺物観察表 (第164図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
G46	土師製土器	小皿	7.2	2.1	4.2	灰石・赤色砂・黒砂	灰口	普通	底部回転成形後ナデ	P1付近埋藏	95% PL33

第19号竪穴状遺構 (SK53) (第165図)

位置 調査区中央部のE7c4区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第5号溝跡を掘り込み、上層部を第16・18・29号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸、短軸とも2.3mの方形で、柱穴を結ぶ線を軸線とした場合、長軸方向はN-15°-Eである。壁高は約53cmでほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、硬化面はみられない。

ピット 2か所。P1は深さ55cmで北側の中央部に、P2は深さ75cmで南側の中央部にあり、それぞれ対になっていることから柱穴に相当すると考えられる。

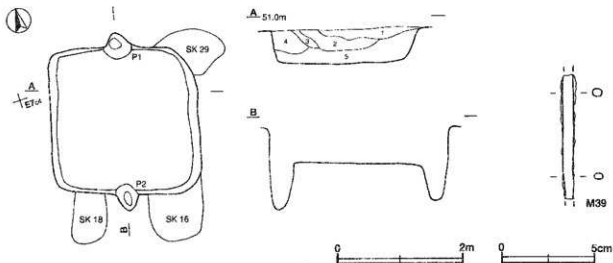
覆土 5層からなり、ロームブロックを多量に含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐色	ロームブロック多量	4	暗褐色	ロームブロック中量
2	灰褐色	ロームブロック中量	5	褐色	ローム粒子多量
3	灰褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況 土師器片57点、須恵器片9点、鉄製品1点(釘)、礫7点が出土している。土器はすべて人為堆積時の混入と考えられる。

所見 中世に特有な遺構形態であることから判断して、時期は中世と考えられる。



第165図 第19号竪穴状遺構・出土遺物実測図

第19号竪穴状遺構出土遺物観察表 (第165図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M39	釘	(6.6)	0.6	0.4	(4.9)	鉄	両端欠落	第十小	PL61

(3) 地下式墳

第1号地下式墳 (SK82) (第166図)

位置 調査区西部のD519区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 竪坑の西側を第186号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 竪坑は上面の長軸が1.5m、短軸が0.7m、底面の長軸が1.5m、短軸が0.6mで、上面と底面がほぼ等しい長方形を呈している。深さは竪坑の南側が80cm、主室側が90cmで、主室に向かって緩やかに傾斜している。底面はほぼ平坦で、壁は直立している。

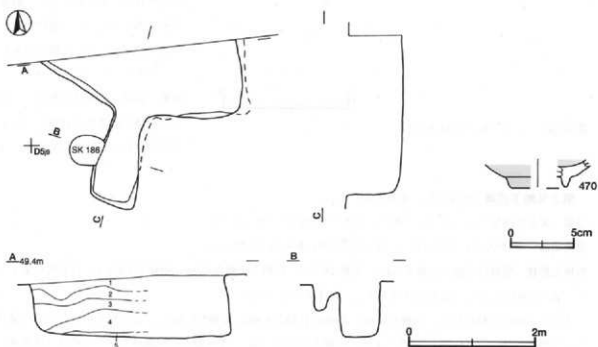
主室は北側が調査区域外となっているため、規模・形状は不明である。深さは85~100cmでやや東側が深い。主軸方向はN-17°-Eである。底面は平坦で壁はほぼ直立しているが、東壁側では内傾して立ち上がっている。

覆土 5層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説	
1 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒色	ロームブロック少量
3 褐色	ロームブロック多量
4 黒褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片19点、土師器片46点、須恵器片1点、磁器片1点(青磁碗)、鉄滓1点が出土している。遺物は天井部が崩落した際に混入したものと考えられる。

所見 遺構の形態が中世特有であり、周辺から同様の遺構が確認されていることから、時期は中世と考えられる。



第166図 第1号地下式墳・出土遺物実測図

第1号地下式墳出土遺物観察表 (第166図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
470	磁器	碗	-	(2.3)	[4.4]	-	灰白	-	オリーブ灰	青磁釉	-	-	覆土中	10%

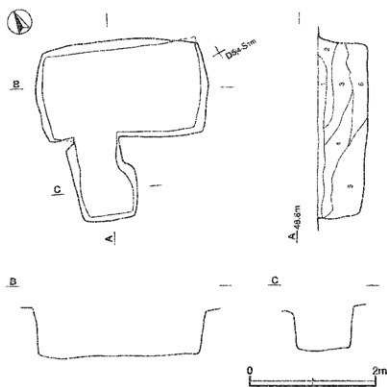
第2号地下式竈 (SK356) (第167図)

位置 調査区西部のD5J3区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第9号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 竈坑は上面の長軸が1.4m、短軸が1.0m、底面の長軸が1.3m、短軸が0.7mで、台形状を呈している。深さは70cmである。底面はほぼ平坦で壁は直立している。

主室は上面の長軸が2.7m、短軸が1.6m、底面の長軸が2.5m、短軸が1.4mで、台形状を呈している。深さは80cm前後で、北側がやや深い。主軸方向は $N-20^{\circ}-E$ である。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。



第167図 第2号地下式竈実測図

覆土 6層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第6層はロームブロックを多く含んでいることから、天井部が崩落したものと考えられる。

土層解説

- | | |
|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、
焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、
焼土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土
粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片3点、土師器片37点、須恵器片5点、越前片1点が出土している。遺物のほとんどは天井部が崩落した際に混入したものと考えられる。

所見 時期は、遺構の形態や、周辺から同様の遺構が確認されていることから中世と考えられる。

第3号地下式竈 (SK552) (第168図)

位置 調査区西部のE6e1区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第428号土坑を掘り込み、第551号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 竈坑は上面の長軸が1.4m、短軸が0.7m、底面の長軸が1.2m、短軸が0.6mで、台形状を呈している。深さは80cmである。底面はほぼ平坦で、壁は直立している。

主室は上面の長軸が4.0m、短軸が1.5m、底面の長軸が3.9m、短軸が1.4mで、長方形を呈している。深さは80cmで竈坑・主室ともほぼ同じ深さである。主軸方向は $N-85^{\circ}-W$ である。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

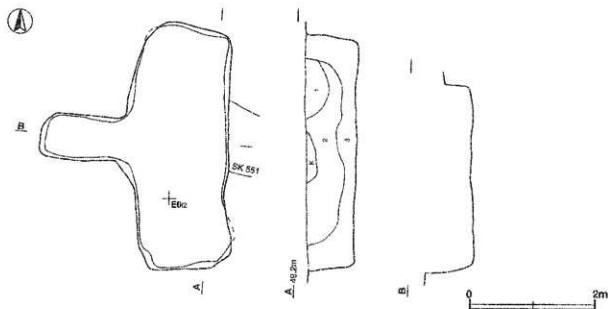
覆土 3層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。また、第3層はロームブロックを多量に含んでいることから、天井部が崩落したものと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 3 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片5点、土師器片9点、須恵器片1点が出土している。遺物のほとんどは天井部が崩落した際に混入したものと考えられる。

所見 時期は、遺構の形態や、周辺から同様の遺構が確認されていることから中世と考えられる。



第168図 第3号地下式塙実測図

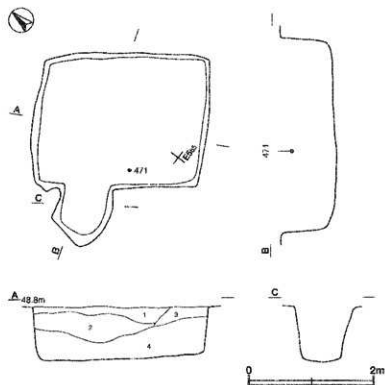
第4号地下式塙 (SK381) (第169・170図)

位置 調査区西部のE 5a4区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第16・55号住居跡、第8号溝跡をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状 堅坑は上面の長軸が0.9m、短軸が0.8m、底面は長軸・短軸とも0.7mで方形を呈し、深さは75cmである。底面はほぼ平坦で、壁は直立して立ち上がった後、外傾している。

主室は上面の長軸が2.8m、短軸が2.2m、底面の長軸が2.6m、短軸が2.0mで長方形を呈し、深さは80cmである。主軸方向はN-60°-Eである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。



第169図 第4号地下式塙実測図

覆土 4層からなり、ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。



0 5cm

第170図 第4号地下式竈出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
- 4 黒色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片9点、土師器片52点、須恵器片5点、土師質土器片4点（内耳鍋3、小皿1）、陶器片1点（壺）が出土している。471を含む遺物のほとんどは、埋め戻しの過程で混入したものと考えられる。

所見 時期は、平安時代の住居跡を掘り込んでいることや、遺構の形態などから中世と考えられる。

第4号地下式竈出土遺物観察表（第170図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
471	土師質土器	小皿	11.1	3.7	4.0	雲母	明黄褐色	普通	底部回転糸切り、内面ナデ	覆土上層	80%

第5号地下式竈（SK694）（第171図）

位置 調査区西部のE6d1区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第689号土坑を掘り込み、西側をピットに掘り込まれている。

規模と形状 竈坑は上面の長軸が1.1m、短軸が0.9m、底面の長軸が1.1m、短軸が0.8mで、長方形を呈している。深さは竈坑の南端が約90cmで、主室のある北側へ向かって10cmほど緩やかに下っている。底面はほぼ平坦で、壁は直立している。

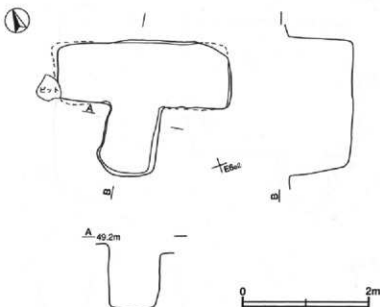
主室は上面の長軸が2.7m、短軸が0.9m、底面の長軸が2.8m、短軸が1.0mで、長方形を呈しており、深さは

100cmである。主軸方向はN-30°-Eである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 記録に残すことができなかったが、ロームブロックを多く含む黒褐色土を基調としていた。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 時期は、遺構の形態や、周辺から同様の遺構が確認されていることから中世と考えられる。



第171図 第5号地下式竈実測図

第6号地下式墳 (SK937) (第172図)

位置 調査区の中央部E7c2区に位置し、台地上の中央に立地している。

重複関係 第4号住居跡を掘り込み、東側は第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 竪坑は上面の長軸が1.4m、短軸が0.6m、底面の長軸が1.3m、短軸が0.5mで長方形を呈し、深さは65cmである。底面はほぼ平坦で、壁は直立している。

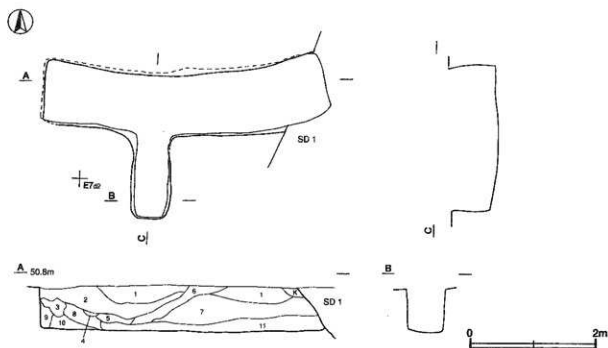
主室は上面の長軸が4.6m、短軸が0.9m、底面の長軸が4.5m、短軸が1.0mで長方形を呈し、深さは75cmである。主軸方向はN-0°で、竪坑より約10cm深く構築されている。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 11層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説	
1 黒色	ロームブロック少量、焼土ブロック、粘土ブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒微量
3 褐色	焼土ブロック多量
4 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
5 暗褐色	焼土ブロック多量
6 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、炭化物微量
7 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物・粘土ブロック微量
8 黒褐色	ロームブロック少量
9 黒褐色	ロームブロック中量
10 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
11 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片202点、土師器片226点、須恵器片21点が出土している。

所見 出土遺物はすべて人為堆積時の混入と考えられる。時期は、平安時代の住居跡を掘り込んでいること、遺構の形態等から中世と考えられる。



第172図 第6号地下式墳実測図

第7号地下式墳 (SK1063) (第173図)

位置 調査区西部のD613区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 竪坑を4か所確認した。竪坑1は主室の中央部に構築されており、上面の長軸が0.9m、短軸が0.8m、底面の長軸が0.7m、短軸が0.7mで、隅丸形状を呈している。深さは南端が40cmで主室に向かって20

cmほど傾斜している。底面はほぼ平坦で、壁は直立している。堅坑2は主室の南西コーナー部に位置し、深さは約80cmである。堅坑3は主室の南東コーナー部に位置し、深さは70cmである。堅坑2、3はコーナー部に位置しているため、規模・形状は不明である。堅坑4は主室の東壁に位置し、北側が調査区域外のため東方向に主室より50cm長いのを確認しただけである。また深さは東端が70cmで、主室側が約10cm深くなっている。

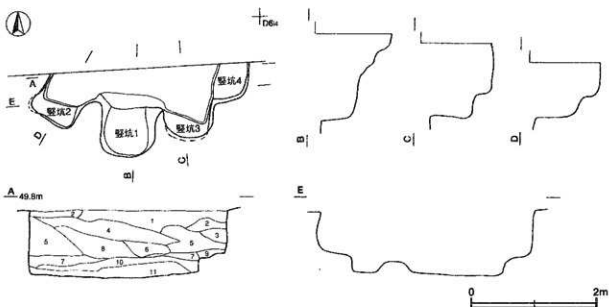
主室は北側が調査区域外となっているため、主室の規模・形状は不明である。深さは110cmで堅坑1より50cmほど深く掘り込まれている。主軸方向はN-5°-Eである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 14層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。また、第2・5・8・10層はロームブロックを多量に含むことから、天井部が崩落したものと考えられる。

土層解説					
1	粉色	ロームブロック中量、崩れバミス微量	7	褐色	ロームブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック多量	8	明褐色	ロームブロック多量
3	黒褐色	ロームブロック少量	9	暗褐色	ロームブロック少量
4	黒褐色	ロームブロック少量	10	褐色	ロームブロック多量
5	黒色	ロームブロック多量、焼土ブロック微量	11	暗褐色	ロームブロック少量
6	褐色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡は北側が調査区域外のため全容は確認できなかったが、各堅坑と主室の埋没土が連続していること、堅坑2、3、4の深さがほぼ同一であることから、主室に対し複数の堅坑をもつ地下式墳と考えられる。時期は、遺構の形態から中世と考えられる。



第173図 第7号地下式墳実測図

第8号地下式墳 (SK1071) (第174図)

位置 調査区西部のD6J6区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 北西コーナー部を第15号地下式墳に掘り込まれている。

規模と形状 堅坑は上面の長軸が1.2m、短軸が0.9m、底面の長軸が0.9m、短軸が0.6mで隅丸長方形を呈している。深さは85cmである。底面はほぼ平坦で、壁はやや外傾している。

主室は上面の長軸が2.8m、短軸が2.3m、底面の長軸が2.6m、短軸が2.0mで台形状を呈している。深さは95

cmで堅坑よりも10cm深い。主軸方向はN-7°-Eである。床は2段になっており中心部が約10cm低くなっている。また、壁は外傾して立ち上がっている。

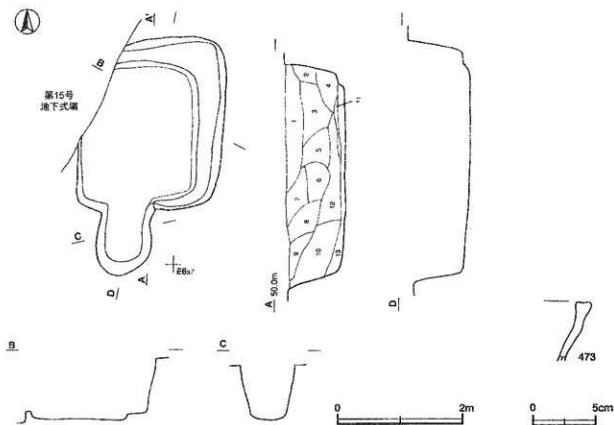
覆土 13層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 紫褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物散在	8 黒褐色	ロームブロック少量
2 褐色	ロームブロック中量	9 褐色	ロームブロック中量
3 紫褐色	ロームブロック少量	10 褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ロームブロック少量	11 紫褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	ローム粘土少量	12 黒褐色	ロームブロック少量
6 褐色	ロームブロック中量	13 紫褐色	ロームブロック多量
7 黒褐色	ロームブロック中量		

遺物出土状況 縄文土器片46点、土師器片44点、須恵器片11点、灰釉陶器片2点、土師質土器片1点（内耳鍋）が出土している。遺物のほとんどは人為堆積時に混入したものと考えられる。

所見 時期は、遺構の形態や周辺から同様の遺構が確認されていることから、中世と考えられる。



第174図 第8号地下式竈・出土遺物実測図

第8号地下式竈出土遺物観察表（第174図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
473	土師質土器	内耳鍋	-	(5.3)	-	石英・長石・雲母	に近い褐色	普通	口縁部横ナデ、外面煤付者	覆土中	5%

第9号地下式竈（SK1624）（第175図）

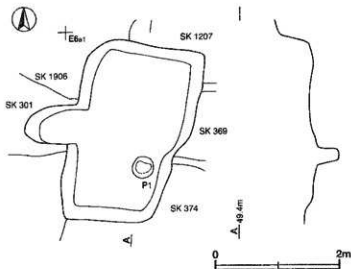
位置 調査区西部のE 6a1区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第369・1207号土坑に掘り込まれている。また、第301・374・1906号土坑と重複しているが新旧関係

は不明である。

規模と形状 竪坑は上面の長軸が1.0m、短軸が0.6m、底面の長軸が0.7m、短軸が0.5mで隅丸長方形を呈している。

主室は上面の長軸が2.9m、短軸が1.9m、底面の長軸が2.5m、短軸が1.5mで台形状を呈している。深さは60



cmである。主軸方向は $N-81^{\circ}-W$ である。壁はやや外傾して立ち上がっている。また、底面の南東寄りにピットが確認されたが、本跡に伴うものであるかどうかは不明である。

覆土 記録に残すことができなかったが、ロームブロックを多く含む黒褐色土を基調としていた。

遺物出土状況 遺物は出土していない。
所見 時期は、遺構の形態や周辺から同様の遺構が確認されていることから、中世と考えられる。

第175図 第9号地下式坑実測図

第12号地下式坑 (SK1678) (第176図)

位置 調査区西部のD612区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1623・1677号土坑を掘り込み、上層部を第39号溝に掘り込まれている。

規模と形状 竪坑は上面の長軸が1.1m、短軸が0.6m、底面の長軸が1.1m、短軸が0.5mの不定形である。上面が第39号溝に掘り込まれているが、確認面からの深さは120cmで、壁は直立している。

主室は、竪坑の北側全体が主室で不定形である。上面の東西方向の最大長は2.6m、南北方向の最大長は3.2mである。深さは主室入り口付近で110cm、北壁側で90cmと徐々に浅くなっている。底面はほぼ平坦で、壁は一部内傾している部分があるが、全体的には外傾して立ち上がっている。主軸方向は $N-0^{\circ}$ である。

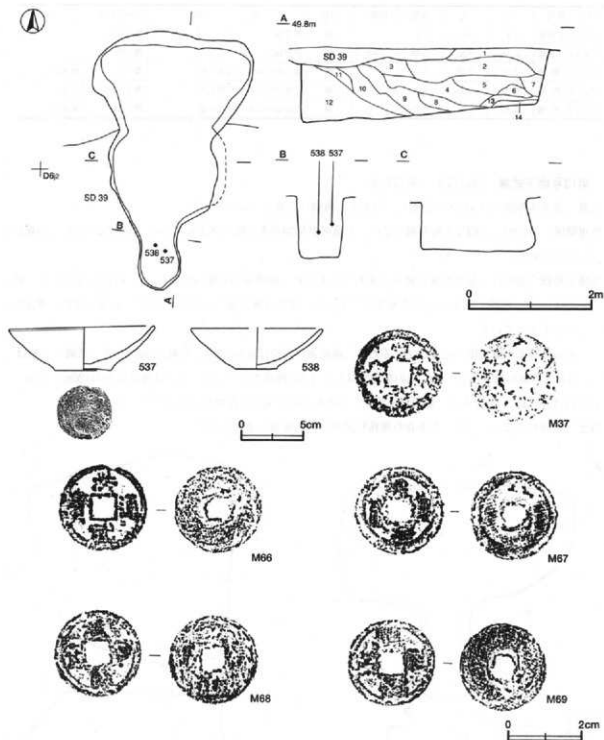
覆土 14層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。また、第6・7・8・9層はロームブロックを多量に含むことから、天井部が崩落したものと考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量	8 暗褐色	ロームブロック中量
2 黒色	ロームブロック微量	9 暗褐色	ロームブロック多量
3 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	10 黒色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭屑・ガラスブロック微量
4 黒褐色	ロームブロック少量、焼土・炭屑・炭化粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック・炭屑・ガラスブロック少量
5 黒褐色	ロームブロック少量	12 暗褐色	ロームブロック中量、炭屑・ガラスブロック少量
6 暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量	13 黒色	ロームブロック少量
7 褐色	ロームブロック多量	14 暗褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片14点、土師器片21点、須恵器片3点、土師質土器片8点(内耳銅片6、小皿2)、古銭5点が出土している。遺物のほとんどは天井部が崩落した際に混入したものと考えられる。537と538はともに竪坑ほぼ中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、遺構の形態などから中世と考えられる。



第176図 第12号地下式墳・出土遺物実測図

第12号地下式墳出土遺物観察表 (第176図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
537	土師質土器	小皿	11.6	3.6	4.6	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	底部刷毛切り	壱坑中層	95% PL53
538	土師質土器	小皿	[10.5]	3.3	3.4	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	底部刷毛切り後ナデ	壱坑中層	40%

番号	銭名	径	孔	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M37	□心通貨	2.4	0.6	1.4	-	銅	無背銭	覆土中	PI.62
M65	洪武通寶	2.35	0.53	2.88	1368	銅	無背銭	覆土中	
M67	不明銭	2.35	0.57	2.16	-	銅	文字がつぶれて判読不能	覆土中	渡米銭
M68	不明銭	2.35	0.63	3.06	-	銅	文字がつぶれて判読不能	覆土中	渡米銭
M69	不明銭	2.33	0.56	2.72	-	銅	文字がつぶれて判読不能	覆土中	渡米銭

第13号地下式竈 (SK1679) (第177図)

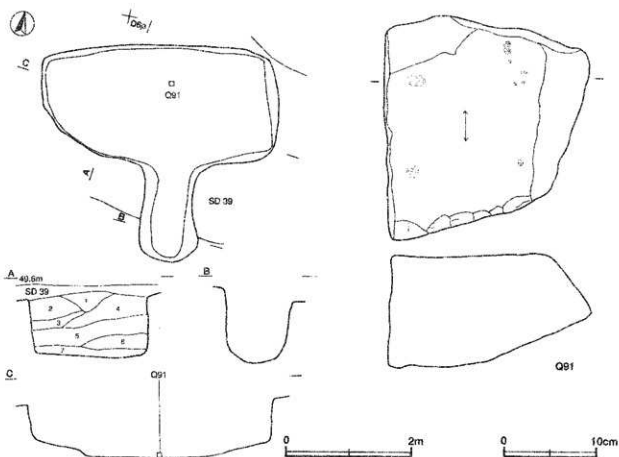
位置 調査区西部のD 6J3区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1680・1683号土坑を掘り込み、上層部が第39号溝に掘り込まれている。第1623号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 竈坑は上層部が溝に掘り込まれているため、確認面の規模は長軸1.5m、短軸0.8mである。底面の長軸は1.4m、短軸が0.5mで、長方形を呈している。深さは確認面から120cmである。底面は皿状で壁は外傾して立ち上がっている。

主室は上層部が溝に掘り込まれているため、確認面の規模は長軸3.8m、短軸1.9mである。底面の長軸は3.5m、短軸は両側が最も短く0.7m、他の部分では1.5～1.8m確認されている。深さは確認面から120cmである。主軸方向はN-11°-Wである。底面は平坦で、中央部に対し東側と西側が10cmほど高くなっている。

覆土 7層からなり、ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。



第177図 第13号地下式竈・出土遺物実測図

土層解説								
1	黒褐色	色	ロームブロック少量		5	黒褐色	色	ロームブロック少量
2	黒褐色	色	ロームブロック少量、炭化物微量		6	暗褐色	色	ロームブロック少量
3	黒褐色	色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量		7	褐色	色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量
4	黄褐色	色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量					

遺物出土状況 縄文土器片28点、土師器片35点、須恵器片6点、土師質土器片4点（内耳鍋）、石器1点（砥石）が出土している。Q91は主室の底面から出土しているが、遺物のほとんどは人為堆積時の混入である。

所見 時期は、遺構の形態や周辺から同様の遺構が確認されていること、また内耳鍋が出土していることから中世と考えられる。

第13号地下式竈出土遺物観察表（第177図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q91	砥石	23.1	21.1	11.8	7350.0	砂岩	両使用、たたき台としても使用	主室底面	

第14号地下式竈（SK1689）（第178図）

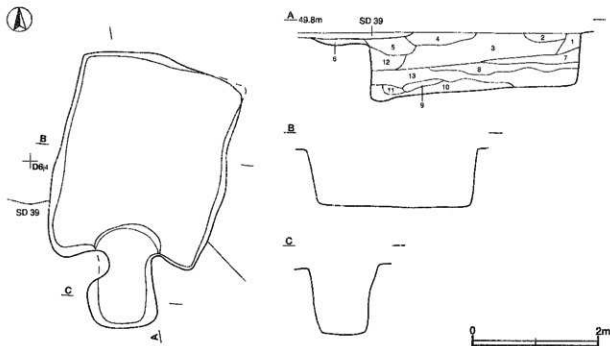
位置 調査区の西部D6J4区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 主室の南側部分から竈坑にかけて第39号溝に掘り込まれている。

規模と形状 竈坑は上面の長軸が1.6m、短軸が1.0m、底面の長軸が1.5m、短軸が0.7mで長方形を呈し、深さは110cmで主室の南壁中央部に構築されている。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

主室は上面の長軸が3.4m、短軸が2.7m、底面の長軸が3.1m、短軸が2.5mで長方形を呈し、深さは90cmほどである。主軸方向はN-7°-Eで、竈坑より約20cm浅く構築されている。底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 13層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。また、第8層はロームブロックを多量に含んでいることから、天井部が崩落したものと考えられる。



第178図 第14号地下式竈実測図

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック中量
3	黒色	ロームブロック微量
4	明褐色	ロームブロック多量
5	黒褐色	ロームブロック少量
6	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
7	黒褐色	ロームブロック少量

8	褐色	ロームブロック多量
9	暗褐色	ロームブロック少量
10	黒褐色	ローム粒子少量
11	黒褐色	ロームブロック微量
12	暗褐色	ロームブロック少量
13	暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片10点、土師器片6点、土師質土器片2点（内耳鍋）、瓦質土器片1点（鉢）が出土している。遺物のほとんどは、人為堆積時の混入と考えられる。

所見 時期は、遺構の形態などから中世と考えられる。

第15号地下式竈（SK1691）（第179・180図）

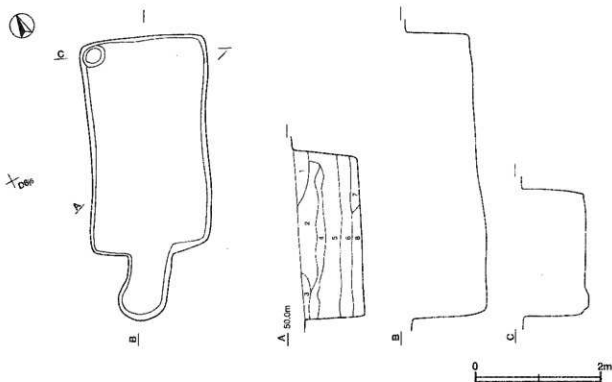
位置 調査区西部のD6J6Kに位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第28号住居跡、第8号地下式竈を掘り込んでいる。

規模と形状 竈坑は上面の長軸が1.1m、短軸が0.7m、底面の長軸が0.9m、短軸が0.5mで隅丸長方形を呈している。深さは確認面から120cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

主室は上面の長軸が3.5m、短軸が1.9m、底面の長軸が3.4m、短軸が1.8mで長方形を呈している。深さは約110cmで竈坑から主室に向かって緩やかに立ち上っている。主軸方向はN-32°-Eである。底面は平坦で、壁は直立している。また、北西コーナー部に深さ10cmほどのピット状のくぼみを確認した。

覆土 8層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。第2・5・8層がロームブロックを多量に含んでおり、黒色中心の土層と交互に堆積している。



第179図 第15号地下式竈実測図

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	5	褐色	ロームブロック多量、炭屑・バミスブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック中量、炭屑・バミスブロック少量	6	黒褐色	ロームブロック少量
3	黒色	ロームブロック微量	7	暗褐色	ロームブロック中量
4	黒色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	8	暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片24点、土師器片22点、須恵器片5点、土師質土器片2点（内耳鍋）、陶器片2点（片口鉢、甕）、管状土鍾1点が出土している。遺物のほとんどは人為堆積時に混入したものと考えられる。

所見 時期は、遺構の形態などから中世と考えられる。



第180図 第15号地下式横出土遺物実測図

第15号地下式横出土遺物観察表（第180図）

番号	番質	器種	口径	器高	底径	胎土	色澤	胎付	釉色	加塗	産地	年代	出土位置	備考
475	陶器	片口鉢	127.0	66.4	-	石英・長石・微塵	明赤褐色	-	-	-	常滑	15世紀後半	覆土中	5%

番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	器	器	出土位置	備考
DP5	管状土鍾	3.9	1.6		(7.2)	円筒状	外面ナデ	覆土中	PL57

第16号地下式横 (SK1731) (第181図)

位置 調査区中央部のE7g1区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第41号溝に西側を、また堅坑の一部をピットに掘り込まれている。

規模と形状 堅坑は第41号溝に上層部を掘り込まれているため、確認面の規模は長軸1.0m、短軸0.7m、底面の長軸が0.7m、短軸が0.5mで長方形を呈しており、深さが確認面から約80cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

主室は、上面の長軸が3.7mで、短軸は第41号溝に一部を掘り込まれているが、約2.3mと推測される。底面は長軸が3.3m、短軸が1.9mで長方形を呈している。深さは90cmで堅坑より10cmほど深くなっている。主軸方向はN-83°-Wである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

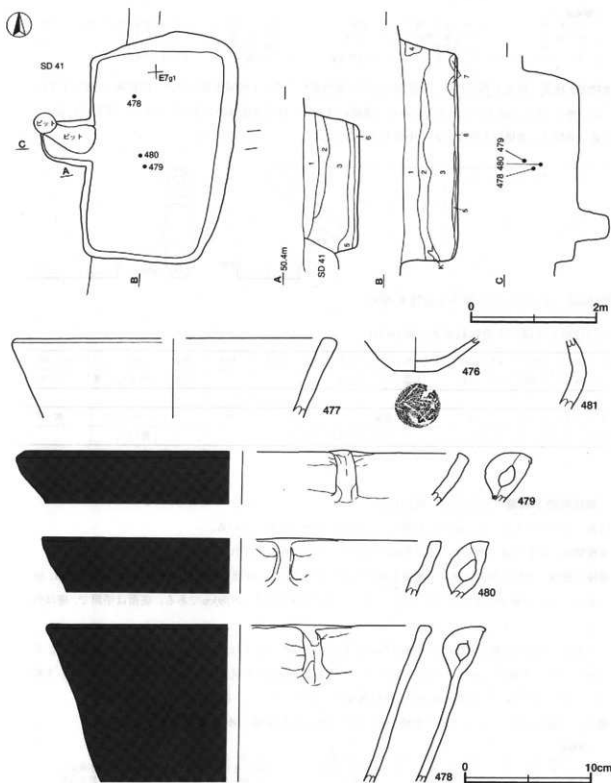
覆土 7層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1	灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	5	黒褐色	ロームブロック微量
2	灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	6	暗褐色	粘土粒子中量、ローム粒子微量
3	黒色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	7	黒褐色	炭屑・バミス少量、ローム粒子微量
4	褐色	ローム粒中量			

遺物出土状況 縄文土器片353点、土師器片123点、須恵器片14点、土師質土器片57点（内耳鍋52、小皿1、鉢4）、瓦質土器片1点、陶器片1点（甕が）が出土している。478は北側の覆土中層から、479は中央部の覆土上層から、480は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。遺物の大半は、自然堆積に伴う後世の混入と考えられる。

所見 時期は、遺構の形態などから、中世と考えられる。



第181図 第16号地下式墳・出土遺物実測図

第16号地下式墳出土遺物観察表 (第181図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
476	土師質土器	小皿	—	(2.7)	3.4	長石・赤色粒子・黒母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	50%
477	土師質土器	鉢	[25.1]	(6.2)	—	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	ナデ	覆土中	5%
478	土師質土器	内耳罎	[30.2]	(12.5)	—	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	ナデ	中層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
479	土師瓦土器	内耳鍋	[34.4]	(4.2)	—	石英・長石・雲母	浅黄緑	普通	横ナデ	上層	5%
480	土師瓦土器	内耳鍋	[31.4]	(4.5)	—	石英・長石・雲母	にぶい黄緑	普通	ナデ	中層	5%

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	軸色	粘薬	産地	年代	出土位置	備考
481	陶器	壺	—	(5.6)	—	長石	にぶい黄緑	—	—	一部白熟粉	常滑	—	覆土中	5%

第17号地下式竈 (SK1802) (第182図)

位置 調査区西部のD 6 h9区に位置し、台地上の南側に立地している。

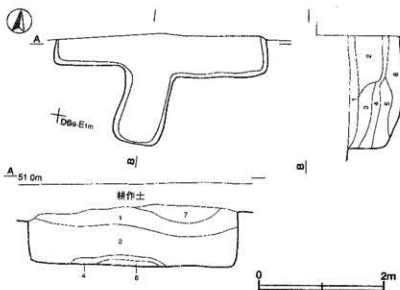
規模と形状 竈坑は上面の長軸が1.2m、短軸が0.7m、底面の長軸が1.1m、短軸が0.6mで長方形を呈している。深さは南側が60cmで、北側の主室に接する部分が80cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

主室は北側が調査区域外となっているため、上面の規模は東西方向が長軸で3.4m、南北方向は0.6mまでしか確認できなかった。底面も同様に東西方向が3.2m、南北方向が0.6mまでしか確認できなかったが、長方形を呈しているものと推測される。深さは90cmで、竈坑の南端から主室に向かって下ったあと平坦面を維持しているものと考えられる。主軸方向はN-6°-Eである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 7層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・鹿沼パミスブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・鹿沼パミスブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミス・炭化粒子・鹿沼パミスブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量
- 7 黒褐色 ロームブロック・炭化物・鹿沼パミス少量、炭化物少量



遺物出土状況 縄文土器片4点、土師器片2点が出土している。土器はすべて人為堆積時の混入と考えられる。

所見 時期は、遺構の形態や近辺から同様の遺構が確認されていることから、中世と考えられる。

第182図 第17号地下式竈実測図

第18号地下式竈 (SK1813) (第183図)

位置 調査区西部のD 6 j8区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第14号竈穴状遺構を掘り込み、第1814・1817号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 竈坑は上面の長軸が1.2m、短軸が0.8m、底面の長軸が1.1m、短軸が0.7mで長方形を呈している。深さは80cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

主室は上面の長軸が2.5m、短軸が2.0m、底面の長軸が2.4m、短軸が2.0mで、深さは80cmである。主軸方向

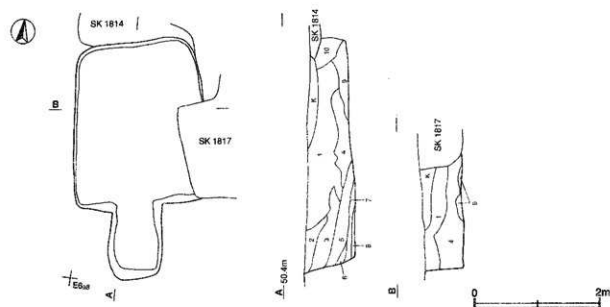
はN-8°-Wである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 10層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説	
1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
4 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
6 黒褐色	ロームブロック少量、炭化バミスブロック微量
7 黒褐色	ロームブロック中量、炭化バミスブロック少量
8 黒褐色	炭化バミスブロック少量
9 黒褐色	ロームブロック少量、炭化バミスブロック微量
10 黒褐色	ロームブロック・炭化バミスブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片3点、土師器片2点、須恵器片1点が出土している。土器はすべて人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 時期は、遺構の形態や周辺から同様の遺構が確認されていることから、中世と考えられる。



第183図 第18号地下式構実測図

第19号地下式構 (SK1816) (第184図)

位置 調査区西部D 619区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1800号土坑に掘り込まれている。

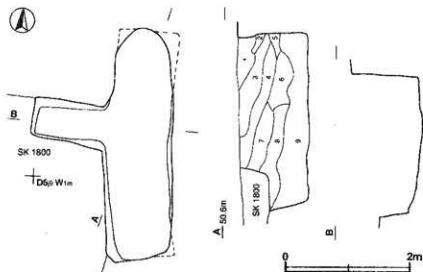
規模と形状 壁坑は上面の長軸が1.2m、短軸が0.7m、底面の長軸が1.1m、短軸が0.5mで長方形を呈している。確認面からの深さは93cmで、東側の主室に向かってスロープ状に傾斜している。床面はほぼ平坦で、壁は直立している。

主室は上面の長軸が3.7m、短軸が1.1m、底面の長軸が3.7m、短軸が1.0mで、長方形を呈し、北側の天井部が一部残存している。深さは115cmで、主軸方向はN-87°-Wである。底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 9層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。また、第9層はロームブロックを多量に含んでいることから、天井部が崩落したものと考えられる。

土層解説	
1 黒褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック中量、炭土ブロック・炭化物微量
4 に近い褐色	ロームブロック多量
5 黒褐色	ロームブロック少量
6 黒褐色	ロームブロック中量
7 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
8 黒褐色	ロームブロック少量
9 黒褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片12点、土師器片7点、須恵器片1点が出土している。遺物はすべて天井部が崩落した際に混入したものと考えられる。所見 時期は、遺構の形態や周辺から同様の遺構が確認されていることから、中世と考えられる。



第184図 第19号地下式構実測図

第20号地下式構 (SK1819) (第185図)

位置 調査区西部のD 6J7区に位置し、台地上の南側に立地している。

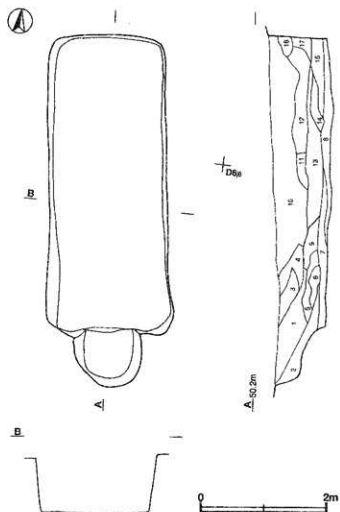
規模と形状 竪坑は上面の長軸が1.1m、短軸が0.9m、底面の長軸が0.8m、短軸が0.7mで隅丸方形を呈している。底面はスロープ状に主室に向かって傾斜しており、深さは南側が40cm、北側が80cmである。また、壁は外傾して立ち上がっている。

主室は上面の長軸が4.7m、短軸が1.9m、底面の長軸が4.6m、短軸が1.7mで、長方形を呈している。深さが約100cmで、主軸方向は $N-4^{\circ}-W$ である。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 17層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。また、第8層はロームブロックを多量に含んでいることから、天井部が崩落したものと考えられる。

土層解説

- | | |
|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 8 褐色 | ロームブロック多量、鹿沼パミスブロック少量 |



第185図 第20号地下式構実測図

9	黒褐色	ロームブロック少量	14	褐色	ロームブロック多量
10	黒褐色	炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量	15	灰褐色	ロームブロック少量
11	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	16	褐色	ロームブロック少量
12	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	17	暗褐色	ロームブロック中量
13	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量			

遺物出土状況 縄文土器片14点、土師器片18点、須恵器片7点、石製品1点(砥石)が出土している。遺物のほとんどは天井部が崩落した際に混入したものと考えられる。

所見 時期は、遺構の形態や周辺から同様の遺構が確認されていることから、中世と考えられる。

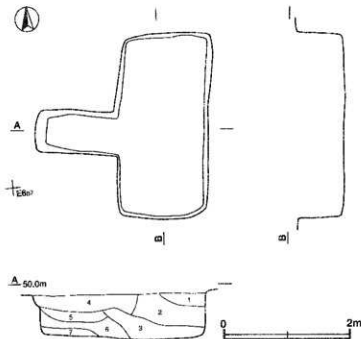
第21号地下式墳 (SK1881) (第186図)

位置 調査区西部のE 6a7区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 竪坑は上面の長軸が1.3m、短軸が0.7m、底面の長軸が1.1m、短軸が0.6mで長方形を呈している。深さは70cmである。底面はほぼ平坦で、壁は直立している。

主室は上面の長軸が3.0m、短軸が1.5m、底面の長軸が2.9m、短軸が1.4mで、長方形を呈している。深さは主室・竪坑とも70cmで、ほぼ同じである。主軸方向はN-81°Wである。底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 7層からなり、ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。また、第2層はロームブロックを多量に含んでいることから、天井部が崩落したものと考えられる。



第186図 第21号地下式墳実測図

土層解説

1	赤褐色	ロームブロック中量、鹿沼 パミスブロック少量
2	褐色	ロームブロック多量、鹿沼 パミスブロック少量
3	黒褐色	ロームブロック少量、焼土 ブロック・炭化物少量
4	褐色	ロームブロック中量、鹿沼 パミスブロック微量
5	黒褐色	ロームブロック・焼土プロ ック・炭化物微量
6	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
7	黒褐色	ロームブロック少量、炭化 粒子微量

遺物出土状況 土師器片26点が出土している。土器はすべて天井部が崩落した際に混入したものと考えられる。

所見 時期は、遺構の形態や周辺から同様の遺構が確認されていることから、中世と考えられる。

(4) 井戸跡

第1号井戸跡 (第187・188図)

位置 調査区中央部のF 7c8区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第448号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.2mほどの円形で、円筒状に掘り込まれている。湧水のため、深さは136cmまでしか確認でき

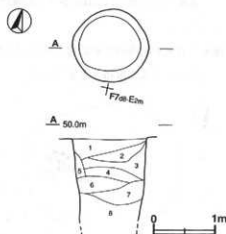
なかった。

覆土 8層までを確認した。ロームブロックを多く含むブロック状の堆積状況を示していることから、人為堆積と考えられる。

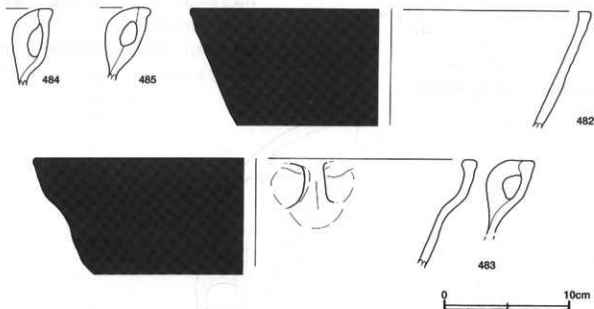
土層解説	
1	褐色 ロームブロック中量、産泥バミスブロック少量
2	褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
3	黒褐色 ロームブロック多量
4	極暗褐色 ロームブロック少量、炭化材微量
5	黒褐色 ロームブロック少量
6	黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・粘土ブロック微量
7	暗褐色 ロームブロック多量、炭化材微量
8	黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片23点、土師質土器片28点（内耳鍋27，搦鉢1），礫2点が出土している。土師質土器片は全体的に覆土下層から出土している。また、土師器片も出土しているが、人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 出土した内耳鍋片は口縁部の形状から6種類ほどに分類でき、全体的に深手のタイプと考えられる。時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第187図 第1号井戸跡実測図



第188図 第1号井戸跡出土遺物実測図

第1号井戸跡出土遺物観察表（第188図）

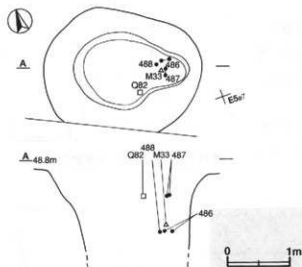
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
482	土師質土器	内耳鍋	[31.7]	(9.4)	-	石英・長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	横ナデ	覆土中	10%
483	土師質土器	内耳鍋	[35.0]	(8.7)	-	石英・長石・雲母	褐色	普通	ナデ	覆土中	5%
484	土師質土器	内耳鍋	-	(6.2)	-	石英・長石・雲母	にぶい褐色	普通	ナデ、外面保付卷	覆土中	5%
485	土師質土器	内耳鍋	-	(5.9)	-	石英・長石・赤色粒子・雲母	にぶい赤褐色	普通	ナデ、外面保付卷	覆土中	5%

第4号井戸跡 (第189～191図)

位置 調査区西部のE5d6区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 南側が調査区域外となっているため東西軸2.6m、南北軸1.9mまで確認され、楕円形と考えられる。湧水のため深さは150cmまでしか確認できず、確認面から70cmまでは漏斗状を呈し、下方は円筒状に掘り込まれている。

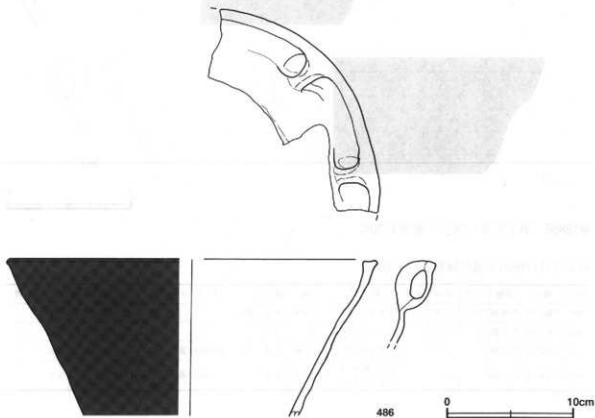
覆土 湧水や崩落のため記録に残すことができなかったが、ロームブロックを多く含む灰褐色土を基調としていたことから人為堆積と考えられる。



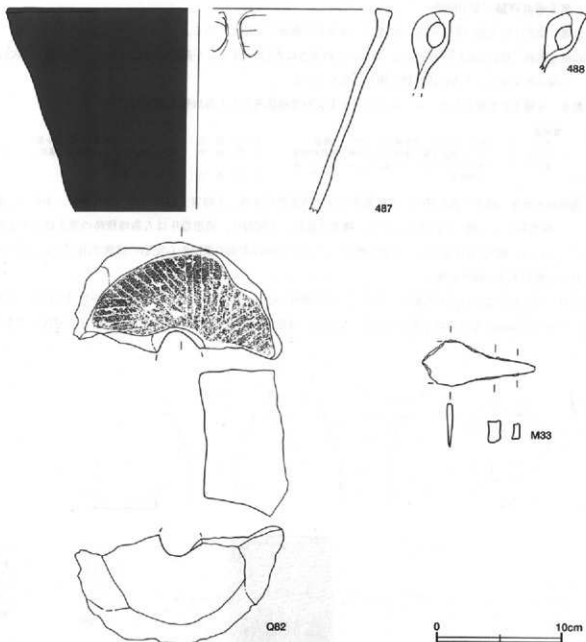
第189図 第4号井戸跡実測図

遺物出土状況 縄文土器片4点、土師器片10点、須恵器片2点、土師質土器片30点(内耳鍋)、鉄製品1点(刀カ)、石器1点(石臼)、礫5点が出土している。縄文土器片、土師器片、須恵器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。土師質土器片はすべて体部に煤が付着した内耳鍋片で、口縁から体部にかけての形状から2、3種類に分類できる。486と488は、ともに確認面から1.2mの深さから出土している。487とQ82は、確認面から60cmの深さから出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半から16世紀代と考えられる。



第190図 第4号井戸跡出土遺物実測図(1)



第191図 第4号井戸跡出土遺物実測図②

第4号井戸跡出土遺物観察表 (第190・191図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
486	土師質土器	内耳鍋	[29.2]	(12.4)	—	石英・長石・雲母	にぶい赤黒	普通	ナデ	確認面から1.2m	10%
487	土師質土器	内耳鍋	[30.5]	(16.4)	—	長石・雲母	にぶい赤黒	普通	ナデ	確認面から0.6m	10%
488	土師質土器	内耳鍋	—	(5.0)	—	長石・赤色軟子・雲母	にぶい赤黒	普通	ナデ、外面黒付着	確認面から1.2m	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q82	石	—	16.7	11.5	(1540.0)	安山岩	主溝は6分測々(副溝8本)	確認面から0.6m	下臼、孔径3.1

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M33	刀々	(9.1)	3.7	1.4	(31.5)	鉄	刀身欠落	確認面から1.2m	基部のみ残存

第5号井戸跡 (第192図)

位置 調査区中央部のF8c4区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 径1.3mほどの円形で、涌水のため深さは約120cmまでしか確認できなかった。確認面から80cmまでは漏斗状を呈し、下方は円筒状に掘り込まれている。

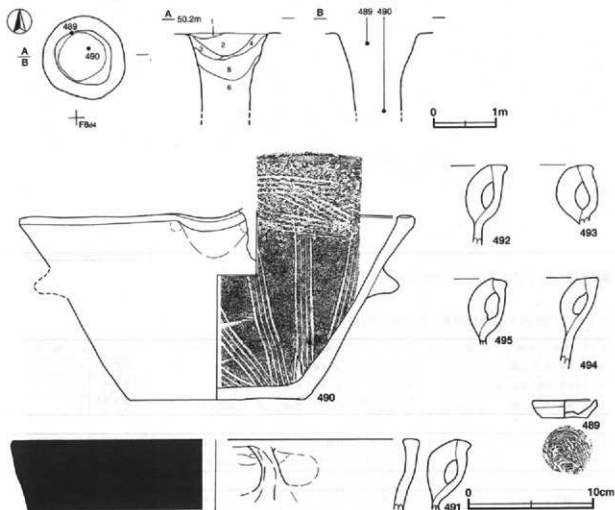
覆土 6層までを確認した。ロームブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 褐色	炭沼バミスブロック少量、ロームブロック微量	4 灰褐色	ローム粒子中量、炭沼バミス少量
2 灰褐色	ローム粒子中量、炭沼バミス少量、炭化材微量	5 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・炭沼バミスブロック・粘土粒子微量
3 褐色	炭沼バミスブロック中量、ロームブロック・炭化物微量	6 暗褐色	ローム粒子多量

遺物出土状況 縄文土器片10点、土師器片10点、須恵器片3点、土師質土器片51点(内耳鍋47、小皿3、摺鉢1)、陶器片1点(甕)が出土している。縄文土器片、土師器片、須恵器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。490は第6層中から正位で出土している。489は北側の壁際から完形の状態で出土している。内耳鍋は比較的大きな破片が多い。

所見 内耳鍋片は口縁部の形状から少なくとも5個体が出土している。また、本跡出土の常滑片口鉢片と同一個体片が約50m西方の第41号溝から出土している。時期は、出土土器から15世紀後半から16世紀代と考えられる。



第192図 第5号井戸跡・出土遺物実測図

第5号井戸跡出土遺物観察表 (第192図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
489	土師質土器	小皿	5.2	1.5	3.6	赤色粘土	にんい黄帯	普通	底縁部細糸切り	第2層中	100% PL53
490	土師質土器	鐏鉢	31.5	15.2	14.2	石灰・黒母・小塵	明褐色	普通	4条1单位の横り目、体部外面に突起	第6層中	70% PL53
491	土師質土器	内耳銅	[32.1]	(5.8)	-	石灰・黒母・石灰・赤色粘土・黒母	にんい橙	普通	ナデ	覆土中	5%
492	土師質土器	内耳銅	-	(6.4)	-	石灰・赤色粘土・黒母	にんい橙	普通	ナデ、外面張付着	覆土中	5%
493	土師質土器	内耳銅	-	(4.7)	-	石灰・長石・雲母	にんい橙	普通	ナデ、外面張付着	覆土中	5%
494	土師質土器	内耳銅	-	(7.3)	-	石灰・長石・雲母	にんい橙	普通	ナデ、外面張付着	覆土中	5%
495	土師質土器	内耳銅	-	(5.3)	-	石灰・長石・雲母	にんい赤黒	普通	ナデ、外面張付着	覆土中	5%

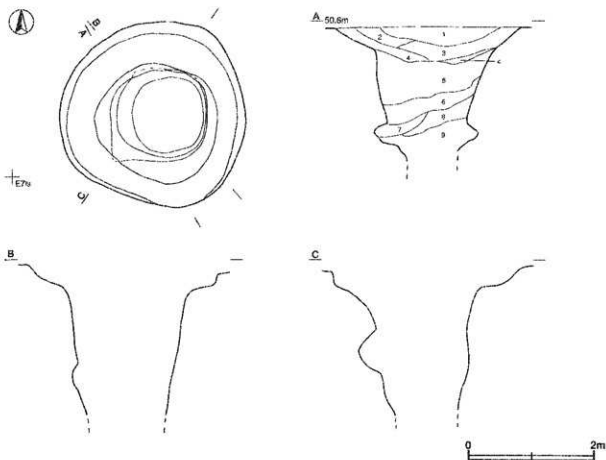
第6号井戸跡 (第193図)

位置 調査区中央部のE7e3区に位置し、台地上の中央に立地している。

重複関係 第5号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径3mほどの円形で、涌水のため深さは230cmまでしか確認できなかった。確認面から30cmまでは漏斗状を呈し、それ以下は円筒状に掘り込まれている。確認面から120cm掘り下げた位置から下方に向かい殺筒所、壁を掘り込んでいる部分を確認した。

覆土 9層までを確認した。ロームブロックを多量に含んでいることから人為堆積と考えられる。



第193図 第6号井戸跡実測図

土層解説					
1	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	6	黒褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック少量
3	極暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	黒色	ロームブロック中量
4	極暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	9	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
5	褐色	ロームブロック多量			

遺物出土状況 縄文土器片244点、土師器片120点、須恵器片12点、土師質土器片6点(甕1, 鉢4, 小皿1), 陶器片2点(甕), 礫18点が出土している。土器は細片のため図示することができなかった。また、縄文土器片、土師器片、須恵器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 第5号溝跡を掘り込んでいること、土師質土器片や陶器片が出土していることから、時期は中世後半と考えられる。

第7号井戸跡 (第194~196図)

位置 調査区中央部のE7b2区に位置し、台地上の中央に立地している。

重複関係 第6号住居跡, 第8号井戸跡を掘り込んでいる。

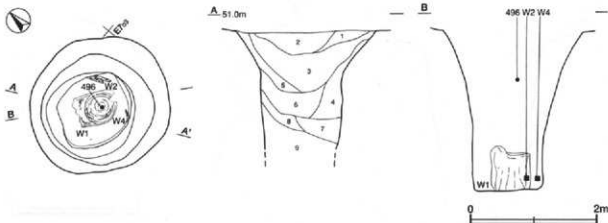
規模と形状 径2.1mほどの円形で、深さは約253cmである。確認面から70cmまでは漏斗状を呈し、それ以下は円筒状に掘り込まれている。

覆土 9層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

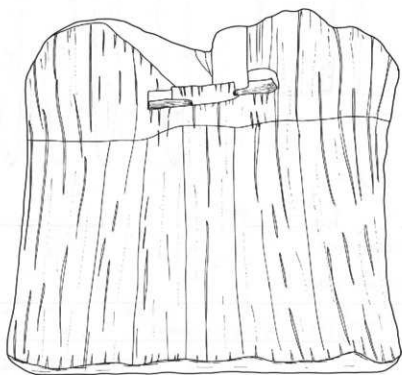
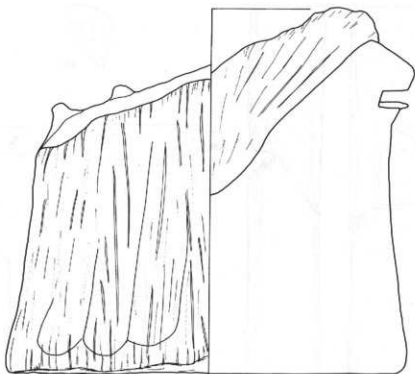
土層解説					
1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック微量
2	褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック中量
3	黒色	ローム粒子少量、炭化物微量	8	黒褐色	鹿沼パミス中量、ロームブロック微量
4	褐色	ロームブロック中量	9	暗褐色	鹿沼パミス少量、ロームブロック微量
5	黒褐色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 縄文土器片65点、土師器片35点、須恵器片7点、土師質土器片7点(内耳鍋4, 小皿3), 礫10点、木器・木製品4点(白, 井戸杵, 柄, 不明品)が出土している。縄文土器片、土師器片、須恵器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。W1は底部から正位の状態出土している。W2, W4は覆土下層から出土している。496は第3層から出土しているが、この層から礫やその他の土器も出土している。

所見 W2は角材で、本跡に関する部材として使用されていた可能性がある。また、W1が使用されていた時期は不明であるが、本跡が古墳時代後期の住居跡を掘り込んでいることや第8号井戸跡を掘り込んでいることから、平安時代以降に祭祀的な目的で井戸の底に入れられたものと考えられる。時期は、土師質土器片が覆土中層から出土していることから平安時代以降に使用され、中世後半には廃棄されたと考えられる。



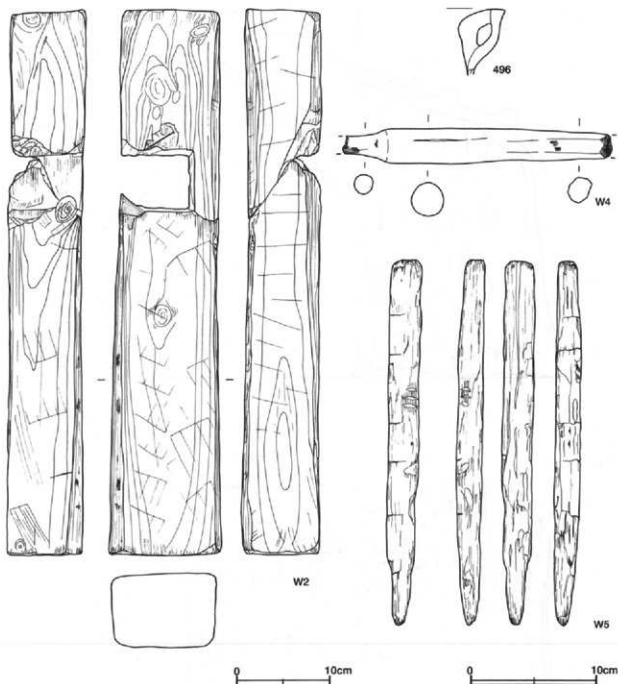
第194図 第7号井戸跡実測図



W1



第195图 第7号井戸跡出土遺物実測図(1)



第196図 第7号井戸跡出土遺物実測図②

第7号井戸跡出土遺物観察表 (195・196図)

番号	種別	部種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
496	土質瓦器	内耳鍋	-	(5.3)	-	石英・赤色砂子・雲母	にぶい橙	普通	ナデ, 外面露付着	中層	5%

番号	種類	長さ	幅	厚さ	特徴	出土位置	備考
W1	白	48.7	52.8	-	刃物による面取り, 外面にホゾ加工あり	底面	ブナ材の芯材 PL53
W2	井戸用部材	57.9	12.0	7.8	長銃による切削痕	下層	
W4	柄杓の柄	(21.3)	2.8	1.5~2.7	両端欠落, 左端部丸棒状に加工	下層	
W5	不明品	29.1	2.5	2.0	ほぼ一寸おきに刻み目	覆土中	

第9号井戸跡 (第197・198図)

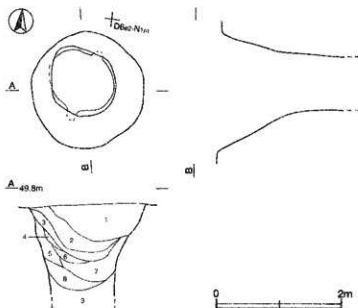
位置 調査区西部のD6e1区に位置し、台地上の北側に立地している。

規模と形状 径1.8mほどの円形で、湧水のため深さは約200cmまでしか確認できなかった。確認面から100cmほどが漏斗状を呈し、それ以下は円筒状に掘り込まれている。

覆土 9層までを確認した。含有物やブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

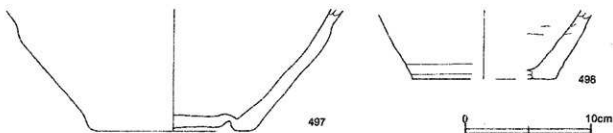
- | | | |
|---|------|--|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・埋没パミスブロック・粘土ブロック微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物・埋没パミスブロック微量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 |
| 4 | 極暗褐色 | ローム粒子・粘土ブロック微量 |
| 5 | 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 | 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 7 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 8 | 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 9 | 黒褐色 | ローム粒子少量 |



第197図 第9号井戸跡実測図

遺物出土状況 縄文土器片10点、土師器片41点、須恵器片21点、陶器片2点(甕)が出土している。陶器片以外は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 時期は、陶器片が出土していることから、中世と考えられる。



第198図 第9号井戸跡出土遺物実測図

第9号井戸跡出土遺物観察表 (第198図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	胎色	胎裏	産地	年代	出土位置	備考
497	陶器	甕カ	—	(9.8)	13.0	長石	暗灰	—	—	—	常滑	—	覆土中	20%
498	陶器	甕カ	—	(5.6)	[11.4]	長石・微練	灰青黒	—	—	—	常滑	—	覆土中	10%

第10号井戸跡 (第199図)

位置 調査区中央部のE7d3区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 上層部を第5号溝、第7号土坑に掘り込まれている。

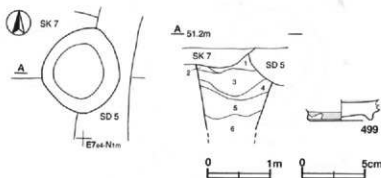
規模と形状 確認面は一辺が1.3mほどの隅丸方形で、円筒状に掘り込まれている。湧水のため、深さは確認面

から131cmまでしか確認できなかった。

覆土 6層までを確認した。ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説					
1	暗褐色	ロームブロック少量	4	暗褐色	ロームブロック・炭沼バミスブロック少量
2	褐色	炭沼バミスブロック中量、ロームブロック少量、	5	黒褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量
		焼土ブロック微量	6	にぶい黄褐色	炭沼バミスブロック中量
3	黒褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況 縄文土器片87点、土師器片24点、須恵器片8点、土師質土器片13点（内耳鍋）、陶器片1点（碗）、



礫6点が出土している。499は覆土中から出土しており、混入の可能性がある。内耳鍋片は細片が多く図示することができなかった。縄文土器片、土師器片、須恵器片は人為堆積時の混入と考えられる。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。

第199図 第10号井戸跡・出土遺物実測図

第10号井戸跡出土遺物観察表（第199図）

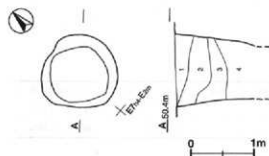
番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	軸色	軸差	産地	年代	出土位置	備考
499	陶器	碗	-	(1.6)	5.0	長石	灰白	-	黒	鉄軸	東戸・美濃	-	覆土中	20%

第12号井戸跡（第200・201図）

位置 調査区中央部のE7g4区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 径1.2mのほどの円形で、円筒状に掘り込まれている。湧水のため深さは126cmまでしか確認できなかった。

覆土 4層までを確認した。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。



土層解説			
1	暗褐色	ローム粒子少量	
2	暗褐色	ロームブロック・炭沼バミスブロック少量	
3	黒褐色	ロームブロック微量	
4	黒褐色	ロームブロック少量	

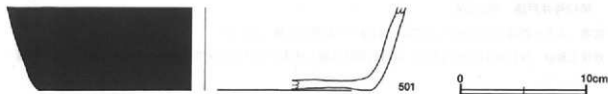
遺物出土状況 縄文土器片6点、土師質土器片3点が出土している。土師質土器片の3点は内耳鍋の底部から体部にかけての同一個体である。縄文土器片が出土しているが、流れ込みによるものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。

第200図 第12号井戸跡実測図

第12号井戸跡出土遺物観察表（第201図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
501	土師質土器	内耳鍋	-	(6.6)	(26.4)	石英・長石・雲母	にぶい赤黒	普通	ナデ、底部周縁ヘラナデ	覆土中	5%



第201図 第12号井戸跡出土遺物実測図

第14号井戸跡 (第202図)

位置 調査区中央部のE7d5区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径1.5m、短径1.1mの楕円形で、長径方向はN-63°-Wである。ほぼ円筒状に掘り込まれており、湧水のため深さは175cmまでしか確認できなかった。また、南側と北側に対になるようにピットが確認されている。また、南北軸で対になるように深さ30~50cm間隔に壁が20cmほど掘り込まれている。

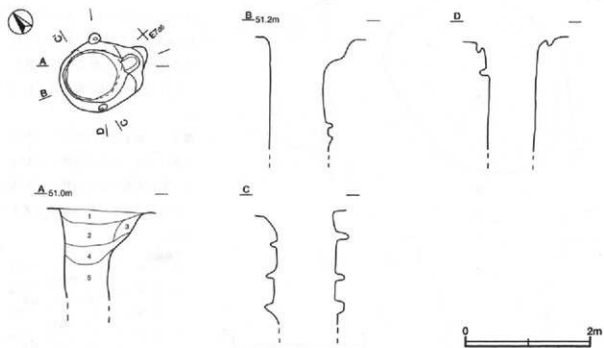
覆土 5層までを確認した。レンズ状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 無垢 褐色	ローム粒子少量	4 暗 褐色	ロームブロック少量
2 暗 褐色	ローム粒子少量	5 暗 褐色	ローム粒子中量
3 暗 褐色	ローム粒子多量、炭屑バミス少量		

遺物出土状況 縄文土器片10点、土師器片6点、須恵器片1点、土師質土器片2点(内耳鍋)、鏝3点が出土している。土師質土器片は細片で図示できなかった。また、その他の土器もほとんどが細片で破断面が摩滅していることから後世の流れ込みによるものと考えられる。

所見 確認面に認められた対になるピットは、井戸の上部施設に関わる柱跡の可能性もある。また、壁に掘り込まれた穴は足掛け穴と考えられる。内耳鍋が出土していることから、時期は中世後半と考えられる。



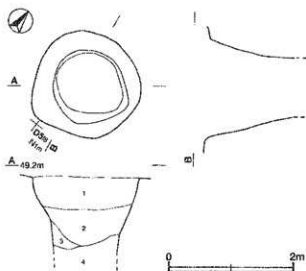
第202図 第14号井戸跡実測図

第17号井戸跡 (第203図)

位置 調査区西部のD 5 e8区に位置し、台地上の北側に立地している。

規模と形状 径1.8mほどの円形で、ほぼ円筒状に掘り込まれている。深さは湧水のため138cmまでしか確認できなかった。

覆土 4層までを確認した。含有物から人為堆積と考えられる。



土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
2 黒褐色	ロームブロック微量、焼土ブロック・炭化物・粘土粒少量
3 黒褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量
4 黒色	ロームブロック・粘土ブロック少量

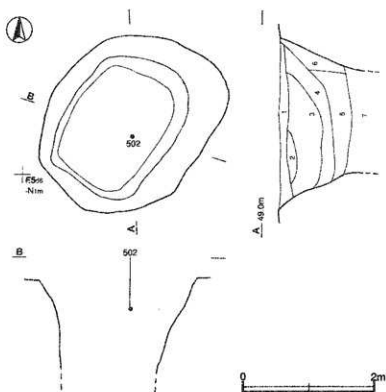
遺物出土状況 縄文土器片2点、土師器片12点、陶器片1点(常滑甕)、礎1点が出土している。土器は小片がほとんどのため図示できなかった。縄文土器片や土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 常滑甕片が出土していることから、時期は中世と考えられる。

第203図 第17号井戸跡実測図

第19号井戸跡 (第204・205図)

位置 調査区西部のE 5 c6区に位置し、台地上の南側に立地している。



第204図 第19号井戸跡実測図

規模と形状 長軸2.9m、短軸2.3m

で、長軸方向はN-33°-Eの隅丸長方形である。湧水のため深さは140cmまでしか確認できなかった。確認面から100cmが漏斗状を呈し、それ以下は円筒状に掘り込まれている。

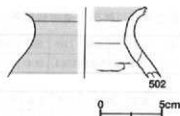
覆土 7層までを確認した。第5・6層はブロック状に堆積しており、第7層は黒色土が不自然に入り込んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
4 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
5 灰褐色	ロームブロック中量
6 暗褐色	ロームブロック少量
7 黒褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片12点、須恵器片3点、陶器片1点（広口壺）が出土している。502は第3層から出土している。その他の土器については人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 小片がほとんどであるが、常滑片の生産地年代と出土土器の中に内耳鍋片が確認できないことから、時期は13～14世紀代と考えられる。



第205図 第19号井戸跡出土遺物実測図

第19号井戸跡出土遺物観察表（第205図）

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	輪軸	産地	年代	出土位置	備考
502	陶器	広口壺	—	(5.7)	—	石英・長石	黄灰	—	灰オリーブ	自然輪	常滑	13～14世紀	第3層	5%

第22号井戸跡（第206・207図）

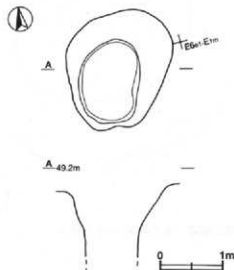
位置 調査区西部のE 6e1区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径2.0m、短径1.6mの楕円形で、長軸方向はN-42°-Eである。確認面から70cmまでが漏斗状を呈し、それ以下は円筒状に掘り込まれており、湧水のため深さは110cmまでしか確認できなかった。

覆土 湧水や崩落のため記録に残すことができなかったが、ロームブロックを多く含む灰褐色土を基調としていたことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 須恵器片1点、土師質土器片9点、陶器片1点（鉢）が出土している。須恵器片は混入によるものと考えられる。土師質土器はすべて内耳鍋片で、口縁の形状から2個体確認された。

所見 出土している常滑鉢の生産地年代が15世紀代であることや内耳鍋が出土していることから、時期は15世紀から16世紀代と考えられる。



第206図 第22号井戸跡実測図



第207図 第22号井戸跡出土遺物実測図

第22号井戸跡出土遺物観察表 (第207図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
503	土師製土器	内耳鍋	33.4	8.4	-	右長・長心	に白い赤	普通	ナデ	覆土中	5%

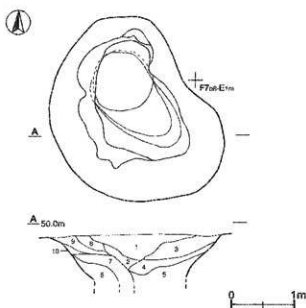
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	胎土	軸色	胎色	胎地	年代	出土位置	備考
504	陶器	片口鉢	-	(5.5)	-	心長・長心	に白い赤	-	-	常滑	15世紀前半	覆土中	5%

第25号井戸跡 (第208図)

位置 調査区中央部のF7b7区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径3.0m、短径2.2mの楕円形で、長径方向はN-40°-Wである。湧水のため深さは76cmまでしか確認できなかった。確認できた部分は漏斗状に掘り込まれている。

覆土 10層までを確認した。ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。



- 土層解説
- 1 粗暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・鹿沼パミス微量
 - 2 粗暗褐色 ローム粒子・鹿沼パミス少量、炭化粒子微量
 - 3 粗暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス少量
 - 4 粗暗褐色 ローム粒子・鹿沼パミスブロック少量
 - 5 粗暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量
 - 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミスブロック少量
 - 7 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量
 - 8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミスブロック少量、焼土粒子微量
 - 9 灰褐色 鹿沼パミス中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量
 - 10 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミス微量

遺物出土状況 土師質土器片3点(内耳鍋)、瓦質土器片2点(播鉢、火舎)、不明木製品3点が出土している。土器はいずれも細片のため図示することができなかった。

所見 内耳鍋片が出土していることから、時期は中世後半と考えられる。

第208図 第25号井戸跡実測図

第27号井戸跡 (第209図)

位置 調査区中央部のF7c9区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 径1.2mほどの円形で、ほぼ円筒状に掘り込まれている。湧水のため深さは71cmまでしか確認できなかった。

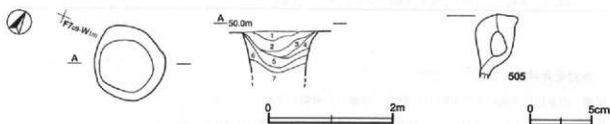
覆土 7層までを確認した。ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

- 土層解説
- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
 - 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物・鹿沼パミス微量
 - 3 に白い赤褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・鹿沼パミス微量
 - 4 均色 ローム粒子中量、鹿沼パミス少量
 - 5 均褐色 ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミスブロック微量
 - 6 均褐色 ロームブロック中量、鹿沼パミス少量
 - 7 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミス微量

遺物出土状況 縄文土器片3点、土師器片1点、土師質土器片4点(内耳鍋)が出土している。縄文土器片、

土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。505は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第209図 第27号井戸跡・出土遺物実測図

第27号井戸跡出土遺物観察表 (第209図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
505	土師質土器	内耳鍋	-	(5.1)	-	石英・長石・赤色粒子・雲母	にぶい赤褐色	普通	ナデ、外面煤付着	覆土中	5%

第31号井戸跡 (第210図)

位置 調査区中央部のF7f8区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径2.6m、短径1.7mほどの楕円形で長径方向はN-82°-Wである。ほぼ円筒状に掘り込まれており、湧水のため深さは92cmまでしか確認できなかった。

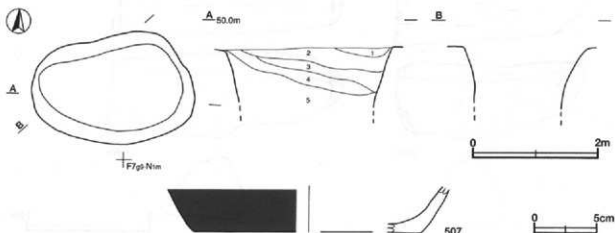
覆土 5層までを確認した。鹿沼バミスブロックやロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|----------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量 | 4 褐色 | 鹿沼バミスブロック多量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | 鹿沼バミスブロック少量、ロームブロック微量 | 5 にぶい黄褐色 | 鹿沼バミスブロック多量、ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片16点、土師器片17点、土師質土器片17点(内耳鍋)、石器1点(砥石)が出土している。縄文土器片、土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。土師質土器片はすべて外面に煤が付着した内耳鍋で、底部片が多い。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第210図 第31号井戸跡・出土遺物実測図

第31号井戸跡出土遺物観察表 (第210図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
507	土師質土器	内耳鍋	—	(3.7)	(18.0)	赤色粘土・雲母	橙	普通	ナデ	覆土中	5%

第32号井戸跡 (第211・212図)

位置 調査区中央部のF 7a9区に位置し、台地上の南側に立地している。

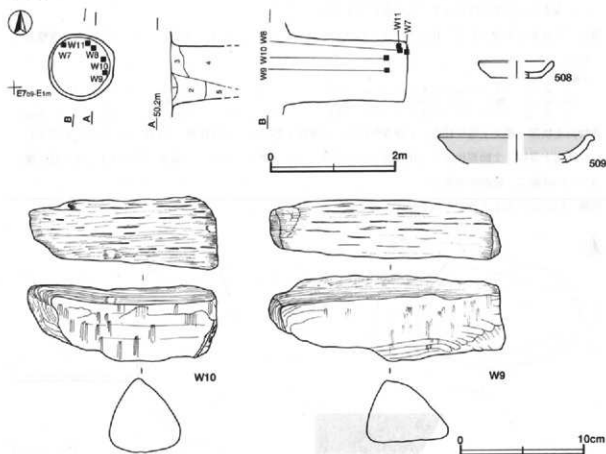
規模と形状 径1.1mの円形で、円筒状に掘り込まれており、深さは200cmである。

覆土 雨水のため第5層までを確認した。ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

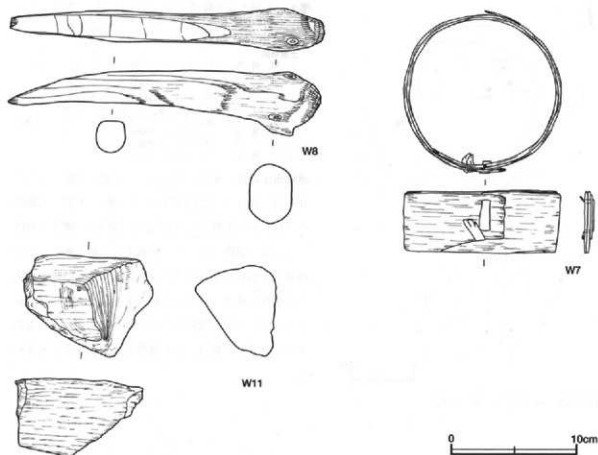
土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|--------------------------------|---|----|----------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | 炭沼パミスブロック少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 4 | 黒色 | ロームブロック・炭化物少量、炭沼パミスブロック・粘土ブロック微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・炭沼パミスブロック少量 | 5 | 褐色 | ロームブロック・炭沼パミスブロック少量 |
| 3 | 褐色 | 炭沼パミスブロック中量、ロームブロック少量、炭化物微量 | | | |

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)、瓦質土器片1点(鉢)、陶器片1点(皿)、木器・木製品9点(曲げ物、不明品)が出土している。木製品のひとつは井戸底から出土している。W7は角材の下から正位の状態出土している。W8-W11はともに覆土下層から井戸底の周辺にかけて出土している。また、図示できなかったが、角材が覆土下層の中心部に横たわる状態で確認されている。土器片はすべて覆土中層から出土している。所見 確認されている角材は枠組み材等の井戸構築材の可能性がある。時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第211図 第32号井戸跡・出土遺物実測図



第212図 第32号井戸跡出土遺物実測図

第32号井戸跡出土遺物観察表 (第211・212図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
508	土質土器	小皿	[5.8]	1.4	[4.0]	雲母	明赤褐	普通	底部回転糸切り	覆土中	5%

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	軸色	軸薬	産地	年代	出土位置	備考
509	陶器	丸皿	[12.4]	(2.3)	—	微礫	にふい黄橙	—	灰白	灰粘	瀬戸・美濃	16~17世紀	覆土中	5%

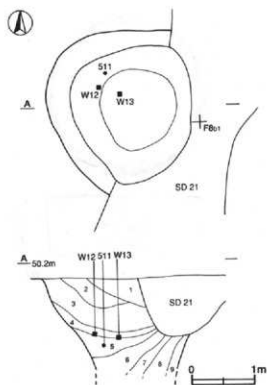
番号	種類	長さ	幅	厚さ	特徴	出土位置	備考
W7	曲げ物	12.5	5.0	0.7	側板を二重に巡らす、底板は不明	下層	ヒノキ科, 経目材 PL59
W8	不明品	25.1	5.2	3.4	一面を平坦に切削	下層	
W9	不明品	18.8	7.0	4.9	断面が三角形に加工	下層	
W10	不明品	15.3	6.1	5.9	断面が三角形に加工	下層	
W11	不明品	10.3	7.9	6.5	断面がほぼ三角形に加工, 表面に擦痕	下層	

第43号井戸跡 (第213~215図)

位置 調査区中央部のF7a0区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 東側を第21号溝に掘り込まれている。

規模と形状 径2.7mほどの円形で、漏斗状に掘り込まれており、湧水のため深さは158cmまでしか確認できなかった。



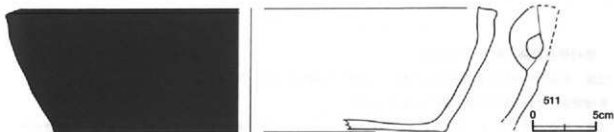
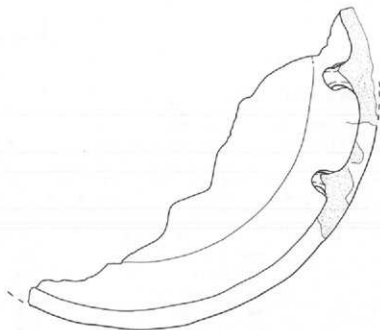
第213図 第43号井戸跡実測図

覆土 9層までを確認した。ロームブロックや粘土ブロックを多く含んでいることから、人為堆積と考えられる。

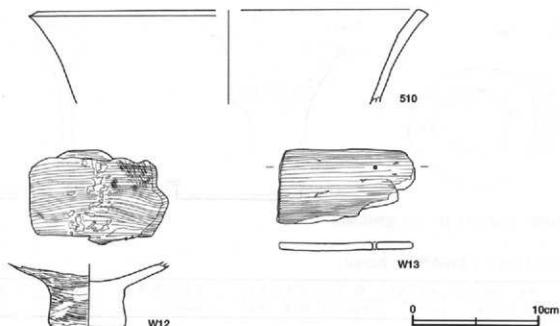
土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭屑パミスブロック少量
2	極暗褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ロームブロック多量
4	褐色	ロームブロック・粘土ブロック・粘土ブロック少量
5	灰褐色	粘土粒子中量、ロームブロック少量
6	黒褐色	炭屑パミスブロック少量、ロームブロック微量
7	暗褐色	ロームブロック微量
8	褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック少量
9	黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片1点、土師質土器片38点（内耳鍋27、鉢11）、瓦質土器片1点（甕）、木器・木製品11点（椀、不明木製品）、石器2点（敲石）、礫9点が出土している。遺物のほとんどが第4・5層に集中している。所見 土師質土器片の多くは内耳鍋片で、口縁の形状から2個体が確認できた。中世後半の溝に本跡が掘り込まれているが、出土遺物からはあまり時期差はないものと考えられる。時期は、出土遺物から中世後半と考えられる。



第214図 第43号井戸跡出土遺物実測図(1)



第215図 第43号井戸跡出土遺物実測図(2)

第43号井戸跡出土遺物観察表 (第214・215図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
510	土師質土器	鉢*	[30.0]	(7.5)	—	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	丁寧なナデ	覆土中	5%
511	土師質土器	内耳鍋	[36.0]	10.0	[30.0]	石英・長石・赤色粒子・雲母	にじ赤褐	普通	横ナデ	確認面から1.1m	20%

番号	種類	長さ	幅	厚さ(高さ)	特徴	出土位置	備考
W12	埴	—	(11.0)	(5.0)	内面に朱塗り	確認面から0.9m	
W13	不明品	11.0	5.9	0.6	約2mmの穿孔	確認面から0.9m	

第46号井戸跡 (第216図)

位置 調査区西部のE 6 d1区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1022・1023号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径2mほどの円形で、涌水のため深さは147cmまでしか確認できなかった。確認面から120cmまでが傾斜を持ち、それ以下は円筒状に掘り込まれている。

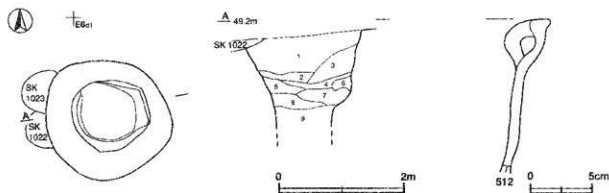
覆土 9層までを確認した。ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、埴土ブロック・炭化物・鹿沼パミスブロック微量	5 灰褐色	ロームブロック少量、埴土ブロック微量
2 灰黄褐色	鹿沼パミスブロック少量、ロームブロック・炭化物微量	6 黄褐色	鹿沼パミスブロック中量、ロームブロック・炭化物微量
3 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物・鹿沼パミスブロック微量	7 灰褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ロームブロック・埴土ブロック・鹿沼パミスブロック少量、炭化物微量	8 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
		9 黒褐色	ロームブロック少量、鹿沼パミスブロック微量

遺物出土状況 土師器片1点、土師質土器片3点(内耳鍋)が出土している。土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。土師質土器片はすべて内耳鍋片で、図示できなかったものも含め、第4～8層付近から出土している。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第216図 第46号井戸跡・出土遺物実測図

第46号井戸跡出土遺物観察表（第216図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
512	土師器土器	片口鉢	—	(12.3)	—	石英・長石・雲母	明赤褐色	普通	ナデ、外面灰付着	覆土中	5%

第48号井戸跡（第217図）

位置 調査区西部のE5d6区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長軸・短軸とも1.5mほどの隅丸方形で、ほぼ垂直に掘り込まれている。湧水のため深さは128cmまでしか確認できなかった。

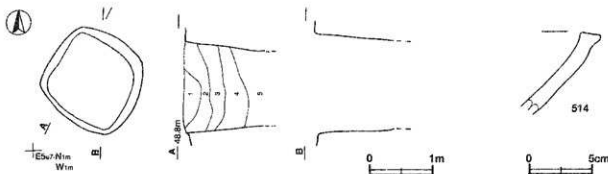
覆土 5層までを確認した。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・ | 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭泥パミスブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 炭泥パミスブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片2点、土師器片3点、須恵器片3点、陶器片1点（片口鉢）が出土している。出土土器が少なく細片がほとんどである。陶器片以外は流れ込みによるものと考えられる。

所見 常滑の片口鉢の生産地年代が15世紀後半であることから、時期は15世紀後半以降と考えられる。



第217図 第48号井戸跡・出土遺物実測図

第48号井戸跡出土遺物観察表（第217図）

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	灰付	物色	輪索	産地	年代	出土位置	備考
514	陶器	片口鉢	—	(8.7)	—	石英・長石	濁灰	—	—	—	常滑	15世紀後半	覆土中	5%

第50号井戸跡 (第218・219図)

位置 調査区中央部のF 6 a9区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第40号溝に上層部を掘り込まれている。

規模と形状 南側が調査区域外となっているため、南北方向に1.3m、東西方向に1.1m確認され、楕円形を呈していたものと考えられる。確認面から70cmまでは第40号溝に掘り込まれ、それ以下は円筒状に掘り込まれている。湧水のため、溝の底部からは60cmほどまでしか掘り込むことができなかった。

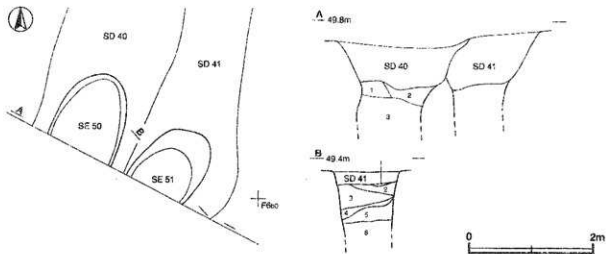
覆土 3層までを確認した。ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック中層 3 暗褐色 ロームブロック少層
2 暗褐色 ロームブロック中層、灰化層子微体

遺物出土状況 縄文土器片7点、土師器片9点、須恵器片3点、土師質土器片39点(内耳罎)、瓦質土器片1点(甕)、陶器片3点(鉢)、石器3点(石臼)、礫7点が出土している。内耳罎片が多量に出土しているが、図示できたもの以外はほとんどが小片であった。縄文土器片、土師器片、須恵器片は流れ込みによるものと考えられる。

所見 内耳罎片は耳や口縁の形状から2個体程度のものが出土している。本跡のあとに構築されている第40号溝も同時期のものであるため、溝の構築と本跡の埋め戻しには何らかの関係があるものと推測される。時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



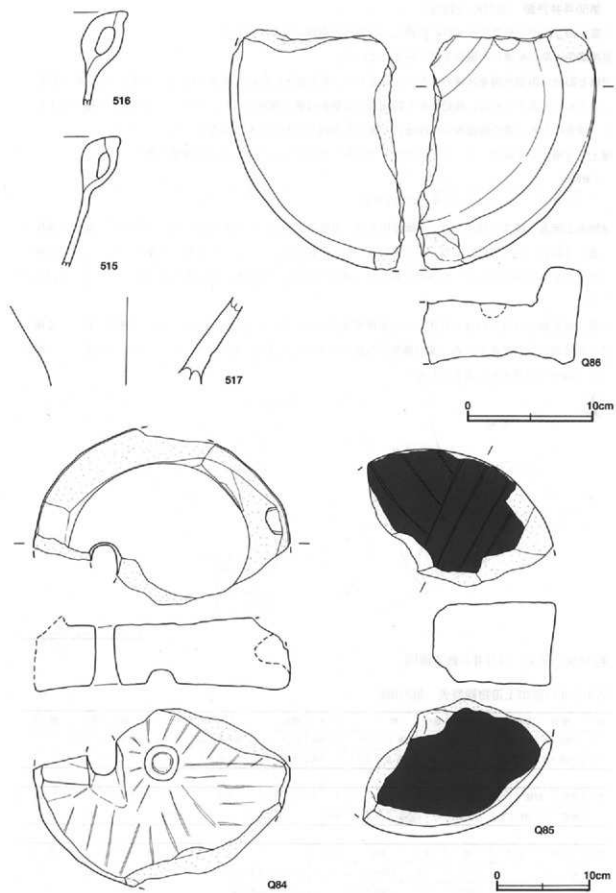
第218図 第50・51号井戸跡実測図

第50号井戸跡出土遺物観察表 (第219図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
S15	土師質土器	内耳罎	-	(10.4)	-	石英・長石・雲母	にがい赤褐色	普通	ナデ、外面磨付者	覆土中	10%
S16	土師質土器	内耳罎	-	(7.4)	-	石英・長石・雲母	にがい黄褐色	普通	ナデ、外面磨付者	覆土中	5%

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	胎付	特色	輪素	産地	年代	出土位置	備考
S17	陶器	片1鉢	-	(7.0)	-	石英・長石・雲母	にがい赤褐色	-	-	常滑	-	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q84	石臼	-	27.0	7.4	(3800.0)	安山岩	孔径3.7、供給口径3.2	覆土中	石臼
Q85	石臼	-	(30.8)	9.0	(2940.0)	安山岩	上下面とも磨付者	覆土中	石臼
Q86	石臼	-	(14.2)	7.8	(1970.0)	安山岩	供給口一部残存、磨付者	覆土中	石臼



第219图 第50号井戸跡出土遺物実測図

第51号井戸跡（第218図）

位置 調査区中央部のF 6a9区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第41号溝に上層部を掘り込まれている。

規模と形状 南側が調査区域外となっているため、南北方向に1.1m、東西方向に1m確認され、楕円形を呈していたものと考えられる。確認面から90cmまでは第41号溝に掘り込まれており、それ以下は円筒状に掘り込まれている。湧水のため、溝の底部からは70cmまでしか掘り込むことができなかった。

覆土 6層までを確認した。ロームブロックを多量に含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	4 褐色	ロームブロック多量
2 暗褐色	ロームブロック中量	5 黒褐色	ロームブロック少量
3 褐色	ロームブロック中量	6 褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 第41号溝を構築するために意図的に埋め戻された可能性がある。溝の時期から判断して、時期は中世と考えられる。

第52号井戸跡（第220図）

位置 調査区中央部のD 610区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第31号住居跡、第40号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.8mほどの円形で、ほぼ円筒状に掘り込まれており、深さは230cmである。

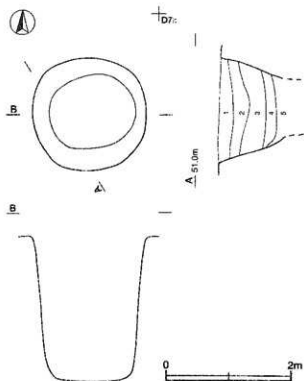
覆土 湧水のため5層までを確認した。鹿沼バミスブロックや粘土ブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・鹿沼バミスブロック微量
4 黒褐色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量、粘土ブロック微量
5 暗褐色	鹿沼バミスブロック中量、ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片8点、土師器片9点、須恵器片2点、土師質土器片2点（内耳鍋）が出土している。土師質土器片以外は人為堆積時の混入によるものと考えられる。土器はすべて細片のため図示することができなかった。

所見 内耳鍋片が出土していること、第40号溝跡を掘り込んでいることから、時期は中世後半と考えられる。



第220図 第52号井戸跡実測図

第54号井戸跡 (第221図)

位置 調査区中央部のF 8g2区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径1.8m、短径1.3mほどの楕円形で、長径方向はN-68°-Eである。南側の掘り込みはやや緩やかであるが、全体的には円筒状に掘り込まれている。湧水のため深さは67cmまでしか確認できなかった。

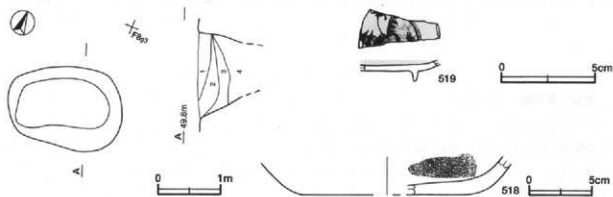
覆土 4層までを確認した。含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|--------|---------------|
| 1 地 色 | 黄褐色中量、ローム粒子・粘土ブロック少量 | 3 黒 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗 褐色 | 黄褐色中量、ローム粒子微量 | 4 黒 褐色 | ローム粒子中量、黄褐色中量 |

遺物出土状況 縄文土器片2点、土師器片1点、土師質土器片5点(内耳鍋)、瓦質土器片1点(播鉢)、磁器片1点(皿)、礫1点が出土している。縄文土器片、土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。内耳鍋は底部の形状から2個体が確認された。

所見 時期は、出土土器から中世末から近世にかけてと考えられる。



第221図 第54号井戸跡・出土遺物実測図

第54号井戸跡出土遺物観察表 (第221図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
518	土師質土器	播鉢	-	(3.1)	(13.4)	石英・長石・雲母	にぶい黄	普通	11条1単位の線目	覆土中	5%

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
519	磁器	中皿	-	(1.0)	-	-	明オリブ灰	染付	透明	透明釉	肥前	17世紀	覆土中	5%

第55号井戸跡 (第222図)

位置 調査区中央部のF 8h3区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1892号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径3.2m、短径2.2mほどの楕円形で、長径方向はN-42°-Wである。確認面から60cmは漏斗状で、それ以下は円筒状に掘り込まれている。湧水のため深さは80cmまでしか確認できなかった。

覆土 4層までを確認した。含有物から人為堆積と考えられる。

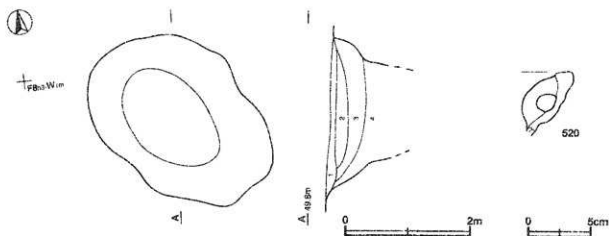
土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|--------|-------------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 明 褐色 | ローム粒子・粘土ブロック中量 |
| 2 黒 褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 | 4 灰 褐色 | ロームブロック・黄褐色・粘土・粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片2点、土師質土器片14点(壺3、内耳鍋11)、瓦質土器片5点(播鉢2、火舎3)、

礫5点が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。内耳鍋片は口線の形状から2個体が確認された。

所見 時期は、出土土器から中世後半から近世初頭にかけてと考えられる。



第222図 第55号井戸跡・出土遺物実測図

第55号井戸跡出土遺物観察表 (第222図)

番号	類別	器種	口径	器高	直径	胎土	色相	焼成	平込の特徴	出土位置	備考
520	土師質土器	内耳鍋	-	(5.1)	-	石灰・灰石・雲母	明赤褐色	普通	ナデ、外面縁付着	覆土中	5%

第56号井戸跡 (第223図)

位置 調査区中央部F 8h5区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 径1.2mほどの円形で、ほぼ円筒状に掘り込まれている。湧水のため深さは60cmまでしか確認できなかった。

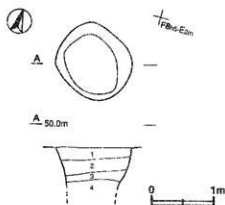
覆土 4層までを確認した。ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|-----|-----------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子少量、炭屑バミス微量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 | 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片15点、土師器片5点、土師質土器片1点(内耳鍋)が出土している。すべて細片で、図示することができなかった。縄文土器片、土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第223図 第56号井戸跡実測図

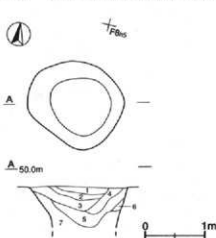
第57号井戸跡 (第224図)

位置 調査区中央部のF 8 h4区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径1.6m、短径1.4mの楕円形で、円筒形に掘り込まれている。長径方向はN-70°-Wである。

涌水のため深さは65cmまでしか確認できなかった。

覆土 7層までを確認した。粘土ブロックや粒子を多量に含んでいることから人為堆積と考えられる。



第224図 第57号井戸跡実測図

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
3	黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量
4	黒褐色	粘土粒子少量、ローム粒子微量
5	黄褐色	粘土ブロック多量、ローム粒子少量
6	褐色	ローム粒子微量
7	明褐色	粘土ブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片4点、土師器片2点、土師質土器片3点(内耳鍋)、陶器片1点(器種不明)、礫1点が出土している。

縄文土器片、土師器片は人為堆積時の混入と考えられる。ほとんどの土器が細片で図示することができなかった。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。

第58号井戸跡 (第225図)

位置 調査区中央部のF 8 h4区に位置し、台地上の南側に立地している。

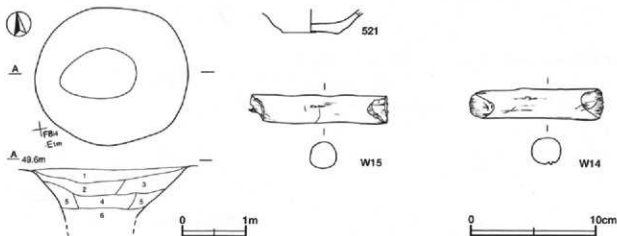
規模と形状 長径2.4m、短径2.2mの楕円形で、長径方向はN-80°-Wである。漏斗状に掘り込まれており、

涌水のため深さは73cmまでしか確認できなかった。

覆土 6層までを確認した。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量	4	黒褐色	ローム粒子・鹿沼パミス微量
2	褐色	ローム粒子中量、鹿沼パミス少量	5	褐色	粘土粒子少量、ローム粒子微量
3	褐色	鹿沼パミス少量、ローム粒子微量	6	褐色	粘土ブロック・ローム粒子微量



第225図 第58号井戸跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片3点、須恵器片1点、土師質土器片13点(小皿7、内耳鍋5、鉢1)、不明木製品2点、礫5点が出土している。土器はほとんどが細片で図示できたのは521のみであるが、同器種の別個体が3点出土している。縄文土器片、須恵器片は人為堆積時の混入と考えられる。

所見 出土土器から、時期は15世紀から16世紀代と考えられる。

第58号井戸跡出土遺物観察表(第225図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
S21	土師質土器	小皿	—	(1.9)	4.5	白色粒子・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	40%

番号	種類	長さ	幅	厚さ	特徴	出土位置	備考
W14	不明品	10.6	2.3	2.1	丸棒状に加工	覆土中	W15と同一か
W15	不明品	10.7	2.4	2.1	丸棒状に加工	覆土中	W14と同一か

第59号井戸跡(第226図)

位置 調査区中央部のF8e4区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1581・1582号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.9m、短径2.2mほどの楕円形で、長径方向はN-80°-Eである。ほぼ円筒状に掘り込まれており、涌水のため深さは80cmまでしか確認できなかった。

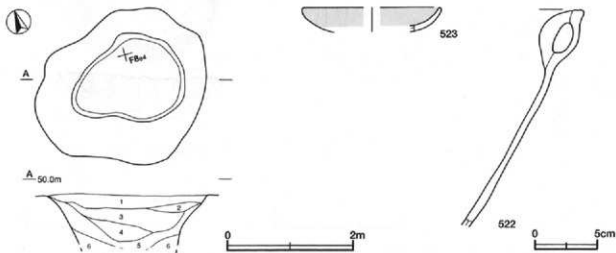
覆土 6層までを確認した。含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐色	炭化粒子・鹿沼パミス少量、ローム粒子微量	4	にぶい褐色	鹿沼パミスブロック中量、ローム粒子少量
2	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	5	明褐色	鹿沼パミス中量、炭化粒子微量
3	にぶい褐色	ローム粒子・鹿沼パミス粘土粒子少量、炭化粒子微量	6	明褐色	ローム粒子少量、鹿沼パミス微量

遺物出土状況 縄文土器片2点、土師器片5点、須恵器片1点、土師質土器片54点、陶器片1点(皿)、礫6点が出土している。土師質土器片はすべて内耳鍋片である。内耳鍋片は細片が多く図示できなかったものがほとんどであるが、口縁や底部の形状から3個体を確認した。縄文土器・土師器・須恵器片は人為堆積時の混入と考えられる。

所見 時期は、出土土器から15~16世紀代と考えられる。



第226図 第59号井戸跡・出土遺物実測図

第59号井戸跡出土遺物観察表 (第226図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
522	土師質土器	内耳鍋	-	(17.5)	-	石灰・灰石・雲母	明赤褐色	普通	ナデ、外面襷付着	覆土中	10%

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	軸術	産地	年代	出土位置	備考
523	陶器	丸皿	[10.9]	(2.0)	-	長石	灰オリーブ	-	オリーブ灰	灰釉	瀬戸・美濃	-	覆土中	5%

第60号井戸跡 (第227・228図)

位置 調査区中央部のF 8c0区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第16号溝に掘り込まれている。

規模と形状 径1.8mほどの円形である。湧水のため深さは110cmまでしか確認できなかった。南側は約50cmから下位はオーバーハングしている。

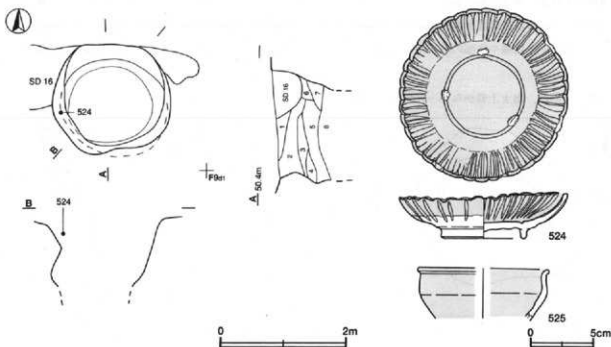
覆土 8層までを確認した。ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

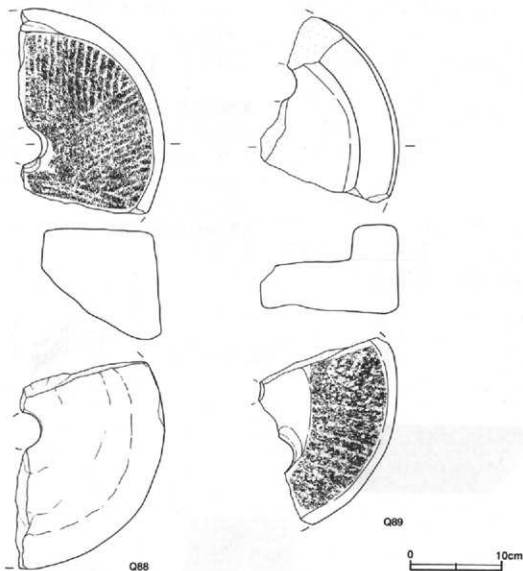
- | | | | |
|------------|----------------------|------------|------------------|
| 1 地 灰 色 | 粘土粒子中量、ロームブロック・砂粒少量 | 5 黒 褐色 色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 地 灰 色 | 炭化物・粘土ブロック・砂粒微量 | 6 暗 褐色 色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 地 灰 色 | ロームブロック・炭化物・粘土ブロック少量 | 7 極 暗 褐色 色 | ロームブロック中量 |
| 4 灰 黄 褐色 色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 8 暗 褐色 色 | 粘土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師質土器片5点(小皿2, 内耳鍋3), 陶器片2点(皿・碗), 石器2点(石臼上・下)が出土している。524は完形のまま斜位で確認面の20cm下から出土している。

所見 重複関係にある第16号溝は本跡より新しいが, 出土土器からはほぼ同時期と考えられ, 17世紀代には埋没したものと考えられる。



第227図 第60号井戸跡・出土遺物実測図



第228図 第60号井戸跡出土遺物実測図

第60号井戸跡出土遺物観察表 (第227・228図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	輪色	輪差	産地	年代	出土位置	備考
524	陶器	皿	13.2	3.7	6.7	—	浅黄	—	にぶい黄	灰釉	瀬戸・美濃	17世紀	埋蔵面から20cm	98% PL53
525	陶器	碗	[10.1]	(4.2)	—	微塵	浅黄	—	暗褐	鉄釉	瀬戸・美濃	—	覆土中	5%

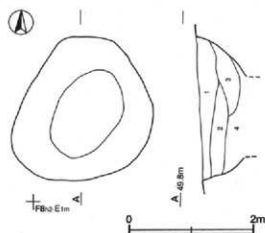
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q88	石	—	(16.5)	11.7	(5260.0)	安山岩	芯棒孔径3.7, 主溝は6分溝, 副溝密	覆土中	下白
Q89	石	—	(14.7)	9.3	(2730.0)	安山岩	環形口一部残存径3.7, 残き手孔有り, 溝野尻	覆土中	上白

第61号井戸跡 (第229・230図)

位置 調査区中央部のF 8g2区に位置し, 台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径2.4m, 短径2.1mほどの楕円形で, 長径方向はN-36°-Eである。ほぼ円筒状に掘り込まれており, 湧水のため深さは80cmまでしか確認できなかった。

覆土 4層までを確認した。ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。



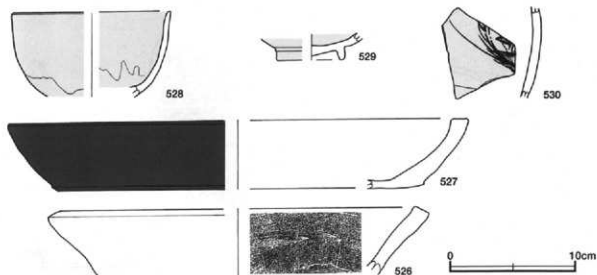
土層解説

- | | | |
|---|-----|------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化物・鹿沼パミス・粘土粒子微量 |
| 2 | 褐色 | 鹿沼パミス少量、ローム粒子・炭化物微量 |
| 3 | 黒褐色 | 鹿沼パミス少量、ローム粒子微量 |
| 4 | 褐色 | 鹿沼パミス少量、炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片2点、須恵器片1点、土師質土器片14点（小皿8、指鉢1、内耳鍋5）、瓦質土器片1点（甕）、陶器片2点（碗）、磁器片1点（瓶か）、礫2点が出土している。縄文土器片、須恵器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半から17世紀代と考えられる。

第229図 第61号井戸跡実測図



第230図 第61号井戸跡出土遺物実測図

第61号井戸跡出土遺物観察表（第230図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
526	土師質土器	指鉢	[28.0]	(5.3)	—	長石・赤色粒子・雲母	赤褐	普通	9条1半位の溝り目	覆土中	5%
527	土師質土器	内耳鍋	[36.2]	5.4	[28.2]	白色粒子・赤色粒子・雲母	明赤褐	普通	横ナデ、底部周縁部削り	覆土中	10%

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	軸色	軸差	産地	年代	出土位置	備考
528	陶器	丸碗	[12.4]	(6.8)	—	長石	灰黄	—	硝オリーブ	鉄軸	瀬戸・美濃	—	覆土中	20%
529	陶器	碗	—	(2.1)	[5.3]	微礫	浅黄	—	黄褐	鉄軸	瀬戸・美濃	—	覆土中	5%
530	磁器	瓶 <small>カ</small>	—	(7.3)	—	—	灰白	絵付け	灰	—	—	—	覆土中	5%

第62号井戸跡（第231図）

位置 調査区中央部のE 8J8区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径1.6m、短径1.3mほどの楕円形で、長径方向はN-63°-Wである。円筒状に掘り込まれており、涌水のため深さは65cmまでしか確認できなかった。

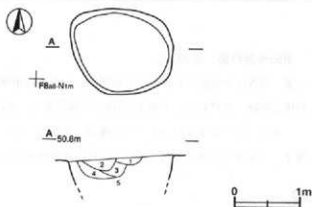
覆土 5層までを確認した。ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量	4 暗褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化物・粘土ブロック少量	5 黄褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量
3 暗褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック微量		

遺物出土状況 縄文土器片33点、土師器片199点、須恵器片1点、陶器片1点、鏝11点が出土している。

所見 土器がほぼ同じ層位から出土していることから、埋め戻しの過程で一括投棄されたものと考えられる。時期は、最新の土器が陶器片であることから中世と考えられる。



第231図 第62号井戸跡実測図

第63号井戸跡（第232図）

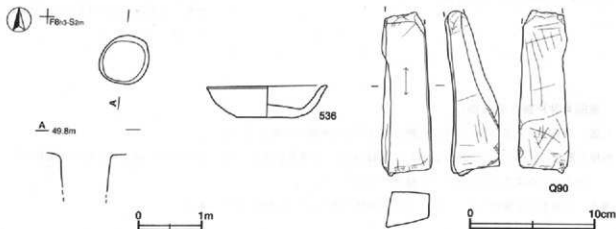
位置 調査区中央部のF8h3区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 径0.8mほどの円形で、円筒状に掘り込まれている。涌水のため深さは60cmまでしか確認できなかった。

覆土 涌水や崩落のため記録に残すことができなかったが、ロームブロックや鹿沼バミスブロックを多く含む黄褐色土を基調としていたことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片12点（小皿）、石器1点（砥石）が出土している。

所見 出土した土器片はすべて接合関係にあり、完形またはそれに近い状態で投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から中世でも15世紀以前と考えられる。



第232図 第63号井戸跡・出土遺物実測図

第63号井戸跡出土遺物観察表 (第232図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の習熟	出土位置	備考
335	土師黄十哲	小型	9.3	2.6	4.8	赤色粒子・微塵	にぶい黄緑	普通	底部用線部ナデ	覆土中	90% FL53

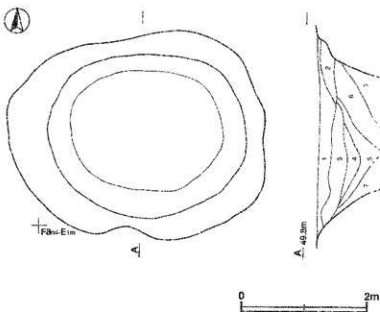
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q90	紙石	(18.1)	4.0	1.6~3.6	(257.0)	粘板岩	一回使用	覆土中	

第65号井戸跡 (第233図)

位置 調査区中央部のF8g4区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径4.2m、短径3.2mほどの楕円形で、長径方向はN-71°-Wである。漏斗状に掘り込まれており、涌水のため深さは84cmまでしか確認できなかった。

覆土 7層までを確認した。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。



- 土層解説
- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微塵
 - 2 暗褐色 ローム粒子少量
 - 3 灰褐色 鹿沼パミス中量、ローム粒子・炭化粒子少量
 - 4 褐色 鹿沼パミス中量、ロームブロック少量、炭化物微塵
 - 5 明褐色 ロームブロック多量、鹿沼パミス微塵
 - 6 灰褐色 ローム粒子・鹿沼パミス中量
 - 7 にぶい褐色 ローム粒子・鹿沼パミス中量

遺物出土状況 土師黄土器片55点(内耳鍋50、摺鉢5)、陶器片1点(皿)、磁器片1点(碗)が出土している。いずれも細片で図示することができなかったが、内耳鍋片の多くは覆土第3・4層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中世後半以降と考えられる。

第233図 第65号井戸跡実測図

第66号井戸跡 (第234図)

位置 調査区中央部のF8f4区に位置し、台地上の南側に立地している。

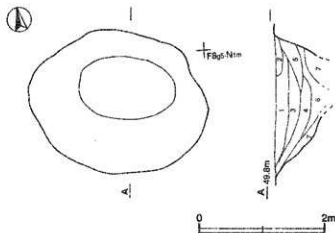
規模と形状 長径2.8m、短径2.2mほどの楕円形で、長径方向はN-71°-Wである。漏斗状に掘り込まれており、涌水のため深さは71cmまでしか確認できなかった。

覆土 7層までを確認した。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

- 土層解説
- | | | | |
|---------|----------------------|-------|----------------------|
| 1 にぶい棕色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子少量 | 5 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・鹿沼パミス微塵 | 6 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス微塵 |
| 3 灰褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子微塵 | 7 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、鹿沼パミス微塵 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、鹿沼パミス少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片25点(内耳鍋20, 小皿5)が出土している。いずれも細片で図示することができなかったが, 口縁部に煤が付着した小皿片が数点確認されている。

所見 時期は, 出土土器から中世後半と考えられる。



第234図 第66号井戸跡実測図

(5) 墓 塚

第49号土坑 (第235図)

位置 調査区中央部のF7a5区に位置し, 台地上の南側に立地している。

重複関係 第51・53号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.2m, 短径1.0mの楕円形で, 長軸方向は $N-5^{\circ}-E$ である。深さは21cmで, 壁はほぼ直立している。

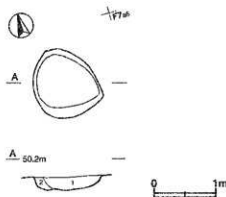
覆土 2層からなり, 含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|-----|---------------|
| 1 | 黄褐色 | ロームブロック・炭化粒少量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片2点, 土師器片2点, 土師質土器片3点(内耳鍋), 古銭1点が出土している。縄文土器片, 土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。土器・古銭とも小片で図示することができなかった。

所見 出土土器が内耳鍋片であること, また古銭が出土していることから, 中世後半の墓塚の可能性がある。



第235図 第49号土坑実測図

第68号土坑 (第236図)

位置 調査区中央部のE7j6区に位置し, 台地上の南側に立地している。

重複関係 ビットに掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.6m, 短軸0.7mの隅丸長方形で, 長軸方向は $N-7^{\circ}-E$ である。深さは20cmで, 壁は直立している。底面は皿状である。

覆土 2層からなり, ロームブロックを多量に含んでいることから人為堆積と考えられる。

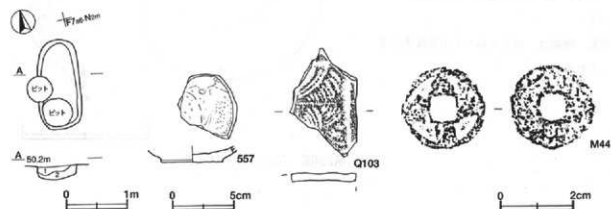
土層解説

- | | | |
|---|----|-----------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 | 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片7点, 須恵器片1点, 土師質土器片3点(内耳鍋1, 小皿2), 瓦質土器片2点(鉢),

石器（硯）、古銭が出土している。土師器片、須恵器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。557は覆土中から出土しており体部内面に銅滓が付着している。Q103、M44も覆土中から出土している。

所見 出土土器と古銭（元祐通寶）が出土していることから、中世後半以降の墓塚の可能性はある。



第236図 第68号土坑・出土遺物実測図

第68号土坑出土遺物観察表（第236図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
557	土師質土器	小皿	-	(1.3)	5.0	雲母	浅黄	普通	ナデ	覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q103	硯	(3.0)	(1.8)	(0.2)	(1.4)	頁岩	横棹付の縁部*	覆土中	

番号	銭名	径	孔	重量	初铸年	材質	特徴	出土位置	備考
M44	元祐通寶	2.4	0.7	2.1	1086	銅	無背銭	覆土中	

第127号土坑（第237図）

位置 調査区中央部のF7b7区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第99・140号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.7m、短軸0.6mの長方形で、長軸方向はN-84°-Wである。深さは60cmで、壁は直立している。底面は平坦である。

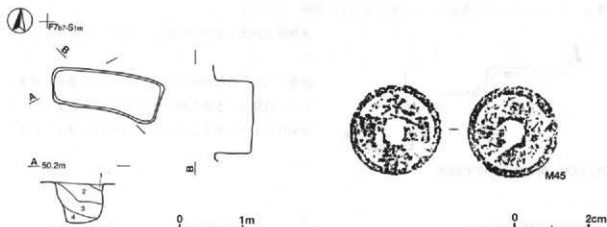
覆土 4層からなり、ロームブロックや鹿沼バミスブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量	3	暗褐色	鹿沼バミスブロック中量、ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量	4	暗褐色	ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片2点、土師器片2点、土師質土器片（内耳鍋）、瓦質土器片2点（鉢）、古銭（永楽通寶）が出土している。M45は覆土中から出土している。

所見 中世特有の土器が確認されていることや、永楽通寶が出土していることから、中世後半の墓塚の可能性はある。



第237図 第127号土坑・出土遺物実測図

第127号土坑出土遺物観察表(第237図)

番号	銭名	径	孔	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M45	永楽通寶	2.4	0.5	1.9	1408	銅	無背銭	覆土中	

第312号土坑 (第238図)

位置 調査区中央部のD7J5区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第315号土坑に掘り込まれ、第3号溝との新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸1.1m、短軸0.7mの隅丸長方形で、長軸方向はN-21°-Eである。深さは70cmで、壁はほぼ直立している。

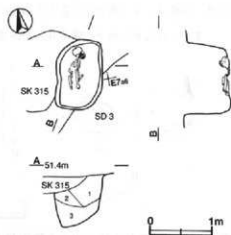
覆土 3層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|------|-------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス中量 |
| 2 | 極暗褐色 | 鹿沼パミス中量、ロームブロック少量 |
| 3 | 極暗褐色 | ローム粒子少量、鹿沼パミス微量 |

遺物出土状況 底面から頭部を北側に向けた人骨が出土している。また、鉄滓が覆土中から出土している。

所見 他の土坑との重複関係と人骨が底面から出土していることから、中世後半の墓塚と考えられる。



第238図 第312号土坑実測図

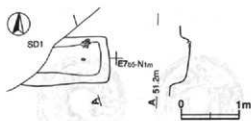
第423号土坑 (第239図)

位置 調査区中央部のE7a4区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は西側が第1号溝に掘り込まれているため1.1mまでしか確認できなかった。南北軸は0.8mで、長軸方向がN-90°の長方形と考えられる。深さは34cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。

覆土 ロームブロックと鹿沼バミスを含む褐色土を基調としている。



遺物出土状況 東側の底面から人骨や骨粉が出土している。

所見 人骨や骨粉が出土していることから墓塚と考えられる。時期は、本跡を掘り込んでいる第1号溝が15～16世紀代のものであることから、中世後半と考えられる。

第239図 第423号土坑実測図

第575号土坑（第240図）

位置 調査区西部のE 5c8区に位置し、台地上の北側に立地している。

重複関係 ビットを掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.8m、短径0.5mの楕円形で、長径方向は $N-65^{\circ}-E$ である。西側から東側に向かって深く掘り込まれており、深さは15～38cmである。

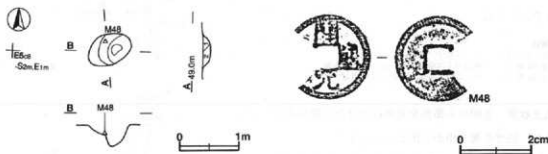
覆土 2層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片3点、古銭（開元通寶）が出土している。土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。M48は中央やや北西寄りの底面から出土している。

所見 本跡は、すぐ南側に位置する第1017号土坑と遺構の形状、古銭（開元通寶）の出土状況がほぼ同一である。また、近辺から地下式墳や井戸が確認されていることから、中世墓塚の可能性がある。



第240図 第575号土坑・出土遺物実測図

第575号土坑出土遺物観察表（第240図）

番号	銭名	径	孔	重量	初周年	材質	特徴	出土位置	備考
M48	開元通寶	2.4	0.5	(1.1)	621	銅	無背銭、一部欠損	西側底面	

第923号土坑（第241図）

位置 調査区中央部のF 7d9区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径1.0m、短径0.9mの楕円形で、長径方向は $N-0^{\circ}$ である。深さは32cmで、壁は外傾して立ち

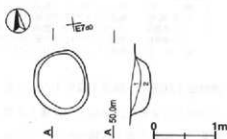
上がっている。底面は皿状である。

覆土 2層からなり、含有物から人為堆積と考えられる。

- 土層解説**
- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭沼バミス微量
 - 2 黒褐色 ローム粒子・炭沼バミス少量、炭化材微量

遺物出土状況 瓦質土器片1点（捕鉢）と人骨がともに覆土下層から出土している。また、底面からは鉄滓が出土している。瓦質土器片は第911号土坑から出土した610と接合関係にある。

所見 時期は、出土土器から中世末から近世初めにかけての墓塚と考えられる。



第241図 第923号土坑実測図

第1017号土坑（第242図）

位置 調査区西部のE 5 d8区に位置し、台地上の南側に位置している。

重複関係 ビットを掘り込んでいる。

規模と形状 径0.5mの円形である。北側から南側に向かって深く掘り込まれており、深さは25～53cmである。

覆土 2層からなり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

- 土層解説**
- 1 灰褐色 ロームブロック中量
 - 2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 古銭（祥符元寶）が出土している。M51は北宋銭で、ほぼ中央部の底面から出土している。

所見 本跡は、すぐ北側に位置する第575号土坑と遺構の形状、古銭の出土状況がほぼ同一である。また、近辺から地下式墳や井戸が確認されていることから、中世の墓塚の可能性がある。



第242図 第1017号土坑・出土遺物実測図

第1017号土坑出土遺物観察表（第242図）

番号	銭名	径	孔	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M51	祥符元寶	2.5	0.5	2.3	1009	銅	無背銭	北側底面	PL.62

第1366号土坑（第243図）

位置 調査区中央部のF 7 c8区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第448号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.3m、短軸0.7mの長方形で、長軸方向はN-12°-Eである。深さは42cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

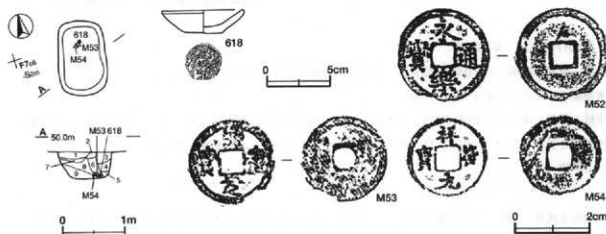
覆土 9層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐色	ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量	6	褐色	ローム粒子・鹿沼パミス少量
2	灰黄褐色	鹿沼パミスブロック中量、ロームブロック少量	7	灰黄褐色	ローム粒子・鹿沼パミス少量
3	にがい黄褐色	ロームブロック・鹿沼パミス少量	8	褐色	ロームブロック・鹿沼パミス少量
4	にがい黄褐色	鹿沼パミスブロック中量、ロームブロック微量	9	暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミス少量
5	暗褐色	鹿沼パミス少量、ロームブロック微量			

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)、古銭3点(水楽通寶、祥符元寶、熙寧元寶カ)が出土している。618は底面から完形で、M53・54は覆土下層から出土している。M52は覆土中から出土している。

所見 土師質土器と古銭が出土していることから、中世後半の墓塚の可能性がある。



第243図 第1366号土坑・出土遺物実測図

第1366号土坑出土遺物観察表(第243図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
618	土師質土器	小皿	6.4	1.9	3.0	灰石・赤色粒子	にがい橙	普通	底部回転糸切り	北側底面	100% PL53

番号	銭名	径	孔	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M52	水楽通寶	2.5	0.6	2.6	1408	銅	無背銭	覆土中	PL62
M53	熙寧元寶	2.3	0.6	2.6	-	銅	-	下層	PL62
M54	祥符元寶	2.1	0.6	1.8	1009	銅	無背銭	下層	PL62

第1391号土坑(第244図)

位置 調査区中央部のF 8 a4区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長軸1.1m、短軸0.7mの不定形である。長軸方向はN-90°である。東側から西側に向かって深く掘り込まれており、深さは38-64cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

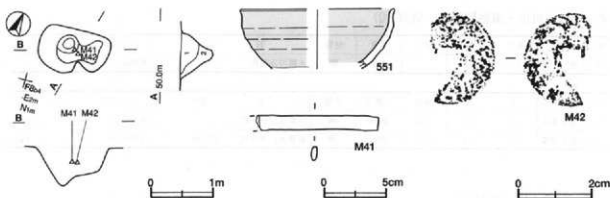
覆土 2層からなり、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2	褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 陶器片1点(碗), 銅製品1点(不明), 古銭1点(不明)が出土している。551は天目茶碗の口縁から体部片で覆土中から出土している。M41・42はともに覆土中層から出土している。

所見 天目茶碗が出土していることと古銭が出土していることから, 中世の墓塚の可能性がある。



第244図 第1391号土坑・出土遺物実測図

第1391号土坑出土遺物観察表(第244図)

番号	器名	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
551	陶器	天目茶碗	[12.1]	(4.8)	-	長石	にがい黄褐色	-	黒艶	鉄胎	瀬戸・美濃	17世紀前半	覆土中	20%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M41	小銅	(9.8)	1.2	0.5	(20.4)	青銅	断面は長楕円状	中層	PL52

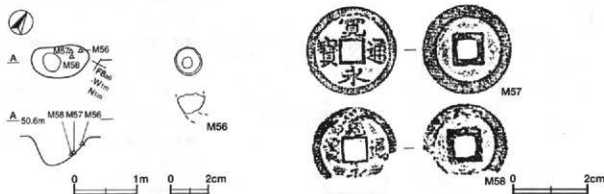
番号	銭名	径	孔	重量	初铸年	材質	特徴	出土位置	備考
M42	不明銭	2.3	0.5	(1.8)	-	銅	一部欠損	中層	

第1416号土坑(第245図)

位置 調査区中央部のE 8j5区に位置し, 台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径0.9m, 短径0.5mの楕円形で, 長径方向はN-57°-Eである。深さは50cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。

覆土 ロームブロックと鹿沼バミスをよく含む褐色土を基調としている。



第245図 第1416号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 銅製品1点(煙管の雁首)、古銭2点(寛永通寶)が出土している。M56・57・58ともに底面から出土している。

所見 出土遺物から、本跡は近世(17世紀末以降)の墓塚の可能性がある。

第1416号土坑出土遺物観察表(第245図)

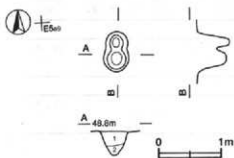
番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M56	煙 管	(1.4)	1.8	—	(1.0)	銅	火皿のみ残存	東側底面	

番号	銭名	径	孔	重量	初鋳年	材質	特 徴	出土位置	備 考
M57	寛永通寶	2.4	0.5	2.4	1636	銅	古寛永、無背銭	東側底面	PL62
M58	寛永通寶	2.3	0.6	(1.4)	1697	銅	新寛永、無背銭、一部欠損	東側底面	PL62

第1603号土坑(第246図)

位置 調査区西部のE 5e9区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径0.7m、短径0.4mの楕円形で、長径方向はN-0°である。深さは、北側がやや深くなっており45~55cmである。



覆土 2層からなり、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化物中量、ロームブロック少量
- 2 灰褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 人骨が覆土中から出土している。

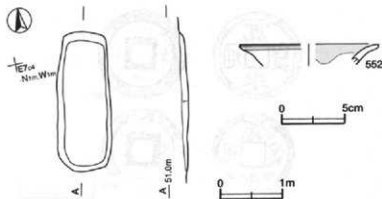
所見 本跡の近辺からはほぼ同形態の中世の墓塚が確認されていること、覆土中から人骨や炭化物が確認されていることから、中世の墓塚と考えられる。

第246図 第1603号土坑実測図

(6) 土 坑

第16号土坑(第247図)

位置 調査区中央部のE 7c4区に位置し、台地上の南側に立地している。



重複関係 第19号堅穴状遺構を掘り込んでいます。

規模と形状 長軸2.2m、短軸0.9mの長方形で、長軸方向はN-11°-Eである。深さは10cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層で薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量

第247図 第16号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片18点，土師器片17点，須恵器片2点，土師質土器片1点（内耳鍋），陶器片2点（甕，碗）が出土している。土師質土器片，陶器片以外は流れ込みによるものと考えられる。552は覆土中から出土している。

所見 南北軸の土坑であり，近辺からも同形態の土坑が確認されている。時期は，第19号竪穴状遺構を掘り込んでいることと出土土器から，中世後半以降と考えられる。

第16号土坑出土遺物観察表（第247図）

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	軸色	軸素	産地	年代	出土位置	備考
552	陶器	甕	[11.0]	(1.7)	-	長石	浅黄	-	オリブ黄	灰軸	-	-	覆土中	20%

第20号土坑（第248図）

位置 調査区中央部のE7c4区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係 第12号土坑を掘り込み，第5号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.4m，短軸1.0mの長方形で，長軸方向はN-9°-Eである。深さは18cmで，壁は直立している。底面は平坦である。

覆土 3層からなり，ロームブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

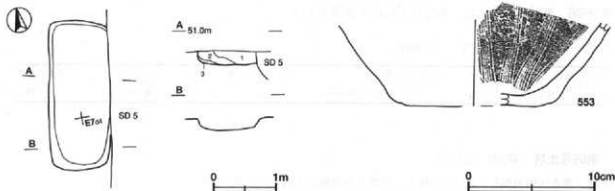
1 褐灰色 ロームブロック少量

2 灰褐色 ロームブロック中量

3 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片19点，須恵器片1点，土師器片5点，土師質土器片4点（櫛鉢）が出土している。土師質土器片以外は，人為堆積時の混入によるものと考えられる。553は覆土中から出土している。

所見 南北軸の長方形を呈した土坑であり，近辺からも同形態の土坑が確認されている。時期は，出土土器から中世と考えられる。



第248図 第20号土坑・出土遺物実測図

第20号土坑出土遺物観察表（第248図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
553	土師質土器	櫛鉢	-	(6.8)	[11.4]	石英-長石-雲母	濃い赤黒	普通	6条1単位の掘り目	覆土中	5%

第22号土坑（第249図）

位置 調査区中央部のE7f8区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係 第65号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.5m、短軸1.1mの長方形で、長軸方向はN-10°-Eである。深さは59cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

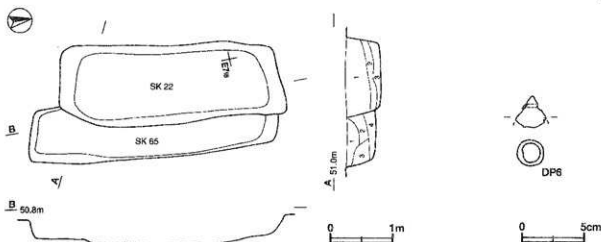
覆土 3層からなり、ロームブロックを多量に含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒多量 3 黒褐色 ロームブロック多量
2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片9点、土師器片7点、須恵器片1点、土師質土器片1点（内耳鍋）、土製品1点（土鈴）が出土している。DP6は覆土中から出土している。縄文土器片、土師器片、須恵器片は人為堆積時の混入と考えられる。

所見 南北軸の土坑であり、近辺からは同形態の土坑が多数確認されている。時期は、出土土器と本跡が掘り込んでいる第65号土坑から中世の遺物が確認されていることから、中世後半と考えられる。



第249図 第22・65号土坑・第22号土坑出土遺物実測図

第22号土坑出土遺物観察表（第249図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置	備考
DP6	土鈴	(2.4)	(2.4)	—	(5.6)	外面ナデ	覆土中	P1.57

第65号土坑（第249・250図）

位置 調査区中央部E788に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第66号土坑を掘り込み、第22号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.9m、短軸0.9mの長方形で、長軸方向はN-6°-Eである。深さは45cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

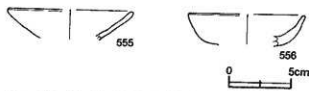
覆土 4層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼治ハミスブロック微量 3 黒褐色 焼治ハミス少量、ロームブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック・焼治ハミスブロック微量 4 黒褐色 ロームブロック・焼治ハミスブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片1点、土師器片6点、土師質土器片10点（小皿）、陶器片2点（皿）が出土している。縄文土器片、土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。555、556とも覆土中から出土している。

陶器片は小片で図示することができなかった。
 所見 南北軸の土坑であり、近辺からは同形態の土坑が多数確認されている。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第250図 第65号土坑出土遺物実測図

第65号土坑出土遺物観察表 (第250図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
555	土師質土器	小皿	[9.8]	(2.3)	-	赤色粘土・雲母	橙	普通	ナデ	覆土中	10%
556	土師質土器	小皿	[9.2]	(2.5)	-	長石・雲母	浅黄橙	普通	ナデ	覆土中	10%

第71号土坑 (第251図)

位置 調査区中央部のE715区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第759号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.3m、短軸0.9mの隅丸長方形で、長軸方向はN-77°-Wである。深さは23cmで、壁は直立している。底面は平坦である。

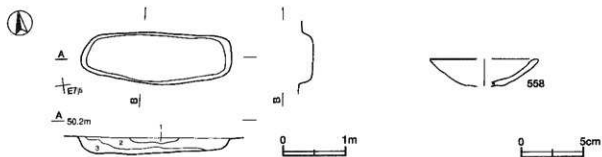
覆土 3層からなり、レンズ状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|--------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量 | 3 極暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片9点、土師器片10点、土師質土器片2点(小皿)が出土している。土師質土器片以外は流れ込みによるものと考えられる。558は覆土中から出土している。

所見 東西軸の土坑であり、周辺からは東西軸あるいは南北軸で同形態の土坑が多数確認されている。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第251図 第71号土坑・出土遺物実測図

第71号土坑出土遺物観察表 (第251図)

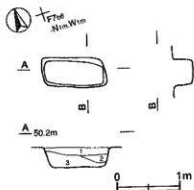
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
558	土師質土器	小皿	[8.4]	2.2	[3.0]	赤色粘土・雲母	にぶい橙	普通	ナデ	覆土中	20%

第77号土坑 (第252図)

位置 調査区中央部のF7a6区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第78号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.0m、短軸0.5mの長方形で、長軸方向はN-70°-Wである。深さは32cmで、壁は直立している。底面は平坦である。



第252図 第77号土坑実測図

覆土 3層からなり、ロームブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼沼バミスブロック少量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化殻少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 |

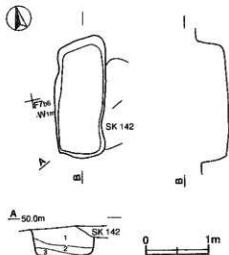
遺物出土状況 縄文土器片3点、土師質土器片2点（内耳鍋、小皿）、陶器片1点（碗）が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入と考えられる。遺物はすべて小片のため図示することができなかった。所見 時期は、出土土器から中世と考えられる。

第92号土坑（第253図）

位置 調査区中央部のF7b5区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第142号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.9m、短軸0.8mの長方形で、長軸方向はN-8°-Eである。深さは46cmで、壁はほぼ直立している。底面は平坦である。



第253図 第92号土坑実測図

覆土 3層からなり、ロームブロックを多量に含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼沼バミスブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量、焼沼バミスブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片2点、土師器片2点、土師質土器片7点（内耳鍋）が出土している。土師質土器片以外は人為堆積時の混入によるものと考えられる。内耳鍋片は小片のため図示することができなかったが、第2・3層から出土している。所見 南北軸の土坑であり、近辺からは同形盤の土坑が多数確認されている。時期は、出土土器から中世後半と考えられる。

第98号土坑（第254図）

位置 調査区中央部のF7b6区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第123号土坑に掘り込まれている。

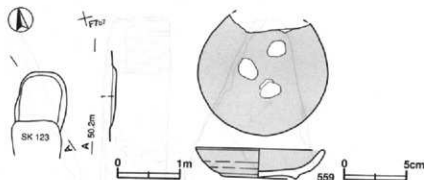
規模と形状 南側が第123号土坑に掘り込まれているため、南北軸は0.8mまでしか確認できなかった。東西軸は0.8mで、長軸方向はN-15°-Eである。深さは8cmで、壁は緩く外傾している。底面は平坦である。

覆土 覆土が薄く単一層のため、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 |
|-------|-----------|

遺物出土状況 陶器片3点
(皿)が出土している。559は
覆土中から出土している。
所見 南北軸の土坑であり、
近辺からは同形態の土坑が多
数確認されている。時期は、
559の生産地年代(瀬戸・美濃)
から17世紀代と考えられる。



第254図 第98号土坑・出土遺物実測図

第98号土坑出土遺物観察表 (第254図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	軸色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
559	陶器	丸皿	10.2	2.4	6.0	緻密	にぶい橙	-	暗赤褐	鉄釉	瀬戸・美濃	17世紀代	覆土中	80% PL54

第125号土坑 (第255・256図)

位置 調査区中央部のF7b5区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第155号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.2m、短軸0.8mの長方形で、長軸方向はN-24°-Eである。深さは57cmで、壁は直立している。底面は平坦である。

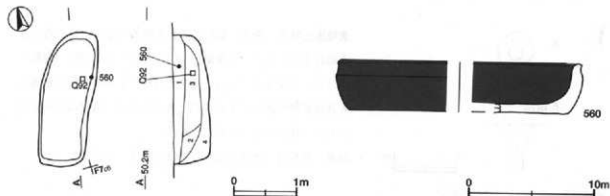
覆土 4層からなり、ロームブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|--------|-----------|
| 1 板硝褐色 | ロームブロック少量 | 3 板硝褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 縄文土器片2点、土師器片3点、土師質土器片7点(内耳鍋3、焙烙2、鉢2)、石器1点(砥石)が出土している。560は覆土上層から、Q92は覆土中層から出土している。

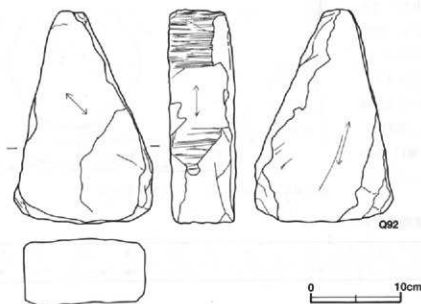
所見 南北軸の土坑であり、近辺からは南北軸あるいは東西軸で同形態の遺構が多数確認されている。時期は、出土土器から中世後半から近世初頭にかけてと考えられる。



第255図 第125号土坑・出土遺物実測図

第125号土坑出土遺物観察表 (第255・256図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
560	土師質土器	焙烙	[18.6]	4.0	[17.4]	石英・長石	にぶい黄橙	普通	体部横ナゲ	上層	25%



第256図 第125号土坑出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
Q92	砥石	23.0	14.9	7.4	3590.0	粘板岩	三面使用	中層	

第129号土坑（第257図）

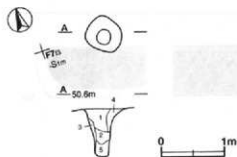
位置 調査区中央部のE7f3区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 径0.6mの円形である。深さは78cmで、ほぼ円筒状に掘り込まれている。

覆土 5層からなり、ロームブロックを多量に含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量 | | |



遺物出土状況 縄文土器片4点、土師器片1点、須恵器片2点、土師質土器片4点（内耳鍋）、瓦質土器片1点（鉢）、陶器片1点（碗）が出土している。縄文土器片や土師器片・須恵器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。遺物はすべて小片のため、図示することができなかった。

所見 時期は、出土土器から中世と考えられる。

第257図 第129号土坑実測図

第148号土坑（第258図）

位置 調査区西部のD5c6区に位置し、台地上の北側に立地している。

重複関係 第3号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.9m, 短径0.8mの楕円形で, 長径方向はN-56°-Wである。深さは27cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 3層からなり, レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

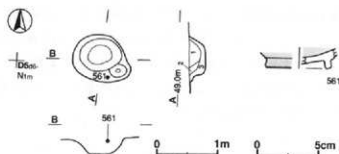
土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・炭化物微量
2 黒色 ローム粒子少量

- 3 黒褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片8点, 須恵器片1点, 陶器片1点(碗)が出土している。561は覆土上層から出土している。陶器片以外は流れ込みによるものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中世と考えられる。



第258図 第148号土坑・出土遺物実測図

第148号土坑出土遺物観察表(第258図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	輪軸	軸差	産地	年代	出土位置	備考
561	陶器	碗	-	(1.7)	[5.2]	長石	浅黄橙	-	黒黒	鉄軸	瀬戸・美濃	-	上層	20%

第220号土坑(第259図)

位置 調査区西部のD67区に位置し, 台地上の南側に立地している。

重複関係 第78号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.9m, 短径0.6mの楕円形で, 長径方向はN-47°-Wである。深さは30cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

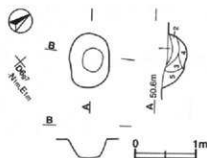
覆土 5層からなり, ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・焼土ブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・粘土ブロック微量
3 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量
4 褐色 ロームブロック中量
5 黒色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片3点, 土師器片5点, 須恵器片1点, 土師質土器片3点(内耳鍋)が出土している。土師質土器片以外は人為堆積時の混入によるものと考えられる。内耳鍋片は小片のため図示することができなかった。

所見 時期は, 出土土器から中世後半と考えられる。



第259図 第220号土坑実測図

第275号土坑(第260図)

位置 調査区中央部のE7a8区に位置し, 台地上の南側に立地している。

重複関係 第282・338号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 第338号土坑との重複により, 長軸は1.6mまでしか確認できなかった。短軸は0.7mで隅丸長方形

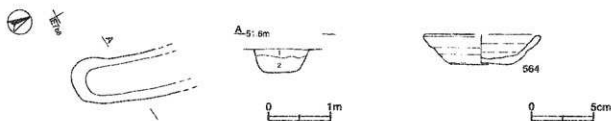
を呈していたものと推測される。長軸方向は $N-24^{\circ}-E$ である。深さは41cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 2層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

- 土層解説
 1 黒褐色 ロームブロック・炭灰パミス少量
 2 黒褐色 炭灰パミスブロック少量、ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片115点、土師器片11点、土師質土器片7点（内耳鍋2、小皿5）、陶器片1点（皿）が出土している。564は覆土中から出土している。内耳鍋片や陶器皿片は小片のため図示することができなかった。縄文土器片の出土数が多いのは、縄文時代の遺構を掘り込んでいるためと考えられる。

所見 南北軸の土坑であり、近辺からは南北軸もしくは東西軸で同形態の土坑が多数確認されている。時期は、出土遺物から中世後半と考えられる。



第260図 第275号土坑・出土遺物実測図

第275号土坑出土遺物観察表（第260図）

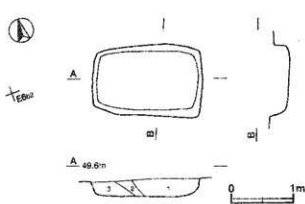
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
564	土師質土器	小皿	9.0	2.4	5.2	石灰・鉄石・赤色粘土・炭灰	緑	普通	ナデ	覆土中	50%

第291号土坑（第261図）

位置 調査区西部のE6b2区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長軸1.8m、短軸1.1mの長方形で、長軸方向は $N-61^{\circ}-W$ である。深さは26cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 3層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。



- 土層解説
 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
 2 黒褐色 ロームブロック少量
 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片8点、土師器片14点、須恵器片2点、土師質土器片6点（内耳鍋5、小皿1）が出土している。土師質土器片は小片のため図示することができなかった。

所見 東西軸の土坑であり、周辺からも東西軸あるいは南北軸で同形態の土坑が確認されている。時期は、出土土器から中世後半と考えられる。

第261図 第291号土坑実測図

第313号土坑（第262図）

位置 調査区中央部のD7J5区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第314号土坑を掘り込んでいる。

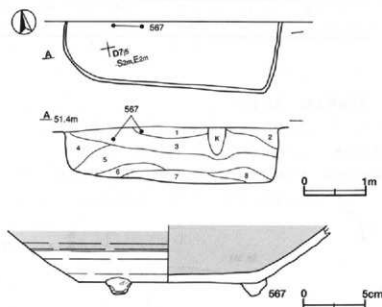
規模と形状 東西軸は3.7mであるが、南北軸は北側が調査区域外となっているため1.0mまでしか確認できなかった。隅丸長方形を呈していたものと推測される。長軸方向はN-75°-Wである。深さは90cmで、壁は直立している。底面は平坦である。

覆土 8層からなり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐色	ローム粒子多量
2	褐色	ロームブロック少量
3	褐色	ロームブロック多量
4	灰色	ロームブロック少量
5	褐色	ロームブロック中量
6	にぶい褐色	ロームブロック多量
7	黒褐色	ローム粒子少量
8	暗褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片34点、土師器片14点、須恵器片2点、陶器片2点（皿）が出土している。567は覆土上層から出土している。陶器片以外は人為堆積時の混入と考えられる。
所見 時期は、陶器皿の生産地年代（瀬戸・美濃）から15世紀代と考えられる。



第262図 第313号土坑・出土遺物実測図

第313号土坑出土遺物観察表（第262図）

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	軸色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
567	陶器	深皿	-	(5.7)	14.0	長石	淡黄	-	淡黄	灰釉	瀬戸・美濃	15世紀代	上層	20% 占拠PT

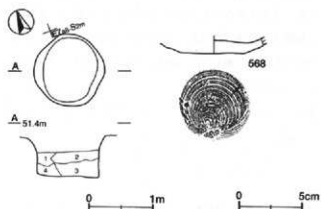
第330号土坑（第263図）

位置 調査区中央部のE7a7区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第273・325・338号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.1mの円形である。深さは65cmで、壁は直立している。底面は平坦である。

覆土 4層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。



第263図 第330号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、炭屑/バミズブロック微量
 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭屑/バミズ微量

3 黒褐色 ロームブロック少量、炭屑/バミズブロック微量
 4 黒褐色 ロームブロック少量、炭屑/バミズブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片32点、土師器片5点、須恵器片1点、陶器片1点(皿)が出土している。568は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中世と考えられる。

第330号土坑出土遺物観察表(第263図)

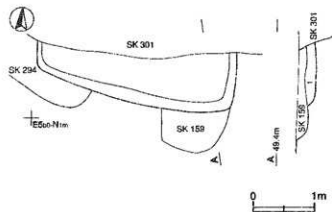
番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色面	絵付	釉色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
568	陶器	皿	-	(1.4)	5.0	緻密	灰青	-	灰	灰釉	瀬戸/美濃	古瀬戸	覆土中	5%

第358号土坑(第264図)

位置 調査区西部のE5a0区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第159・294・301号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は3.3mである。北側が第301号土坑に掘り込まれているため、南北軸は0.8mまでしか確認できなかった。長軸方向はN \sim 76 $^{\circ}$ -Wで、長方形を呈していたものと考えられる。深さは30cmで、壁は外傾



して立ち上がっている。底面は平坦である。
 覆土 単一層のため堆積状況は不明である。

土層解説

1 灰褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片4点、土師器片7点、土師質土器片18点(内耳鍋16、小皿1、鉢1)、瓦質土器片2点(火舎)が出土している。

所見 内耳鍋片が多数出土していることから、時期は中世後半と考えられる。

第264図 第358号土坑実測図

第387号土坑(第265図)

位置 調査区西部のE5a6区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第16号住居跡、第1723号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.7m、短軸1.2mの長方形で、長軸方向はN \sim 33 $^{\circ}$ -Wある。深さは50cmで、壁は直立している。底面は平坦である。

覆土 5層からなり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

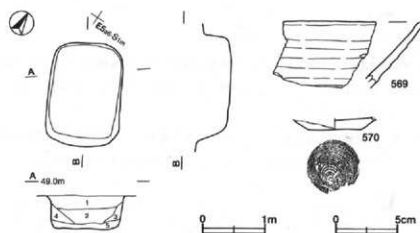
土層解説

1 灰褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量
 3 黒褐色 ロームブロック少量

4 灰褐色 ロームブロック中量
 5 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片6点、陶器片3点(皿)が出土している。569、570は覆土中から出土している。土師器片は人為堆積時の混入と考えられる。

所見 569は生産地年代（瀬戸・美濃）では、15世紀前葉に位置付けられていることから、時期は15世紀代と考えられる。



第265図 第387号土坑・出土遺物実測図

第387号土坑出土遺物観察表（第265図）

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	輪色	輪素	産地	年代	出土位置	備考
569	陶器	大皿	—	(5.3)	—	緻密	灰黄	—	灰オリーブ	灰輪	瀬戸・美濃	15世紀前葉	覆土中	5% 古瀬戸
570	陶器	皿	—	(1.0)	4.3	長石	灰褐	—	—	—	瀬戸・美濃	—	覆土中	20% 古瀬戸

第406号土坑（第266図）

位置 調査区中央部のF 8e2区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径0.6m，短径0.5mの楕円形で，長径方向はN-54°-Wである。深さは71cmで，壁は直立している。

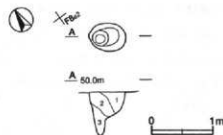
覆土 3層からなり，ブロックを多く含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 灰 褐色 ローム粒子・奥沼パミスブロック中量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック・奥沼パミスブロック中量
- 3 褐 灰色 奥沼パミスブロック中量，ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片3点，土師器片1点，土師質土器片1点（小皿），陶器片2点（碗）が出土している。縄文土器片，土師器片は人為堆積時の混入と考えられる。土師質土器片，陶器片とも小片のため図示することができなかった。

所見 時期は，出土土器から中世と考えられる。



第266図 第406号土坑実測図

第421号土坑（第267図）

位置 調査区中央部のE 7e6区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係 第419号土坑を掘り込み，ピットに掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.0m，短軸1.0mの隅丸長方形で，長軸方向はN-18°-Eである。深さは30cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。

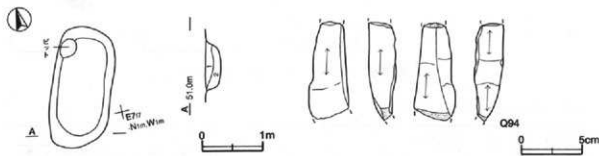
覆土 2層からなり，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片5点、土師質土器片11点（内耳鍋9、小皿2）、陶器片2点（皿）、石器1点（砥石）、鉄滓2点が出土している。Q94は覆土中から出土している。土師質土器片、陶器片とも小片のため図示することができなかった。

所見 南北軸の土坑であり、近辺からは南北軸もしくは東西軸で同形態の遺構が多数確認されている。時期は、陶器片や土師質土器片が出土していることから中世後半と考えられる。



第267図 第421号土坑・出土遺物実測図

第421号土坑出土遺物観察表（第267図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q94	砥石	(8.0)	3.4	2.3	(72.3)	凝灰質礫岩	四面使用	覆土中	

第437号土坑（第268図）

位置 調査区西部のE 5 a7区に位置し、台地上の南側に立地している。

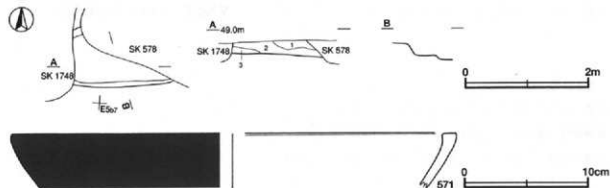
重複関係 第578・1748号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東側、西側とも土坑に掘り込まれているため東西軸の規模は不明である。南北軸は1.0mで長方形形状を呈していたものと推測される。深さは25cmで、底面は平坦である。

覆土 3層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック少量
3 灰褐色 ロームブロック少量



第268図 第437号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片13点, 須恵器片1点, 土師質土器片12点(内耳鍋11, 小皿1), 瓦質土器片1点(鉢), 陶器片1点(皿)が出土している。571は覆土中から出土している。他の土器については小片のため図示できなかった。

所見 東西軸の土坑と考えられ, 重複関係にある他の土坑も東西軸や南北軸の長方形形状を呈している。時期は, 遺構の形態や出土土器から中世後半と考えられる。

第437号土坑出土遺物観察表 (第268図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
571	土師質土器	内耳鍋	[36.0]	(4.0)	—	長石・雲母	赤褐	普通	ナデ	覆土中	5%

第438号土坑 (第269図)

位置 調査区西部D 5j1区に位置し, 台地上の南側に立地している。

重複関係 第11・12号住居跡, 第447号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.2m, 短軸1.0mの長方形形状で, 長軸方向はN-24°-Eである。深さは25cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 3層からなり, ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

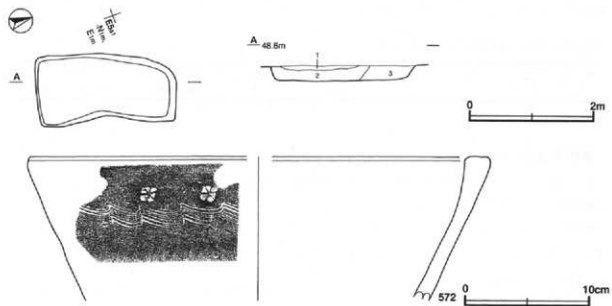
1 灰褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量

3 灰褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片8点, 土師質土器片4点(内耳鍋), 瓦質土器片4点(甕3, 鉢1), 陶器片2点(碗) 鉄滓1点が出土している。572は覆土中から出土している。その他の土器は小片のため図示できなかったが, ほとんどが覆土下層から出土している。土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 南北軸の土坑で, 近辺からもほぼ同形態の土坑が多数確認されている。時期は, 出土土器から中世後半と考えられる。



第269図 第438号土坑・出土遺物実測図

第438号土坑出土遺物観察表（第269図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
572	瓦質土器	火鉢	[35.6]	(11.5)	—	白色粒子	褐灰	普通	ナデ、外面に花文スタンプ印、波状文	覆土中	5%

第439号土坑（第270図）

位置 調査区中央部F7b8区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1719号土坑に掘り込まれている。

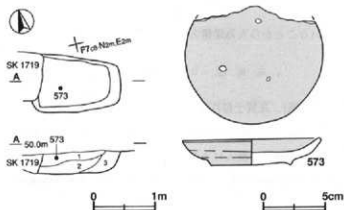
規模と形状 第1719号土坑に掘り込まれており、東西軸は1.3mまでしか確認できなかった。南北軸は0.9mでほぼ長方形を呈していたものと推測される。長軸方向はN-72°-Wである。深さは35cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 3層からなり、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 鹿沼バミスブロック・小礫少量、ロームブロック微量 3 極暗褐色 小礫少量、ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量
2 極暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック・小礫少量

遺物出土状況 土師器片1点、土師質土器片1点（内耳鍋）、瓦質土器片2点（鉢）、陶器片1点（皿）が出土



している。573は覆土上層から出土している。土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 南北軸の土坑であり、近辺からも南北軸もしくは東西軸で同形態の土坑が多数確認されている。時期は、573の生産地年代（瀬戸・美濃）が17世紀前半に位置付けられていることから、17世紀代と考えられる。

第270図 第439号土坑・出土遺物実測図

第439号土坑出土遺物観察表（第270図）

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	軸色	軸素	産地	年代	出土位置	備考
573	陶器	丸皿	11.1	2.2	6.4	白色粒子	灰黄褐	—	にぶい青帯	灰軸	瀬戸・美濃	17世紀前半	上層	70% PL54

第497号土坑（第271図）

位置 調査区中央部のF8b6区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 ビットに掘り込まれている。

規模と形状 径1.0mの円形である。深さは16cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

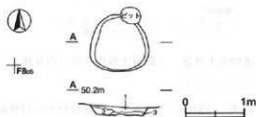
覆土 3層からなり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック中量 3 暗褐色 ロームブロック中量
2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片1点, 土師質土器片6点(内耳鍋6), 瓦質土器片2点(火舎)が出土している。出土土器は小片のため図示することができなかったが, 内耳鍋片は覆土中層から出土している。土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中世後半と考えられる。



第271図 第497号土坑実測図

第498号土坑 (第272図)

位置 調査区西部のE 6 d2区に位置し, 台地上の南側に立地している。

重複関係 第499号土坑を掘り込み, ビットに掘り込まれている。

規模と形状 長軸, 短軸ともに1.6mの不定形である。深さは20cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

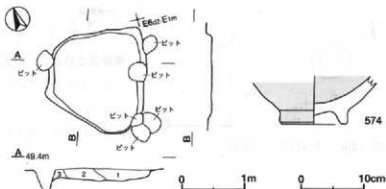
覆土 3層からなり, ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 緑褐色 ロームブロック少量, 炭化物・遺灰・ヒスブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片2点(内耳鍋, 鉢), 陶器片1点(碗)が出土している。574は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から近世と考えられる。



第272図 第498号土坑・出土遺物実測図

第498号土坑出土遺物観察表 (第272図)

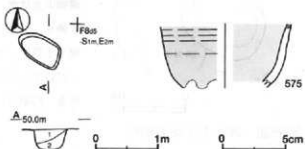
番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
574	陶器	碗	—	(3.9)	(5.2)	長石	にがい黄橙	—	にがい黄橙	灰釉	—	—	覆土中	30%

第501号土坑 (第273図)

位置 調査区中央部のF 8 d5区に位置し, 台地上の南側に立地している。

規模と形状 長軸0.7m, 短軸0.4mの不定形で, 長軸方向はN-76°-Wである。深さは30cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。

覆土 2層からなり, ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。



第273図 第501号土坑・出土遺物実測図

土層解説	
1	褐色 romeブロック中量、産沼バミスブロック微量
2	黒褐色 romeブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片9点(内耳鍋6, 小皿3), 陶器片1点(碗)が出土している。575は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から16世紀から17世紀代と考えられる。

第501号土坑出土遺物観察表(第273図)

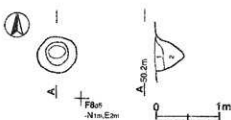
番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	輪色	輪草	産地	年代	出土位置	備考
575	陶器	碗	-	(5.2)	-	緻密	明褐色	-	鉄ナシ	-	-	-	覆土中	10%

第502号土坑(第274図)

位置 調査区中央部のF8d5区に位置し, 台地上の南側に立地している。

規模と形状 径0.6mの円形である。深さは50cmで壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層からなり, romeブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。



土層解説	
1	褐色 romeブロック・産沼バミスブロック微量
2	黒褐色 romeブロック中量、炭化物微量

遺物出土状況 土師質土器片2点(指鉢, 小皿), 陶器片1点(皿)が出土している。いずれも小片のため図示することができなかった。

所見 時期は, 出土土器から中世と考えられる。

第274図 第502号土坑実測図

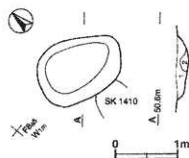
第516号土坑(第275図)

位置 調査区西部のF8a5区に位置し, 台地上の南側に立地している。

重複関係 第515号土坑を掘り込み, 第1410号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.4m, 短径1.0mの楕円形で長径方向はN-66°-Wである。深さは20cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層からなり, 含有物から人為堆積と考えられる。



土層解説	
1	におい褐色 産沼バミス少量
2	褐色 romeブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片1点, 土師器片1点, 土師質土器片8点(内耳鍋6, 小皿2), 瓦質土器片1点(鉢), 陶器片1点が出土している。縄文土器片, 土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。土器はすべて小片のため図示することができなかった。

所見 時期は, 出土土器から中世後半以降と考えられる。

第275図 第516号土坑実測図

第526号土坑 (第276図)

位置 調査区中央部のE 8J4区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径1.6m, 短径1.3mの楕円形で、主軸方向はN-71°-Wである。深さは52cmで壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 ロームブロックを多く含んだ褐色土を基調としていたことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片3点, 土師器片4点, 土師質土器片6点(内耳鍋4, 小皿1, 火舎1)が出土している。577, 578はいずれも底面から出土している。縄文土器片, 土師器片は人為堆積時の混入と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中世後半と考えられる。



第276図 第526号土坑・出土遺物実測図

第526号土坑出土遺物観察表 (第276図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
577	土師質土器	小皿	[6.2]	2.2	4.2	長石	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	北側底面	70%
578	土師質土器	火舎	-	[3.3]	-	石英・長石	橙	普通	内面ヘラナデ	北側底面	5%

第577号土坑 (第277図)

位置 調査区西部E 5a8区に位置し、台地上の南側に立地している。

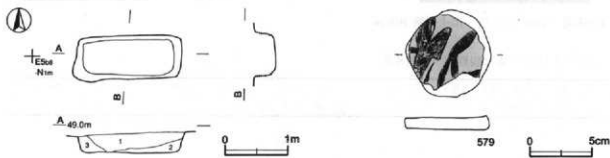
規模と形状 長軸1.7m, 短軸0.7mの長方形で、長軸方向はN-90°である。深さは34cmで、壁は直立している。底面は平坦である。

覆土 3層からなり、ロームブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック中量
2 黒褐色 ロームブロック少量

- 3 褐灰色 ロームブロック少量



第277図 第577号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器9点, 須恵器1点, 土師質土器片2点(内耳鍋), 瓦質土器片1点(火舎), 陶器片1点(皿)が出土している。土師器片, 須恵器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。579は陶器皿の底部である。周縁が削られ円盤状になっている。

所見 時期は, 出土土器から中世後半以降と考えられる。579は砥石的な用途に使われたことも考えられる。

第577号土坑出土遺物観察表(第277図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼付	釉色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
579	陶器	皿	-	(L.L)	-	長石	淡黄	-	灰黄	-	-	-	覆土中	5% 周縁を砥石に転用

第611号土坑(第278図)

位置 調査区中央部のF7b3区に位置し, 台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径0.5m, 短径0.4mの楕円形で, 長径方向はN-15°-Eある。深さは40cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

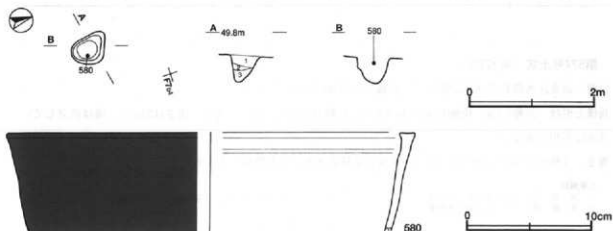
覆土 3層からなり, 含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・底沼バミスブロック少量 3 暗褐色 ロームブロック中量
 2 暗褐色 ロームブロック・底沼バミスブロック少量, 炭化物微量

遺物出土状況 土師質土器片10点(内耳鍋)が出土している。580は覆土中層から出土しており, 深手の内耳鍋と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中世後半と考えられる。



第278図 第611号土坑・出土遺物実測図

第611号土坑出土遺物観察表(第278図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
580	土師質土器	内耳鍋	(32.6)	(8.0)	-	長石	にぶい橙	普通	口縁部ヘラナデ	中層	5%

第620号土坑 (第279図)

位置 調査区中央部のF7c4区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長軸1.2m、短軸0.6mの不定形である。深さは75cmで、壁は直立している。

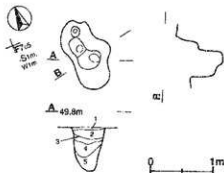
覆土 5層からなり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミスブロック微量
4 暗褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ロームブロック・鹿沼パミスブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片1点、土師質土器片2点(内耳銅)、瓦質土器片1点(鉢)が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入と考えられる。土器はすべて小片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第279図 第620号土坑実測図

第658号土坑 (第280図)

位置 調査区西部のE7g5区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第383・385・660号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.8m、短軸1.0mの長方形で、長軸方向は $N-5^{\circ}-E$ である。深さは20cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層からなり、含有物から人為堆積と考えられる。

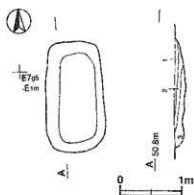
土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、鹿沼パミスブロック微量
2 暗褐色	鹿沼パミスブロック多量、ローム粒少量
3 灰褐色	鹿沼パミス多量、ローム粒少量

遺物出土状況 土師器片2点、土師質土器片11点(内耳銅)が出土している。すべて小片のため図示できなかった。土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 南北軸の土坑で、近辺からも同形態の土坑が確認されている。

時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第280図 第658号土坑実測図

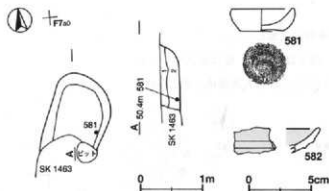
第699号土坑 (第281図)

位置 調査区中央部のF7a0区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1463号土坑、ピットに掘り込まれている。

規模と形状 南側が第1463号土坑に掘り込まれているため、南北軸は1.0mまでしか確認できなかった。東西軸は1.0mで、隅丸長方形形状を呈していたものと考えられる。長軸方向は $N-23^{\circ}-E$ である。深さは28cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平型である。

覆土 2層からなり、含有物から人為堆積と考えられる。



第281図 第699号土坑・出土遺物実測図

- 土層解説
 1 暗褐色 ローム粒子・産沼バミス中量
 2 褐色 ローム粒子・産沼バミス中量

遺物出土状況 土師質土器片5点（内耳鍋3，小皿2），陶器片1点（皿カ）が出土している。581は底面から，582は覆土中から出土している。

所見 南北軸の土坑で，近辺からもほぼ同形態の土坑が多数確認されている。時期は，出土土器から16世紀後半から17世紀代と考えられる。

第699号土坑出土遺物観察表（第281図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
581	土師質土器	小皿	4.9	1.8	3.4	赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	底面	80% PL54

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	胎付	軸色	軸差	産地	年代	出土位置	備考
582	陶器	皿カ	-	(1.9)	-	緻密	浅黄	-	浅黄	灰軸	瀬戸・美濃	-	覆土中	5%

第710号土坑（第282図）

位置 調査区中央部E716区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係 第23号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.8m，短径0.7mの楕円形で，長径方向はN-24°-Wである。深さは47cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

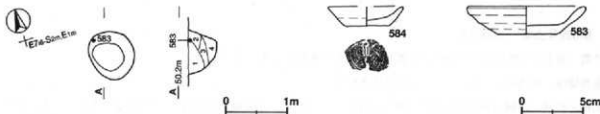
覆土 4層からなり，ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・産沼バミス少量，炭化物微量 3 褐色 ロームブロック・産沼バミスブロック少量
 2 暗褐色 ローム粒子・産沼バミス少量，焼土粒子微量 4 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片5点，土師器片6点，土師質土器片10点（内耳鍋4，小皿6）が出土している。583は覆土上層から出土している。584は覆土中から出土している。内耳鍋片は小片のため図示できなかった。縄文土器片や土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から15世紀後半から16世紀代と考えられる。



第282図 第710号土坑・出土遺物実測図

第710号土坑出土遺物観察表 (第282図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
583	土師質土器	小皿	9.4	2.2	4.8	灰青・長台・雲母・赤色胎子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	土師	90%
584	土師質土器	小皿	[6.0]	1.6	3.6	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	40%

第720号土坑 (第283図)

位置 調査区西部のE 5 d0区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第12号溝に掘り込まれている。

規模と形状 一辺が1.0mの方形である。深さは22cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

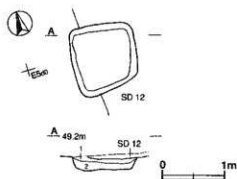
覆土 2層からなり、ロームブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 灰褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片4点、土師器片25点、土師質土器片16点(内耳鍋)、鉄製品(不明)が出土している。縄文土器片や土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。出土土器は小片のため図示することができなかった。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第283図 第720号土坑実測図

第721号土坑 (第284図)

位置 調査区西部のE 5 d0区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第433・634号土坑を掘り込み、第12号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.4m、短軸0.8mの長方形で、長軸方向はN-12°-Eである。上部が第12号溝に掘り込まれているため、確認できた深さは15cmである。壁は外傾して立ち上がり、底面は平坦である。

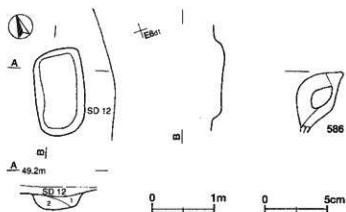
覆土 2層からなり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片3点、土師質土器片24点(内耳鍋22、揺鉢1、小皿1)が出土している。586は覆土中から出土している。土師器片は人為堆積時の混入と考えられる。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第284図 第721号土坑・出土遺物実測図

第721号土坑出土遺物観察表（第284図）

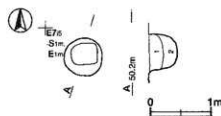
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
586	土師製土器	内耳鍋	—	(4.8)	—	灰行・空母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	ナデ、外面燻付索	覆土中	5%

第728号土坑（第285図）

位置 調査区西部のE 715区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 径0.6mの円形である。深さは45cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。

覆土 2層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。



土層解説

- 1 褐色 rome粒子・炭屑バミス少量
- 2 褐色 rome粒子・炭屑バミス少量

遺物出土状況 縄文土器片1点、土師質土器片3点（内耳鍋）が出土している。縄文土器片は流れ込みによるものと考えられる。出土土器は小片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。

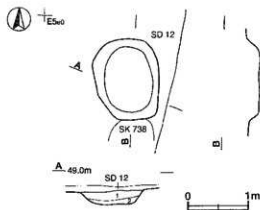
第285図 第728号土坑実測図

第735号土坑（第286図）

位置 調査区西部のE 5e0区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第12号溝、第738号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.4m、短径1.1mの楕円形で、長径方向はN-10°-Wである。上部が第12号溝に掘り込まれているため、深さは20cmまでしか確認できなかった。壁は外傾して立ち上がっており、底面は平坦である。



覆土 2層からなり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 romeブロック多量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 灰褐色 romeブロック中量、炭化物微量

遺物出土状況 土師質土器片10点（内耳鍋9、小皿1）が出土している。いずれも細片のため図示することができなかった。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。

第286図 第735号土坑実測図

第738号土坑（第287図）

位置 調査区西部のE 5e0区に位置し、台地上の南側に立地している。

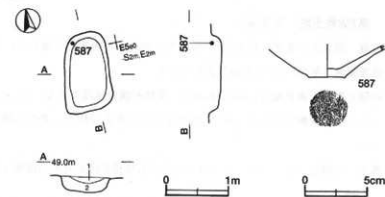
重複関係 第12号溝跡、第735号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.2m, 短軸0.7mの長方形で, 主軸方向はN-10°-Eである。深さは20cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 2層からなり, ロームブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

- 土層解説
 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片4点, 土師器片2点, 土師質土器片18点(内耳鍋17, 小皿1)が出土している。587は覆土上層から出土している。縄文土器片, 土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。
 所見 時期は, 第12号溝跡を掘り込んでいることと出土土器から, 中世後半以降と考えられる。



第287図 第738号土坑・出土遺物実測図

第738号土坑出土遺物観察表 (第287図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
587	土師質土器	小皿	-	(2.7)	2.9	長石	にぶい黄碧	普通	底部回転未切り	上層	60%

第748号土坑 (第288図)

位置 調査区中央部F7b8区に位置し, 台地上の南側に立地している。

重複関係 第1718・1719号土坑に掘り込まれている。

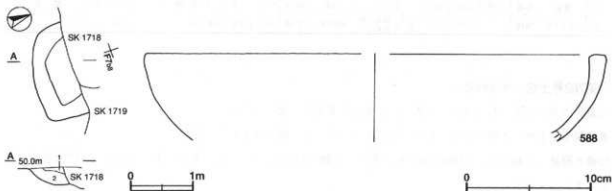
規模と形状 重複により確認された長さは東西軸1.6m, 南北軸0.6mである。深さは27cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層からなり, ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

- 土層解説
 1 暗褐色 鹿沼バミスブロック少量, ロームブロック・焼土粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋), 瓦質土器片1点(火舎)が出土している。

所見 時期は, 出土土器から中世後半と考えられる。



第288図 第748号土坑・出土遺物実測図

第748号土坑出土遺物観察表（第288図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
588	瓦質土器	火舎	[36.6]	(7.0)	—	長石・赤色粒子	褐灰	普通	ナダ	中層	10%

第758号土坑（第289図）

位置 調査区中央部のE 717区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第757号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南北軸は1.4mであるが、東側が調査区域外となっているため、東西軸は1.1mまでしか確認できなかった。長軸方向がN-87°-Wの長方形と考えられる。深さは58cmで、壁は直立している。底面は平坦である。

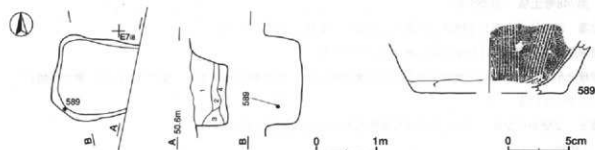
覆土 4層からなり、ロームブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 無暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量 3 暗褐色 鹿沼パミスブロック少量、ロームブロック微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミスブロック微量 4 褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片6点、土師器片2点、須恵器片1点、土師質土器片9点（内耳鍋4、櫛鉢2、小皿3）瓦質土器片1点（鉢）、鉄滓2点が出土している。589は覆土中層から出土している。縄文土器片、土師器片、須恵器片は人為堆積時の混入と考えられる。

所見 東西軸の土坑と考えられ、近辺からも同形態の土坑が多数確認されている。時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第289図 第758号土坑・出土遺物実測図

第758号土坑出土遺物観察表（第289図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
589	土師質土器	櫛鉢	—	(4.0)	(12.4)	石英・長石・赤母・赤色粒子	明赤褐	普通	8条1単位の櫛目	中層	10%

第762号土坑（第290図）

位置 調査区西部のE 5c8区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 東壁、西壁でそれぞれ対になるようにピットに掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.0m、短軸0.9mの長方形で、長軸方向はN-6°-Eである。深さは30cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層からなり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒色 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
 2 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片2点、土師質土器片2点（内耳鍋）が出土している。590は深手の内耳鍋で、覆土中層から出土している。底面からは炭化材が数点出土している。土師器片は人為堆積時の混入と考えられる。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第290図 第762号土坑・出土遺物実測図

第762号土坑出土遺物観察表（第290図）

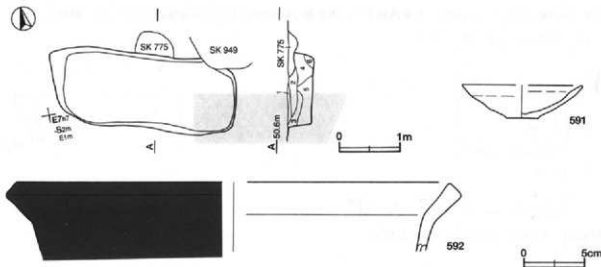
番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
590	土師質土器	内耳鍋	[28.8]	(13.2)	-	石英・長石・雲母	にぶい黒	普通	ナデ	中層	10%

第776号土坑（第291図）

位置 調査区西部のE7h7区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第28・56号土坑を掘り込んでおり、第775・949号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.0m、短軸1.2mの長方形で、長軸方向はN-62°-Wである。深さは43cmで、壁はほぼ直立している。底面は平坦である。



第291図 第776号土坑・出土遺物実測図

覆土 6層からなり、ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説					
1	暗褐色	ロームブロック少量	4	にぶい褐色	ロームブロック中量
2	褐色	ロームブロック少量	5	褐色	ロームブロック多量
3	褐色	ロームブロック中量	6	褐色	流沼パミスブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片12点, 土師器片9点, 土師質土器片22点(内耳鍋14, 小皿6, 鉢2)が出土している。591, 592とも覆土中から出土している。縄文土器片や土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 東西軸の土坑で, 近辺からも東西軸または南北軸で同形態の土坑が多数確認されている。時期は, 出土土器から中世後半以降と考えられる。

第776号土坑出土遺物観察表 (第291図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
591	土師質土器	小皿	[9.8]	2.7	2.6	赤色粒子	浅黄褐色	普通	ナデ, 内面剥離	覆土中	15%
592	土師質土器	内耳鍋	[35.2]	(5.7)	-	石英・炭石・雲母	にぶい褐色	普通	ナデ	覆土中	5%

第785号土坑 (第292図)

位置 調査区中央部のE7g6区に位置し, 台地上の南側に立地している。

重複関係 ビットに掘り込まれている。

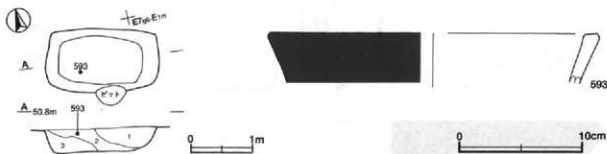
規模と形状 長軸1.8m, 短軸1.0mの長方形で, 長軸方向はN-77°-Wである。深さは40cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 3層からなり, ロームブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説					
1	灰褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量	3	褐色	ロームブロック中量
2	褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量			

遺物出土状況 縄文土器片8点, 土師器片8点, 土師質土器片2点(内耳鍋, 小皿), 陶器片1点(碗)が出土している。593は覆土上層から出土している。縄文土器片, 土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 東西軸の土坑で, 近辺からも東西軸または南北軸で同形態の土坑が多数確認されている。時期は, 出土土器から中世後半以降と考えられる。



第292図 第785号土坑・出土遺物実測図

第785号土坑出土遺物観察表（第292図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
593	土師質土器	内耳鍋	[26.4]	(4.1)	—	石灰・長石・雲母	にぶい焼	普通	口縁部横ナデ	上層	5%

第788号土坑（第293図）

位置 調査区中央部のE7h7区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1899号土坑、ピットに掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.4m、短軸0.9mの長方形で長軸方向はN-30°-Eである。深さは25cmで壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

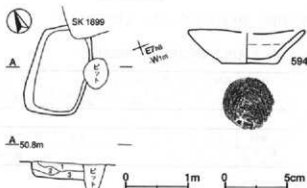
覆土 3層からなり、ロームブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 地 褐色 ロームブロック中量、煎沼パミスブロック少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、煎沼パミスブロック少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・煎沼パミスブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片9点、土師器片2点、土師質土器片3点（内耳鍋1、小皿2）が出土している。594は覆土中から出土している。縄文土器片、土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 南北軸の土坑で、近辺からも南北軸または東西軸で同形態の土坑が多数確認されている。時期は、出土土器から中世後半以降と考えられる。



第293図 第788号土坑・出土遺物実測図

第788号土坑出土遺物観察表（第293図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
594	土師質土器	小皿	[9.2]	2.7	4.4	長石・赤色粒子	褐色	普通	底部回転糸切り	覆土中	80%

第838号土坑（第294図）

位置 調査区西部のF10i5区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径1.0m、短径0.6mの楕円形で、主軸方向はN-69°-Eである。深さは34cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

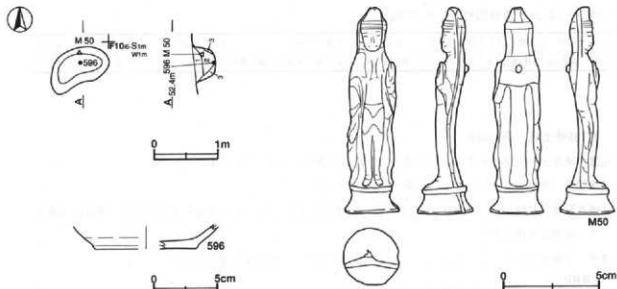
覆土 3層からなり、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点、土師質土器片2点（内耳鍋、小皿）、金属製品1点（銅造観世菩薩立像）、石器1点（凹石）が出土している。M50は覆土中層から頭部を東側へ向けた横位で、596は底面から出土している。縄文土器片や凹石は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 時期は、596やM50から中世と考えられる。



第294図 第838号土坑・出土遺物実測図

第838号土坑出土遺物観察表 (第294図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
596	土師質土器	小皿	—	(1.8)	(8.0)	長石・赤色粒子・雲母	に濃い黄緑	普通	ナデ	底面	10%
番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	数	出土位置	備考	
M50	覆土音響直立像	10.6	2.9	—	125.0	青銅	鍍金		中層		

第889号土坑 (第295図)

位置 調査区中央部のF 8 c1区に位置し、台地上の南側に位置している。

規模と形状 長径1.2m、短径1.0mの楕円形で、長径方向はN-26°-Eである。深さは26cmで、壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

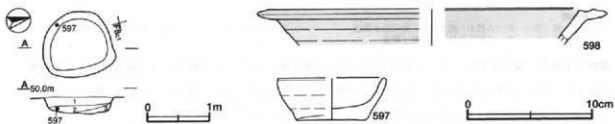
覆土 3層からなり、ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・鹿沼パミス 2 黒褐色 鹿沼パミスブロック少量、焼土粒子微量
 ロック微量 3 黒褐色 鹿沼パミスブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片1点、土師器片1点、土師質土器片4点(内耳鍋2、小皿1、鉢1)、瓦質土器片1点(鉢)、陶器片1点(甕)が出土している。597は覆土中層から、598は覆土中から出土している。縄文土器片、土師器片は人為堆積時の混入と考えられる。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



第295図 第889号土坑・出土遺物実測図

第889号土坑出土遺物観察表 (第295図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
597	土師質土器	小皿	[8.5]	3.4	5.5	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	底部回転糸切り	中層	60%

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	軸色	軸葉	産地	年代	出土位置	備考
598	陶器	皿	[25.8]	(2.9)	—	長石	浅黄	—	—	灰軸	瀬戸・美濃	15世紀後半	覆土中	10%

第891号土坑 (第296図)

位置 調査区中央部のF 8 a2区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第890号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.4m、短軸0.9mの長方形で、長軸方向はN-0°である。深さは30cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

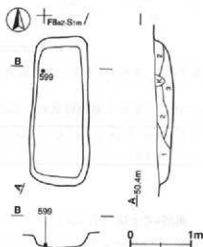
覆土 3層からなり、ロームブロックを多量に含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

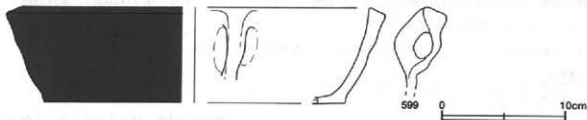
- 1 層 褐色 鹿沼パミスブロック中量、ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 2 層 褐色 ロームブロック多量、鹿沼パミスブロック少量
- 3 層 褐色 鹿沼パミスブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片2点、土師器片7点、土師質土器片5点(内耳鍋3、小皿2)、瓦質土器片1点(鉢)が出土している。599は浅手の内耳鍋で、底面から出土している。縄文土器片、土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から16世紀から17世紀代と考えられる。



第296図 第891号土坑実測図



第297図 第891号土坑出土遺物実測図

第891号土坑出土遺物観察表 (第297図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
599	土師質土器	内耳鍋	[27.7]	7.7	[24.0]	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	ナデ	底面	20%

第892号土坑 (第298図)

位置 調査区中央部のF 8 c1区に位置し、台地上の南側に立地している。

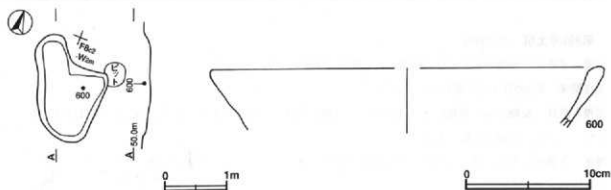
重複関係 ビットに掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.8m、短軸1.0mの不定形で、長軸方向はN-34°-Wである。深さは9cmで壁は緩く外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

覆土 ロームブロックや鹿沼バミスブロックを含んだ褐色土を基調としている。

遺物出土状況 縄文土器片5点, 土師器片11点, 土師質土器片4点(播鉢2, 小皿2), 瓦質土器片4点(鉢)が出土している。600は覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中世と考えられる。



第296図 第892号土坑・出土遺物実測図

第892号土坑出土遺物観察表 (第298図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
600	瓦質土器	鉢	(31.2)	(5.0)	-	長石	褐灰	普通	ナデ	上層	5%

第894号土坑 (第299図)

位置 調査区中央部のF 8 b1区に位置し, 台地上の南側に立地している。

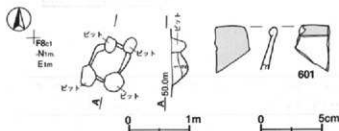
重複関係 周囲を4基の小ピットに掘り込まれている。

規模と形状 長軸0.7m, 短軸0.6mの長方形で, 長軸方向はN-30°-Eである。深さは25cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。

覆土 2層からなり, ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 層 地色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量
- 2 層 地色 鹿沼バミスブロック少量, ロームブロック・粘土ブロック微量



第299図 第894号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片1点, 土師器片3点, 土師質土器片2点(内耳鍋), 陶器片1点(不明)が出土している。601は覆土中から出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中世後半と考えられる。

第894号土坑出土遺物観察表 (第299図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	胎付	釉色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
601	陶器	不明	-	(3.6)	-	長石	褐灰	-	オリブ灰	-	-	-	覆土中	5%

第896号土坑 (第300図)

位置 調査区中央部のF 8 b1区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1313号土坑を掘り込んでいる。

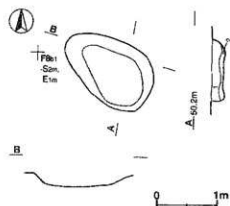
規模と形状 長径1.7m, 短径1.1mの楕円形で、長径方向はN-44°-Wである。深さは20cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 2層からなり、ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説	
1 暗褐色	ロームブロック・炭泥バミスブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭泥バミスブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片1点, 須恵器片1点, 土師質土器片2点(内耳鍋, 摺鉢), 瓦質土器片1点(鉢), 陶器片2点(摺鉢), 石器1点(砥石)が出土している。縄文土器片, 須恵器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。土器はいずれも細片のため図示することができなかった。

所見 時期は, 出土土器から中世後半と考えられる。



第300図 第896号土坑実測図

第897号土坑 (第301図)

位置 調査区中央部のF 8 b1区に位置し、台地上の南側に立地している。

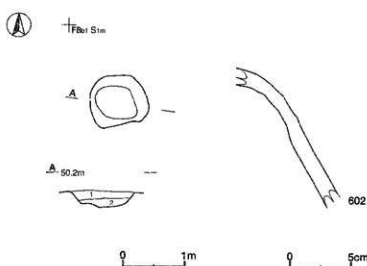
規模と形状 長径1.0m, 短径0.9mの楕円形で、長径方向はN-76°-Wである。深さは27cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。

覆土 2層からなり、ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説	
1 黒褐色	炭泥バミスブロック多量, ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量
2 黒褐色	炭泥バミスブロック多量, ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片1点, 土師質土器片2点(内耳鍋, 摺鉢), 陶器片5点(甕)が出土している。602は覆土中から出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中世後半と考えられる。



第301図 第897号土坑・出土遺物実測図

第897号土坑出土遺物観察表 (第301図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	胎付	軸色	軸葉	産地	年代	出土位置	備考
602	陶器	罌	-	(11.3)	-	石英・長石	黄灰	-	-	-	常滑	-	覆土中	5%

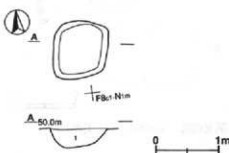
第898号土坑 (第302・303図)

位置 調査区中央部のF 8 b1区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第21号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.0m、短軸0.9mの隅丸長方形で、主軸方向がN-10°-Eである。深さは30cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。

覆土 単一層で、ブロックや炭化材を含む堆積状況から人為堆積と考えられる。



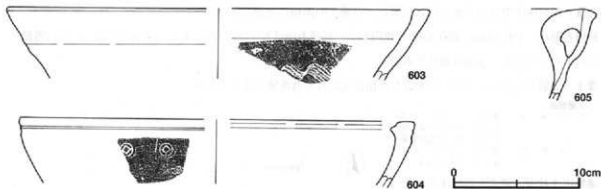
土層解説

1 黒褐色 底沼パミスブロック多量、ロームブロック・炭化材少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片3点(内耳鍋2, 火舎1), 瓦質土器片1点(播鉢)が出土している。603~605はいずれも覆土中から出土している。

所見 第21号溝跡を掘り込んでいるものの、土器の様相からはほぼ同時期と考えられる。時期は16世紀代と考えられる。

第302図 第898号土坑実測図



第303図 第898号土坑出土遺物実測図

第898号土坑出土遺物観察表 (第303図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
603	瓦質土器	播鉢	[33.2]	(5.6)	-	長石・雲母	灰黄	普通	内面上部に5条1單位の波状掘り目	覆土中	5%
604	瓦質土器	火舎	[31.0]	(5.3)	-	長石・赤色粒子	浅黄	普通	ナデ, 体部外面に花文スタンプ印	覆土中	5%
605	土師質土器	内耳鍋	-	(7.1)	-	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	ナデ	覆土中	5%

第909号土坑 (第304図)

位置 調査区中央部のF 7 d9区に位置し、台地上の南側に立地している。

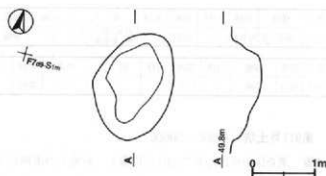
規模と形状 長径1.8m、短径1.3mの楕円形で、長径方向はN-9°-Eである。深さは50cmで、壁は外傾して

立ち上がっている。底面は皿状である。

覆土 鹿沼パミスを多量に含む褐色土を基調としている。

遺物出土状況 縄文土器片1点、土師質土器片14点（内耳鍋11、小皿2、鉢1）が出土している。出土土器はいずれも細片で図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第304図 第909号土坑実測図

第910号土坑（第305図）

位置 調査区中央部のF7c9区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第921号土坑を掘り込み、第911号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.9m、短径1.3mの楕円形で、長径方向はN-0°である。深さは30cmで、底面は平坦である。

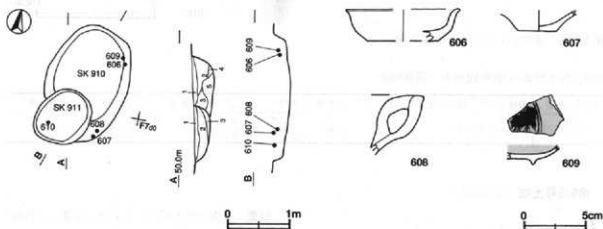
覆土 5層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|---------|-----------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量、鹿沼パミス微量 | 4 灰褐色 | 鹿沼パミス多量、ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 鹿沼パミス中量、ローム粒子少量 | 5 にぶい褐色 | 鹿沼パミス多量、ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、鹿沼パミス少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片7点（内耳鍋4、小皿2、鉢1）、磁器片1点（皿）が出土している。606～609はいずれも壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半から17世紀代と考えられる。



第305図 第910・911号土坑・第910号土坑出土遺物実測図

第910号土坑出土遺物観察表（第305図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
606	土師質土器	小皿	[9.2]	2.5	[5.8]	赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	ナデ	中層	30%
607	土師質土器	小皿	-	(1.4)	3.1	白色粒子	浅黄褐色	普通	底部回転糸切り	中層	60%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考			
608	土師質土器	内耳鍋	—	(4.9)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	ナデ、外面露付着	中層	5%			
番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	軸色	軸美	産地	年代	出土位置	備考
609	磁器	小碗	—	(1.7)	—	灰白	染付	—	—	透明軸	肥前	—	中層	5%

第911号土坑 (第305・306図)

位置 調査区中央部のF7c9区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第910号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.0m、短径0.8mの楕円形で、長径方向はN-25°-Eである。深さは25cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 3層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

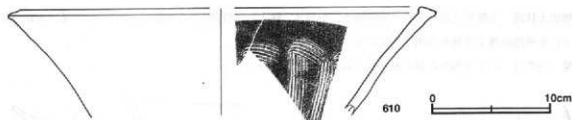
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

- 3 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片4点(内耳鍋2, 小皿2), 瓦質土器片1点(擋鉢)が出土している。610は覆土中層から出土しており、南側に位置する第923号土坑から接合関係にある同一個体片が出土している。

所見 楕円形の土坑であり、近辺からも同形態の土坑が多数確認されている。土坑の用途は不明であるが、接合関係にある土器が出土している土坑が存在することから、ほとんどが同時期に機能していたと考えられる。時期は、出土土器から16世紀後半から17世紀代と考えられる。

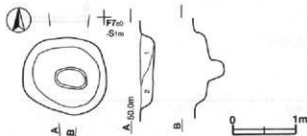


第306図 第911号土坑出土遺物実測図

第911号土坑出土遺物観察表 (第306図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
610	瓦質土器	擋鉢	[33.4]	(9.1)	—	長石	褐灰	普通	5条1單位の襷目、上部に横方向の襷目あり	中層	5%

第915号土坑 (第307図)



第307図 第915号土坑実測図

位置 調査区中央部のF7d9区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径1.4m、短径1.2mの楕円形で長径方向はN-12°-Wである。深さは20~50cmで壁は外傾して立ち上がっている。底面のほぼ中央部がピット状に掘り込まれている。

覆土 2層からなり、ロームブロックや鹿沼バミスブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量
2 暗褐色 ローム粒子・鹿沼バミスブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片1点、土師器片3点、土師質土器片9点（内耳鍋）、瓦質土器片1点（鉢）、鉄滓2点が出土している。縄文土器片、土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。出土土器はすべて細片で図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。

第921号土坑（第308図）

位置 調査区中央部のF7c9区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第910号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西側を第910号土坑に掘り込まれているが、径1.0mの円形と考えられる。深さは19cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

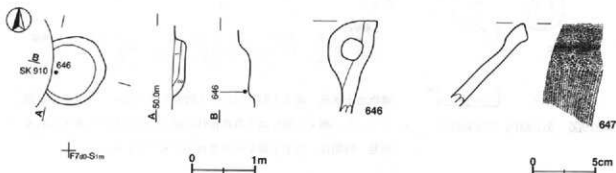
覆土 2層からなり、ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 鹿沼バミスブロック少量、ローム粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片2点（内耳鍋、小皿）、陶器片1点（播鉢）が出土している。646は覆土下層から、647は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中世後半以降と考えられる。



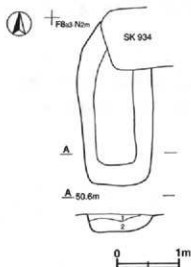
第308図 第921号土坑・出土遺物実測図

第921号土坑出土遺物観察表（第308図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考			
646	土師質土器	内耳鍋	-	(7.4)	-	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	ナア、外面厚付着	下層	5%			
番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	輪色	輪裏	原地	年代	出土位置	備考
647	陶器	播鉢	-	(6.6)	-	長石	灰褐色	-	-	-	常滑	-	覆土中	5%

第935号土坑（第309図）

位置 調査区中央部のE8J3区に位置し、台地上の南側に立地している。



第309図 第935号土坑実測図

重複関係 第934号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.6m、短軸1.2mの長方形と推定される。長軸方向は $N-2^{\circ}-W$ である。深さは29cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

覆土 2層からなり、ロームブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、灰沼バミスブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、灰沼バミスブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片3点、土師質土器片7点（内耳鍋）が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入と考えられる。出土土器は細片のため図示できなかった。

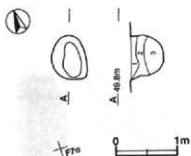
所見 南北軸の土坑で、近辺からは同形態の土坑が多数確認されている。時期は、出土土器から中世後半と考えられる。

第1000号土坑（第310図）

位置 調査区中央部のF7e9区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1379号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.7m、短径0.5mの楕円形で、長径方向は $N-4^{\circ}-E$ である。深さは53cmで、壁は直立している。底面は皿状である。



第310図 第1000号土坑実測図

覆土 3層からなり、ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 灰沼バミスブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・灰沼バミスブロック少量

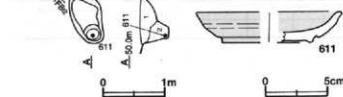
遺物出土状況 縄文土器片11点、土師質土器片20点（内耳鍋）が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。

第1146号土坑（第311図）

位置 調査区中央部のF8e2区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径0.9m、短径0.5mの楕円形で、長径方向は $N-64^{\circ}-W$ である。深さは24cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は東側の一部が掘りくぼめられている。



第311図 第1146号土坑・出土遺物実測図

覆土 2層からなり、ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 灰沼バミスブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 灰沼バミスブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片1点, 陶器片1点(皿)が出土している。611は覆土下層から出土している。土師器片は人為堆積時の混入と考えられる。

所見 611の生産地(瀬戸・美濃)年代が16世紀中葉であることから, 時期は16世紀中葉以降と考えられる。

第1146号土坑出土遺物観察表(第311図)

番号	器名	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼付	釉色	輪毫	産地	年代	出土位置	備考
611	陶器	丸皿	[11.6]	2.4	[7.2]	長石	灰白	—	灰白	灰輪	瀬戸・美濃	16世紀中葉	下層	5%

第1189号土坑(第312図)

位置 調査区中央部のF8f2区に位置し, 台地上の南側に立地している。

規模と形状 長軸1.9m, 短軸0.8mの隅丸長方形で, 長軸方向は $N-8^{\circ}-E$ である。深さは35cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

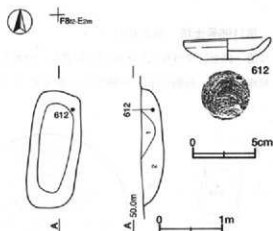
覆土 2層からなり, ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 鹿沼バミスブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・鹿沼バミス少量, 炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片1点, 土師器片2点, 土師質土器片2点(内耳鍋, 小皿)が出土している。612は覆土中層から出土している。縄文土器片, 土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から16世紀後半以降と考えられる。



第312図 第1189号土坑・出土遺物実測図

第1189号土坑出土遺物観察表(第312図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
612	土師質土器	小皿	6.8	1.7	4.0	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	中層	90% PL54

第1192号土坑(第313図)

位置 調査区中央部のF8g2区に位置し, 台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径1.5m, 短径0.9mの楕円形で, 長径方向は $N-78^{\circ}-E$ である。深さは16cmで, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

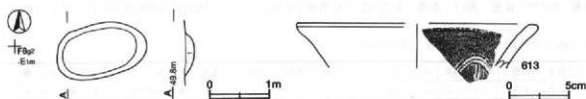
覆土 単一層であるが, ロームブロックや鹿沼バミスブロック, 焼土ブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 鹿沼バミスブロック中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片21点, 土師器片18点, 土師質土器片4点(鉢3, 小皿1), 瓦質土器片1点(楕鉢)が出土している。613は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中世以降と考えられる。



第313図 第1192号土坑・出土遺物実測図

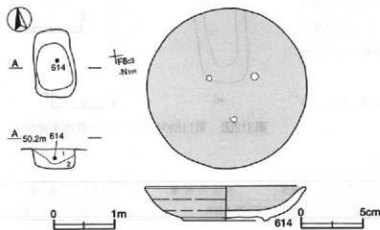
第1192号土坑出土遺物観察表 (第313図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
613	瓦質土器	楕鉢	[20.0]	(3.7)	—	長石	灰	普通	3条1単位の摺り目	覆土中	5%

第1195号土坑 (第314図)

位置 調査区中央部のF 8 b2区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長軸1.1m、短軸0.7mの長方形で、長径方向はN-2°-Eである。深さは30cmで、壁は直立している。



第314図 第1195号土坑・出土遺物実測図

第1195号土坑出土遺物観察表 (第314図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
614	陶器	丸皿	12.9	2.8	6.7	—	—	—	灰黄	灰釉	瀬戸・美濃	17世紀前半	中層	100% PL54

覆土 2層からなり、ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・流石/ハス少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、流石/ハスブロック微量

遺物出土状況 土器片1点、土師質土器片1点(内耳鍋)、陶器片1点(皿)が出土している。614は覆土中層から出土している。

所見 614の生産地年代(瀬戸・美濃)が17世紀前半であることから、時期は17世紀代と考えられる。

第1200号土坑 (第315図)

位置 調査区中央部のF 8 a3区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1201・1456・1902号土坑を掘り込み、ピット4ヶ所に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.2m、短軸1.6mの長方形で、長軸方向はN-2°-Wである。深さは47cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

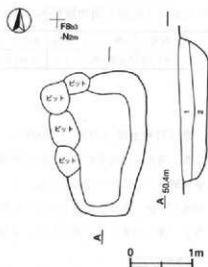
覆土 2層からなり、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化物・鹿沼バミス少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス微量 |

遺物出土状況 縄文土器片4点、土師質土器片9点（内耳鍋5、小皿4）、陶器片1点（皿）が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入と考えられる。小片のため図示はできなかったが、陶器片は丸皿である。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半以降と考えられる。



第315図 第1200号土坑実測図

第1230号土坑（第316・317図）

位置 調査区中央部のF 8e3区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1231・1232号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.0m、短軸0.9mの隅丸長方形で、長軸方向はN-9°-Eである。深さは25cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

覆土 5層からなり、鹿沼バミスやブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

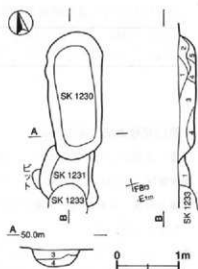
- | | |
|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス少量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | 鹿沼バミス中量、ローム粒子少量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス少量 |
| 4 黒色 | 鹿沼バミス少量、ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 | 鹿沼バミス少量、ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師質土器片10点（内耳鍋）、鉄滓が出土している。

615は覆土中から出土している。

所見 南北軸の土坑で、近辺からほぼ同形態の土坑が確認されている。

時期は、出土土器から16世紀後半から17世紀前半と考えられる。



第316図 第1230-1231号土坑実測図



第317図 第1230号土坑出土遺物実測図

第1230号土坑出土遺物観察表 (第317図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
615	土師質土器	内耳鍋	[26.2]	5.3	[19.8]	長石・雲母	にぶい褐	普通	ナデ	覆土中	10%

第1231号土坑 (第316・318図)

位置 調査区中央部のF 8 e3区に位置し、台地上の南側に立地している。

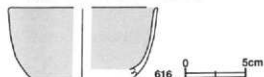
重複関係 第1230・1233号土坑、ピットに掘り込まれている。

規模と形状 南側と北側がそれぞれ掘り込まれているため、東西軸0.8mのみが確認され、深さは15cmである。

覆土 覆土が薄い単一層のため、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・鹿沼バミス少量、炭化粒子微量



遺物出土状況 須恵器片1点、土師質土器片2点(内耳鍋)、陶器片1点(碗)が出土している。616は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から17世紀代と考えられる。

第318図 第1231号土坑出土遺物実測図

第1231号土坑出土遺物観察表 (第318図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	軸差	産地	年代	出土位置	備考
616	陶器	丸鍋	[12.2]	(5.7)	-	長石	灰白	-	黒褐	胎釉	-	17世紀前半	覆土中	20%

第1338号土坑 (第319図)

位置 調査区中央部のF 8 f1区に位置し、台地上の南側に立地している。

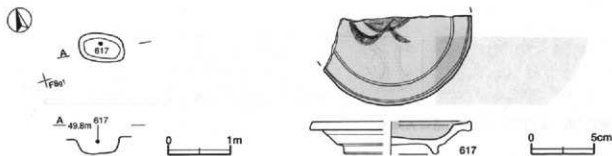
重複関係 第1337・1339号土坑、ピットを掘り込んでいる。

規模と形状 長軸0.7m、短軸0.5mの長方形で、長軸方向はN-61°-Wである。深さは20cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 ロームブロックや鹿沼バミスを含む褐色土を基調としている。

遺物出土状況 土師器片1点、陶器片1点(皿)が出土している。617は覆土上層から出土している。

所見 617の生産地年代(瀬戸・美濃)が17世紀前半であることから、時期は17世紀代と考えられる。



第319図 第1338号土坑・出土遺物実測図

第1338号土坑出土遺物観察表（第319図）

番号	材質	器種	口径	器高	底径	胎土	色澤	絵付	釉色	輪莖	取地	年代	出土位置	備考
6.7	陶器	折縁皿	[12.6]	2.6	[7.4]	長石	灰黄	-	にぶい黄緑	灰釉	瀬戸・美濃	17世紀前半	上層	40% Pl.34

第1341号土坑（第320図）

位置 調査区中央部のF8f1区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長軸0.9m、短軸0.4mの不定形である。長軸方向はN-10°-Eである。深さは35cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

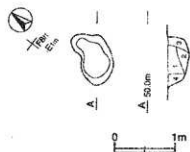
覆土 4層からなり、ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子・炭化物・鹿沼バミス少
- 2 黒褐色 炭化物・鹿沼バミス少、ローム粒子微量
- 3 褐色 鹿沼バミス中量、ロームブロック少量、炭化物微量
- 4 灰褐色 鹿沼バミス中量、ロームブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師質土器片1点（内耳鍋）が出土しているが、小片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から中世後半以降と考えられる。



第320図 第1341号土坑実測図

第1350号土坑（第321図）

位置 調査区中央部のF8e1区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径0.8m、短径0.6mの楕円形で、長径方向はN-31°-Wである。深さは66cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。

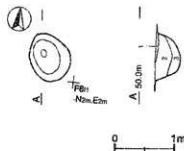
覆土 3層からなり、鹿沼バミスやブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子・炭化物・鹿沼バミス微量
- 2 暗褐色 鹿沼バミス中量、ローム粒子少量、炭化物微量
- 3 褐色 鹿沼バミス少量、ロームブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片5点（内耳鍋1、溜鉢2、小皿2）が出土している。土器はすべて細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から中世後半以降と考えられる。



第321図 第1350号土坑実測図

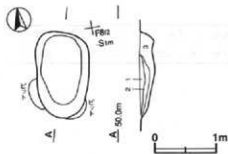
第1354号土坑（第322図）

位置 調査区中央部のF8f1区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 ビットに掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.4m、短軸0.9mの隅丸長方形で、長軸方向はN-10°-Eである。深さは25cmで壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

覆土 3層からなり、ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。



土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量
 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量
 3 暗褐色 鹿沼バミスブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師質土器片4点(内耳鍋3, 小皿1), 陶器片1点(碗), 石器1点(砥石)が出土している。遺物はすべて細片のため図示できなかった。

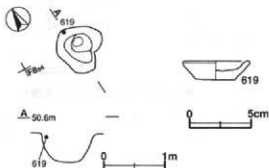
所見 時期は, 出土土器から中世後半と考えられる。

第322図 第1354号土坑実測図

第1381号土坑 (第323図)

位置 調査区中央部のF 8a4区に位置し, 台地上の南側に立地している。

規模と形状 長軸, 短軸とも0.8mの不定形である。深さは45cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。



覆土 ロームブロックや鹿沼バミスブロックを含んだ褐色土を基調としている。

遺物出土状況 土師質土器片2点(鉢, 小皿), 瓦質土器片1点(焙烙), 陶器片1点(摺鉢)が出土している。619は覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から16世紀後半から17世紀代と考えられる。

第323図 第1381号土坑・出土遺物実測図

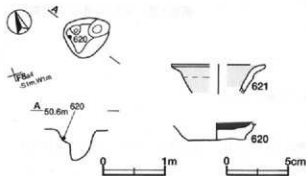
第1381号土坑出土遺物観察表 (第323図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
619	土師質土器	小皿	5.2	1.6	3.3	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	上層	100% PL.54

第1382号土坑 (第324図)

位置 調査区中央部のF 8a4区に位置し, 台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径0.8m, 短径0.7mの楕円形で, 長径方向はN-85°-Eである。深さは52cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。



覆土 鹿沼バミスを含む褐色土を基調としている。

遺物出土状況 土師質土器片3点(内耳鍋2, 小皿1), 瓦質土器片1点(鉢), 陶器片1点(不明)が出土している。620は覆土中層から, 621は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から16世紀代と考えられる。

第324図 第1382号土坑・出土遺物実測図

第1382号土坑出土遺物観察表 (第324図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
620	土師質土器	小皿	—	(1.4)	4.6	赤石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	底部すのこ状圧痕、内面塗付着	中層	40%

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	軸色	軸裏	産地	年代	出土位置	備考
621	陶器	—	(7.6)	(2.4)	—	緻密	にぶい黄褐色	—	にぶい黄褐色	灰緑色	—	—	覆土中	5%

第1383号土坑 (第325図)

位置 調査区中央部のF 8 a4区に位置し、台地上の南側に立地している。

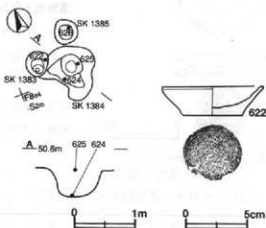
重複関係 第1384号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径0.4mの円形で、深さは72cmである。

覆土 鹿沼バミスを含む褐色土を基調としている。

遺物出土状況 土師質土器片3点(小皿)が出土している。622は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半から17世紀代と考えられる。



第325図 第1383・1384・1385号土坑・第1383号土坑出土遺物実測図

第1383号土坑出土遺物観察表 (第325図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
622	土師質土器	小皿	8.1	2.5	4.8	赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	底部回転糸切り、内面・口縁磨耗	覆土中	70%

第1384号土坑 (第325・326図)

位置 調査区中央部のF 8 a4区に位置し、台地上の南側に立地している。

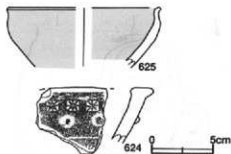
重複関係 第1383号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.0m、短軸0.8mの不定形である。深さは45cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。

覆土 鹿沼バミスを含む褐色土を基調としている。

遺物出土状況 土師器片1点(ミニチュア), 土師質土器片11点(内耳鍋9, 小皿1, 火鉢1), 陶器片1点(碗), 鉄滓1点が出土している。624は底面から, 625は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。



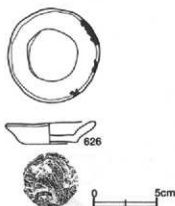
第326図 第1384号土坑出土遺物実測図

第1384号土坑出土遺物観察表 (第326図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
624	土師質土器	火舎	—	(4.5)	—	石英・長石	にぶい赤褐色	普通	ナデ、外面花文スタンプ印あり	底面	5%

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	胎付	軸色	輪葉	産地	年代	出土位置	備考
625	陶器	天目茶碗	[12.4]	(4.8)	—	孫石	にぶい黄褐色	—	黒黒	鉄軸	瀬戸・美濃	16後～17前	上層	10%

第1385号土坑 (第325・327図)



第327図 第1385号土坑
出土遺物実測図

第1385号土坑出土遺物観察表 (第327図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
626	土師質土器	小皿	7.0	1.6	4.5	孫石・雲母・赤色粒子	黄	普通	底部回転糸切り、口縁部に油煙	覆土中	100% PL54

位置 調査区中央部のF 8a4区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 径0.4mの円形で、深さは43cmである。

覆土 鹿沼バミスを含む褐色土を基調としている。

遺物出土状況 縄文土器片7点、土師器片2点、土師質土器片8点(内耳鍋3, 小皿4, 鉢1), 陶器片2点(皿), 鉄滓1点が出土している。626は完形の皿で覆土中から出土しており、口縁部に油煙が付着していることから灯明皿として使用された可能性がある。図示できなかったが、陶器片は丸皿である。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半から17世紀代と考えられる。

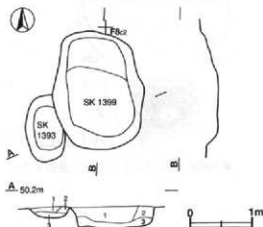
第1393号土坑 (第328図)

位置 調査区中央部のF 8c1区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 ピットを掘り込み、第1399号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.1m、短軸0.7mの隅丸長方形で、長軸方向はN-0°である。深さは36cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 3層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。



第328図 第1393・1399号土坑実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量、粘土ブロック微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量、粘土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片8点、土師器片1点、土師質土器片5点(内耳鍋), 鉄製品1点(不明)が出土している。縄文土器片、土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。細片のため図示できなかったが、内耳鍋は薄手のものである。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半以降と考えられる。

第1399号土坑 (第328図)

位置 調査区中央部のF 8 c1区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1393号土坑、ピットを掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.0m、短軸1.4mの隅丸長方形で、長軸方向はN-16°-Wである。深さは31cmで壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

覆土 3層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粘土・焼灰・バミスブロック少量、炭1粒・磁石
2 暗褐色 ロームブロック・焼灰・バミスブロック少量
3 暗褐色 焼灰・バミスブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片25点(内耳鍋)、瓦質土器片1点(鉢)が出土している。土器はいずれも細片で図示できなかった。

所見 時期は、第1393号土坑との重複関係と出土土器から、16世紀後半以降と考えられる。

第1405号土坑 (第329図)

位置 調査区中央部のF 8 a4区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径1.6m、短径0.9mの楕円形で、長径方向はN-5°-Eである。深さは60cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

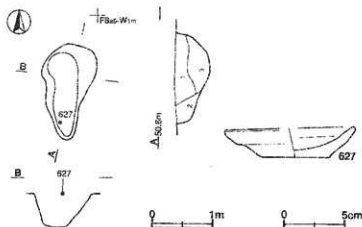
覆土 3層からなり、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粘土中量、炭化粘土少量
2 暗褐色 ローム粘土少量、炭化粘土少量
3 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師質土器片12点(内耳鍋4、搦鉢2、小皿6)が出土している。627は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半以降と考えられる。



第329図 第1405号土坑・出土遺物実測図

第1405号土坑出土遺物観察表 (第329図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
627	土師質土器	小皿	[10.4]	2.6	5.6	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	底部同転糸切り	上層	50%

第1407号土坑 (第330図)

位置 調査区中央部のE 8 J4区に位置し、台地上の南側に位置している。

規模と形状 長軸2.3mで、短軸は北側が調査区域外のため不明であるが、確認できる形状から隅丸長方形と考えられる。長軸方向はN-74°-Wである。深さは最深部が62cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

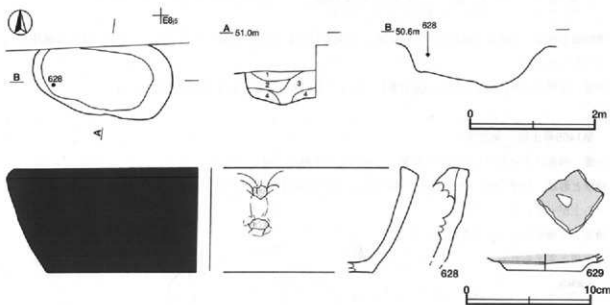
覆土 4層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 色 ローム粒子中量、炭化粒子・炭屑・バミス微量 3 黒褐色 色 ローム粒子少量
 2 黒褐色 色 ローム粒子・炭屑・バミス微量 4 褐色 色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片9点、土師器片5点、土師質土器片8点(内耳鍋4、鉢4)、陶器片1点(皿)が出土している。628は覆土中層から、629は覆土中から出土している。縄文土器片、土師器片は人為堆積時の混入と考えられる。

所見 時期は、出土土器から16世紀から17世紀代と考えられる。



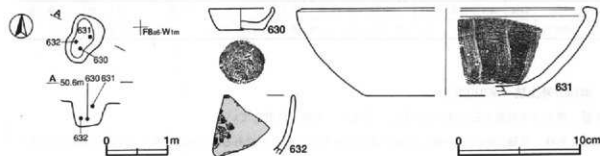
第330図 第1407号土坑・出土遺物実測図

第1407号土坑出土遺物観察表(第330図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
628	土師質土器	内耳鍋 [31.2]	8.4	[26.0]		石英・長石・雲母	暗赤褐色	普通	体部外面横ナゲ	中層	10%

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
629	陶器	丸皿	-	(1.4)	6.0	長石	浅黄	-	灰白	長石釉	瀬戸・美濃	16世紀後半	覆土中	10%

第1417号土坑(第331図)



第331図 第1417号土坑・出土遺物実測図

位置 調査区中央部 F 8a5区に位置し，台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径0.7m，短径0.6mの楕円形で，長径方向はN-39°-Eである。深さは42cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 鹿沼バミスを含む黒褐色土を基調としている。

遺物出土状況 縄文土器片2点，土師質土器片14点（内耳鍋8，小皿5，鉢1），瓦質土器片1点（擂鉢），磁器片1点（碗）が出土している。630・632は覆土下層から，631は覆土上層から出土している。

所見 時期は，出土土器から16世紀後半以降と考えられる。

第1417号土坑出土遺物観察表（第331図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
630	土師質土器	小皿	5.1	1.7	3.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい藍	普通	底部回転糸切り	下層	100% PL54
631	瓦質土器	擂鉢	[23.1]	7.2	[13.6]	長石	灰	普通	10条1単位の羅り目	上層	20%

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	輪郭	産地	年代	出土位置	備考
632	磁器	碗	-	(4.8)	-	-	明緑灰	染付	灰白	透明	肥前	17世紀	下層	5%

第1420号土坑（第332・333図）

位置 調査区中央部のE 7J0区に位置し，台地上の南側に立地している。

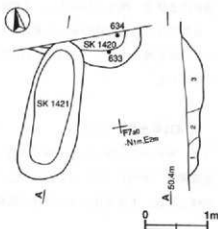
重複関係 第1421号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側が調査区域外になっているため，規模と形状は不明である。

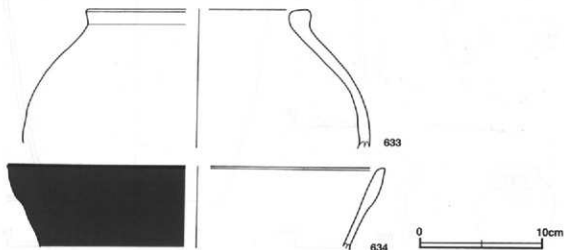
覆土 ロームブロックや鹿沼バミスブロックを含んだ暗褐色土を基調としている。

遺物出土状況 土師質土器片6点（内耳鍋3，壺3）が出土している。633，634はともに覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から15世紀から16世紀代と考えられる。



第332図 第1420・1421号土坑実測図



第333図 第1420号土坑出土遺物実測図

第1420号土坑出土遺物観察表 (第333図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
633	土師質土器	甕	[17.6]	(11.2)	—	石英・長石・雲母・小礫	明赤褐色	普通	ナデ, 体部割離	覆土中	10%
634	土師質土器	内耳鍋	[30.3]	(8.6)	—	石英・長石・雲母	橙	普通	ナデ	覆土中	5%

第1421号土坑 (第332図)

位置 調査区中央部のE7J0区に位置し, 台地上の南側に立地している。

重複関係 第1420・1422号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.2m, 短軸0.8mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-21°-Eである。深さは30cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

覆土 3層からなり, ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 煮浴バミスブロック中量, ロームブロック少量
- 2 暗褐色 煮浴バミスブロック中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 煮浴バミスブロック中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点, 土師器片1点, 土師質土器片18点(内耳鍋)が出土している。縄文土器片, 土師器片は人為堆積時の混入と考えられる。内耳鍋片は細片のため図示できなかった。

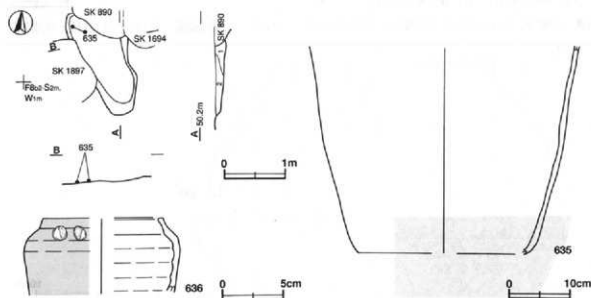
所見 南北軸の土坑で, 近辺からほぼ同形態の土坑が多数確認されている。時期は, 出土土器から中世後半と考えられる。

第1434号土坑 (第334図)

位置 調査区中央部のF8b2区に位置し, 台地上の南側に立地している。

重複関係 第890・1694・1897号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 重複関係により全体の規模や形状は不明である。



第334図 第1434号土坑・出土遺物実測図

覆土 2層からなるが、薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム・ハミズブロック中量、ローム粒子・炭化物微塵
- 2 黒褐色 ロームブロック・地割ハミズブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片18点(鉢)、陶器片1点(壺)が出土している。635は底面から、636は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中世後半以降と考えられる。

第1434号土坑出土遺物観察表(第334図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	産成	手法の特徴	出土位置	備考
635	土師質土器	壺	—	(34.0)	(27.2)	灰白・赤褐色	明赤褐	菅沼	ナデ、輪積み裏	底面	20%

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	粘付	紋色	胎葉	産地	年代	出土位置	備考
636	陶器	小壺	(9.8)	(6.2)	—	長石	透黄橙	—	黒刷	灰輪	瀬戸・美濃	17段~18段	覆土中	30%

第1460号土坑(第335図)

位置 調査区中央部のF8 a3区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径1.0m、短径0.6mの楕円形で、長径方向はN-54°-Eである。深さは45cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

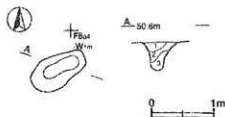
覆土 3層からなり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化物ハミズ少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物ハミズ微塵
- 3 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片6点(内耳鍋5、小皿1)、瓦質土器片1点(火舎)が出土している。土器はすべて細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第335図 第1460号土坑実測図

第1469号土坑(第336図)

位置 調査区中央部のF8 b4区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径0.6m、短径0.5mの楕円形で、長径方向はN-25°-Wである。深さは42cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

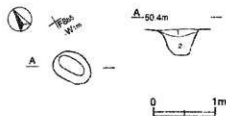
覆土 レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微塵
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片5点(内耳鍋3、小皿2)、瓦質土器片2点(鉢)が出土している。土器はすべて細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第336図 第1469号土坑実測図

第1471号土坑（第337図）

位置 調査区中央部のF 8 b5区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 ビットに掘り込まれている。

規模と形状 長径1.4m、短径0.8mの楕円形で、長径方向はN-67°-Wである。深さは27cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

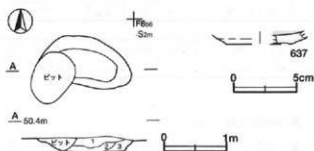
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
2 黒褐色 ロームブロック少量

- 3 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片6点、土師器片3点、須恵器片5点、土師質土器片1点（内耳鍋）、陶器片1点（皿）が出土している。637は覆土中から出土している。縄文土器片、土師器片、須恵器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第337図 第1471号土坑・出土遺物実測図

第1471号土坑出土遺物観察表（第337図）

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	輪郭	産地	年代	出土位置	備考
637	陶器	皿	-	(1.0)	(5.4)	緻密	にぶい黄褐色	-	オリーブ黄	灰輪	瀬戸・美濃	-	覆土中	10% 外周磨削

第1507号土坑（第338図）

位置 調査区中央部のF 8 c6区に位置し、台地上の南側に立地している。

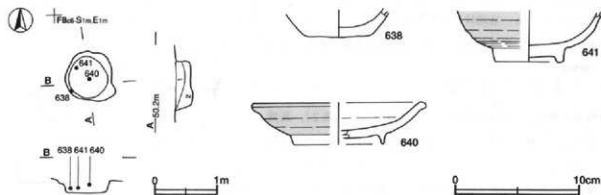
重複関係 第1508・1517・1518号土坑を掘り込んでいる。第1518号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 径0.8mの円形である。深さは20cmで、壁は直立している。底面は平坦である。

覆土 2層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化物微量
2 暗褐色 ローム粒子微量



第338図 第1507号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片1点, 土師器片2点, 土師質土器片28点(小皿1, 鉢2), 瓦質土器片2点, 陶器片3点(碗1, 皿2)が出土している。638・640・641は覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から16世紀後半から17世紀代と考えられる。

第1507号土坑出土遺物観察表(第338図)

番号	種類	容積	口径	器高	底径	胎土	色調	施装	手法の特徴	出土位置	備考
638	土師質土器	小皿	—	(2.3)	(4.6)	長石・雲母	にぶい黄緑	普通	旋回回転削り	中層	50%

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施装	胎色	胎染	築地	年代	出土位置	備考
640	陶器	皿	[13.7]	3.3	[7.1]	鉄赤	灰黄	—	浅黄	灰釉	瀬戸・美濃	17世紀代	中層	25%
641	陶器	丸皿	—	(4.1)	5.4	長石	にぶい黄緑	—	にぶい黄緑	鉛釉	瀬戸・美濃	16後半-17世	中層	90%

第1519号土坑(第339図)

位置 調査区中央部のF8c5区に位置し, 台地上の南側に立地している。

重複関係 第1492号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径が1.1mの方形である。深さは21cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

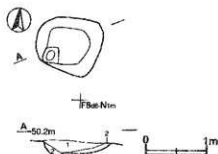
覆土 2層からなり, レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片4点, 須恵器片1点, 土師質土器片6点(鉢), 陶器片2点(皿)が出土している。土器はすべて細片のため図示できなかった。陶器片は丸皿片である。

所見 時期は, 出土土器から16世紀後半から17世紀代と考えられる。



第339図 第1519号土坑実測図

第1520号土坑(第340図)

位置 調査区中央部のF8c5区に位置し, 台地上の南側に立地している。

重複関係 第1483・1904号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸0.9m, 短軸0.5mの長方形で, 長軸方向はN-8°-Eである。深さは20cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

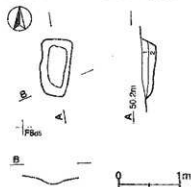
覆土 2層からなり, レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片6点(内耳鍋5, 小皿1)が出土している。土器はすべて細片のため図示できなかった。

所見 時期は, 出土土器から中世後半と考えられる。

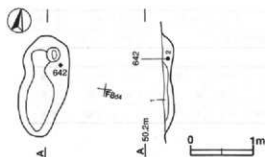


第340図 第1520号土坑実測図

第1522号土坑（第341・342図）

位置 調査区中央部のF 8 d3区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 長径1.6m、短径0.8mの楕円形で、長径方向はN-6°-Wである。深さは20cmで、壁は外傾して立ち上がっている。



第341図 第1522号土坑実測図

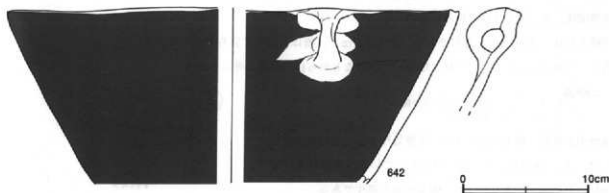
覆土 2層からなり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・流石パミス微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師質土器片3点（内耳鍋2，小皿1）が出土している。642は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半から16世紀代と考えられる。

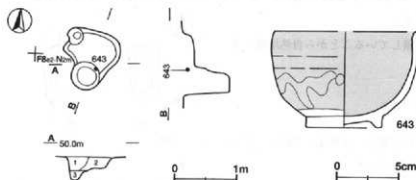


第342図 第1522号土坑出土遺物実測図

第1522号土坑出土遺物観察表（第342図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
642	土師質土器	内耳鍋	[34.4]	(14.0)	—	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	ナデ	中層	10%

第1528号土坑（第343図）



第343図 第1528号土坑・出土遺物実測図

位置 調査区中央部のF 8 d2区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1303・1664号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸1.0m、短軸0.8mの不定形である。南側がピット状に掘り込まれており、深い部分で70cmである。

壁はほぼ直立している。

覆土 3層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 紫褐色 栗沼バミス少量、ローム粒子・炭化粒子微量 3 明褐色 栗沼バミス中量、ローム粒子少量
2 紫褐色 栗沼バミス少量、ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)、陶器片3点(碗)が出土している。643は丸碗で、覆土土層から出土しており、第16号溝から接合関係にある同一個体片が出土している。

所見 時期は、出土土器から17世紀代と考えられる。

第1528号土坑出土遺物観察表(第343図)

番号	器名	器種	口径	器高	底径	基上	色澤	胎付	胎色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
643	陶器	丸碗	11.3	7.7	6.0	長石	淡黄	—	にじり青施	鉛釉	瀬戸・美濃	17世紀代	土層	60% PL55

第1556号土坑(第344図)

位置 調査区中央部のD8c4区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 ピットを掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.6m、短軸0.9mの長方形で、長軸方向はN-10°-Eである。深さは42cmであるが、一部は60cmまで掘り込まれている。壁は直立しており、底面はほぼ平坦である。

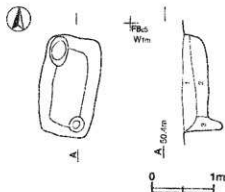
覆土 3層からなり、ロームブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 紫褐色 ローム粒子少量
2 褐色 ロームブロック中量
3 紫褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片2点(内耳鍋, 小皿)、鉄滓6点が出土している。土器はすべて細片で図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から中世後半以降と考えられる。



第344図 第1556号土坑実測図

第1660号土坑(第345図)

位置 調査区中央部のE7f4区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1403・1662号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 大部分を重複する土坑に掘り込まれているため、全体の規模と形状は不明である。

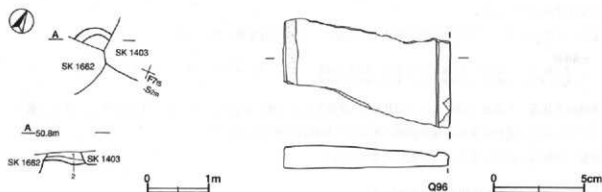
覆土 2層からなり、ロームブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 紫褐色 ロームブロック・栗沼バミスブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
2 褐色 ロームブロック・栗沼バミスブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点、土師器片1点、土師質土器片1点(内耳鍋)、石器1点(硯)が出土している。Q96は覆土中から出土している。縄文土器片、土師器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見 時期は、出土遺物から中世と考えられる。



第345図 第1660号土坑・出土遺物実測図

第1660号土坑出土遺物観察表 (第345図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q96	硯	(5.8)	8.8	1.2	(72.4)	頁岩	縁部カ、一部欠損	覆土中	

第1667号土坑 (第346図)

位置 調査区中央部のF 8a2区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1455号土坑を掘り込み、第1448号土坑、ピットに掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.1m、短軸1.7mの不定形で、長軸方向はN-0°である。深さは23cmほどであるが、ピット状に掘り込まれている部分は60cmに達している。壁は外傾して立ち上がっている。

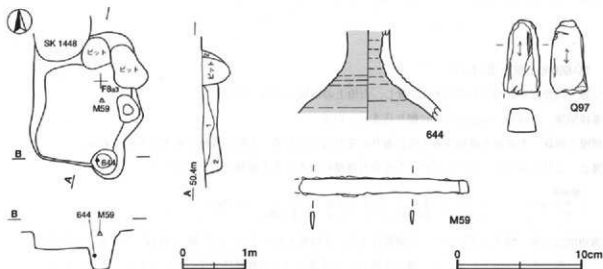
覆土 2層からなり、ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック中量

遺物出土状況 陶器片1点(徳利)、鉄製品1点(刀子)、石器1点(砥石)が出土している。644は覆土下層から、M59は覆土上層から、Q97は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から近世以降と考えられる。



第346図 第1667号土坑・出土遺物実測図

第1667号土坑出土遺物観察表 (第346図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	軸色	軸業	産地	年代	出土位置	備考
644	陶器	德利	-	(7.2)	-	長石	にぶい青	-	暗赤褐	胎軸	瀬戸・美濃	17世紀末	下層	20%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M59	刀子	(13.6)	1.3	0.3	(14.6)	鉄	一部欠損	上層	PL61

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q97	砥石	(5.9)	2.9	1.9	(42.8)	粘板岩	二面使用	覆土中	

第1676号土坑 (第347図)

位置 調査区西部のD 6j1区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第1745・1895号土坑を掘り込み、第39号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.9m、短軸1.4mの長方形で、長軸方向はN-85°-Wある。深さは76cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

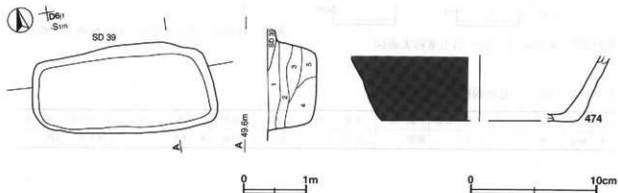
覆土 5層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 褐灰色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒色 | 炭化物少量、ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片7点、土師器片3点、土師質土器片1点(内耳鍋)が出土している。474は覆土から出土している。縄文土器片、土師器片は人為堆積時の混入と考えられる。

所見 時期は、最新の土器が内耳鍋であることから、中世後半と考えられる。



第347図 第1676号土坑・出土遺物実測図

第1676号土坑出土遺物観察表 (第347図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
474	土師質土器	内耳鍋	-	(5.2)	[15.6]	石英-長石-雲母	褐灰	普通	ナデ	覆土中	5%

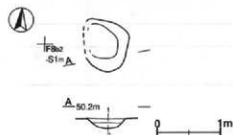
第1694号土坑 (第348図)

位置 調査区中央部のF 8b2区に位置し、台地上の南側に立地している。

重複関係 第890・1434号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸0.8m、短軸0.7mの隅丸方形で、長軸方向はN-32°-Wである。深さは17cmで、壁は緩く外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。

覆土 2層からなり、ブロックや炭化物を含む堆積状況から人為堆積と考えられる。



土層解説

- 1 黒褐色 焼瓦・タタキブロック少量、炭化物微量
2 黒褐色 焼瓦・タタキブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片1点、土師質土器片3点(小皿2、鉢1)が出土している。土師器片は人為堆積時の混入と考えられる。土器はすべて細片で図示できなかった。

所見 時期は、重複する第1434号土坑が近世と考えられることから、近世以降と考えられる。

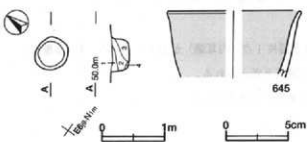
第348図 第1694号土坑実測図

第1841号土坑 (第349図)

位置 調査区西部のE 619区に位置し、台地上の南側に立地している。

規模と形状 径0.5mの円形である。深さは30cmで、壁は直立している。底面は平坦である。

覆土 4層からなり、ブロックを含む堆積状況から人為堆積と考えられる。



土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量
3 暗褐色 ロームブロック少量
4 灰褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片8点(小皿)、陶器片1点(碗)が出土している。645は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。

第349図 第1841号土坑・出土遺物実測図

第1841号土坑出土遺物観察表 (第349図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	胎付	胎色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
645	陶器	碗	[10.5]	(5.3)	-	緻密	灰白	-	灰白	灰釉	瀬戸・美濃+	-	覆土中	20%

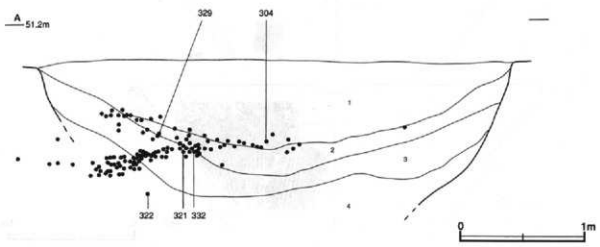
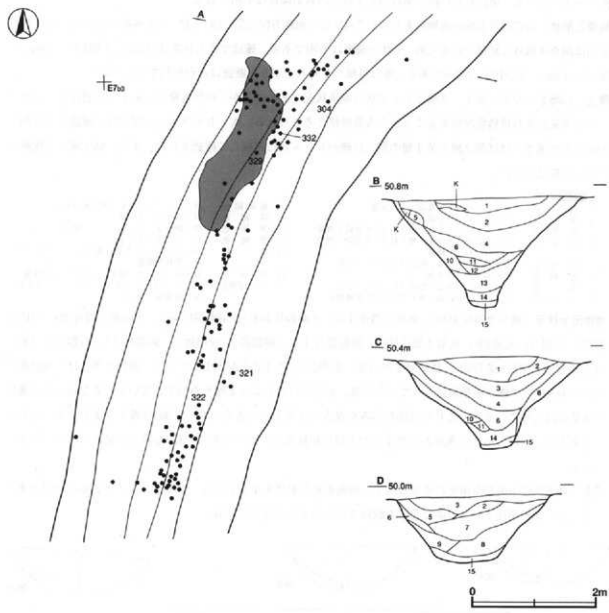
(7) 溝跡

当遺跡からは、中・近世と考えられる溝跡が18条確認されている。以下、第1・2・3・5・6・15・16・21・40・41号溝跡については遺構と出土遺物について記述し、その他のものは第380～383図と土層解説に記載した。

第1号溝跡 (第350～355図・付図)

位置 調査区中央部D 7J4～F 7b1区に位置し、台地の南側で南北に延びている。

重複関係 第6号地下式墳、第2号住居跡、第5号溝跡、第350・423号土坑を掘り込み、第134・939号土坑に



第350图 第1号沟迹实测图

掘り込まれている。第11号井戸跡，第1714号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 第1714号土坑の南側にあたるD74区から南西方向(N-13°-E)に直線的に延びている。南西方向は調査区域外に延びているため，全体の規模は不明である。確認できた長さは51.0m，上幅1.7~2.9m，下幅0.4~1.0m，深さ105~174cmである。壁は外傾して立ち上がり，断面は逆台形状を呈している。

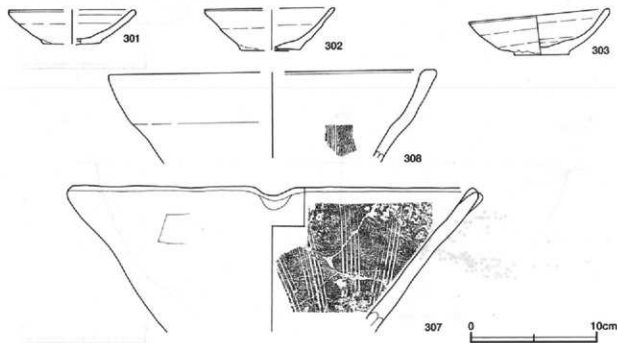
覆土 15層からなる。第1~3層はレンズ状の堆積状況であることから自然堆積で，第4~15層はロームブロックを多量に含む堆積状況であることから人為堆積と考えられる。A・Bセクション間では，確認面から70~90cmほどの深さ（ほぼ第2層と第4層の間）に礫がレンズ状に連続して確認された。また，粘土塊や炭化物の広がりも確認された。

土層解説

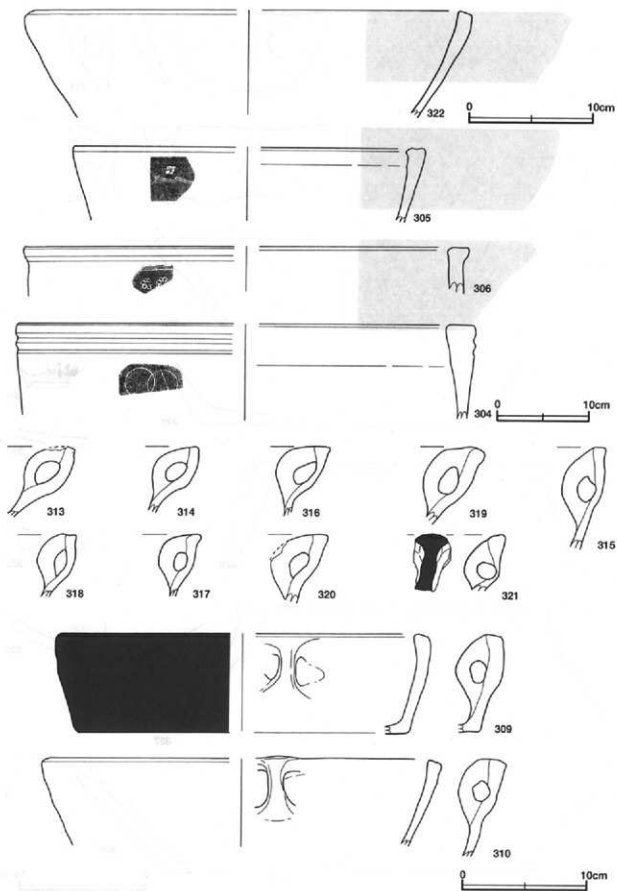
1	褐色	ロームブロック・鹿沼パミス少量	9	暗褐色	ロームブロック多量，焼土粒子微量
2	褐色	ロームブロック少量	10	暗褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量	11	黒褐色	炭化物少量，ロームブロック微量
4	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物・鹿沼パミスブロック微量	12	黒褐色	ロームブロック中量
5	黒褐色	ロームブロック中量，鹿沼パミスブロック少量	13	褐色	ロームブロック多量，鹿沼パミスブロック少量，炭化物微量
6	暗褐色	ロームブロック少量	14	黒褐色	ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量
7	褐色	ロームブロック多量，鹿沼パミスブロック少量	15	にぶい黄褐色	ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量，炭化物微量
8	黒褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量			

遺物出土状況 縄文土器片344点，弥生土器片1点，土師器片443点，須恵器片58点，土師質土器片294点（内耳鍋278，小皿3，火舎13），瓦質土器片10点，陶磁器片4点（陶器皿2・片口鉢1，磁器碗1），石器62点（石臼1，砥石12，磨石・散石49），鉄製品2点（斧，不明品），鉄滓2点が出土している。遺物の多くは，確認面から70~90cm下位の礫が多数確認されている位置，もしくはそれより下層から出土している。異なる時代の遺物が多量に出土しているが，これらは流れ込みや混入によるものと考えられる。304は覆土上層から出土したものであるが，本跡と第2号溝跡から出土した土器片が接合したものである。329も覆土上層から出土したものである。

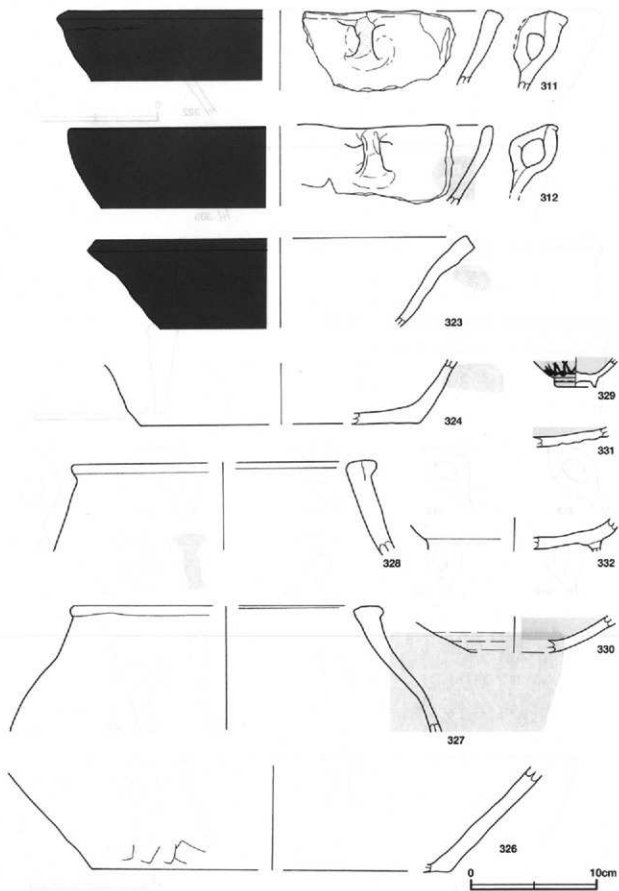
所見 調査区の中央部を南北に延びる溝で，断面が逆台形状を呈している。時期は，出土土器から中世と考えられ，15~16世紀代までには溝としての機能を終えたものと考えられる。



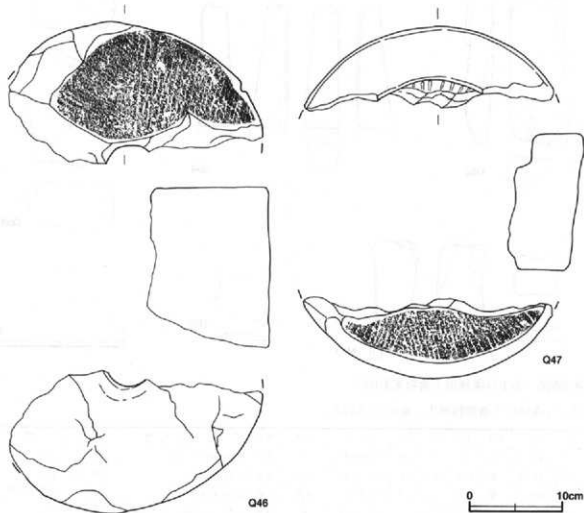
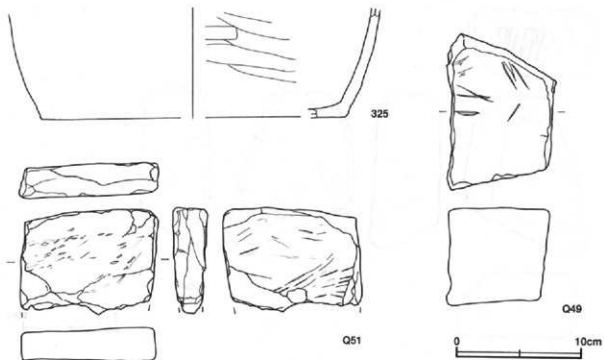
第351図 第1号溝跡出土遺物実測図(1)



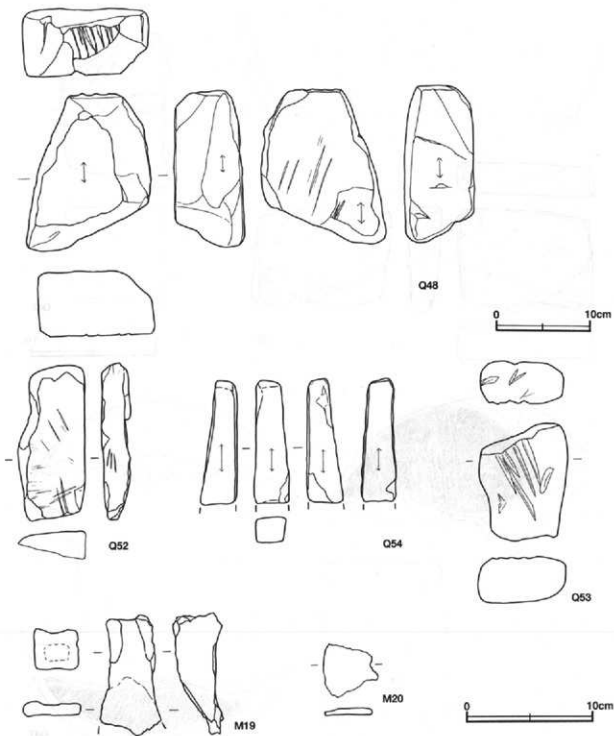
第352图 第1号沟迹出土遗物实测图(2)



第353图 第1号沟出土文物实测图(3)



第354图 第1号沟迹出土遗物实测图(4)



第355図 第1号溝跡出土遺物実測図(5)

第1号溝跡出土遺物観察表 (第351~355図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
301	土師質土器	小皿	[9.9]	2.7	[4.6]	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り後ナデ	覆土中	15%
302	土師質土器	小皿	[10.1]	3.4	[4.6]	石英・雲母	陶灰	普通	底部回転糸切り	覆土中	15%
303	土師質土器	小皿	11.0	3.1	4.3	雲母・赤色粒子	黄褐色	普通	底部回転糸切り	覆土中	96% 外面一部に 油漉
304	土師質土器	火舎	[48.4]	(10.5)	—	長石・雲母	橙	普通	内面ナデ, 外面にリング状飾り印	埋蔵面か ら0.7m	5% PL.52
305	瓦質土器	火舎	[37.0]	(8.1)	—	長石・雲母	黄灰	普通	内面ナデ, 外面に花文スタンプ 印と油状文	覆土中	5% PL.52

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
306	瓦質土器	火舎	[47.0]	(5.3)	—	長石・雲母	黒色	普通	内面に花文(ステンプ)	覆土中	5% P1.52
307	土師質土器	椀鉢	[31.4]	(11.3)	—	石英・長石・赤色砂子	にぶい赤褐色	普通	5条1單位の環形目、体部横ナデ	覆土中	10%
308	瓦質土器	漆鉢	[26.0]	(7.3)	—	長石・雲母・石英・赤色砂子	にぶい赤褐色	普通	内面環形目	覆土中	5%
309	土師質土器	内耳瓶	[28.8]	8.0	[26.2]	石英・長石・雲母・赤色砂子	にぶい橙	普通	横ナデ	覆土中	5%
310	土師質土器	内耳瓶	[30.0]	(7.5)	—	石英・長石・雲母	にぶい青褐色	普通	内面工具による横ナデ	覆土中	5%
311	土師質土器	内耳瓶	[32.9]	(6.3)	—	長石・雲母・小礫	橙	普通	横ナデ	覆土中	3%
312	土師質土器	内耳瓶	[33.3]	(6.3)	—	長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	横ナデ	覆土中	5%
313	土師質土器	内耳瓶	—	(5.4)	—	石英・長石・雲母・赤色砂子	にぶい赤褐色	普通	ナデ、外面煤付着	覆土中	5%
314	土師質土器	内耳瓶	—	(5.4)	—	石英・長石・雲母・赤色砂子	にぶい橙	普通	外面ヘラ削り、外面煤付着	覆土中	5%
315	土師質土器	内耳瓶	—	(8.1)	—	長石・雲母・赤色砂子	にぶい赤褐色	普通	ナデ、外面煤付着	覆土中	5%
316	土師質土器	内耳瓶	—	(5.6)	—	石英・長石・雲母・赤色砂子	にぶい橙	普通	ナデ、外面煤付着	覆土中	5%
317	土師質土器	内耳瓶	—	(5.6)	—	長石・赤色砂子	にぶい橙	普通	ナデ、外面煤付着	覆土中	5%
318	土師質土器	内耳瓶	—	(5.3)	—	石英・長石・雲母・赤色砂子	にぶい橙	普通	ナデ、外面煤付着	覆土中	5%
319	土師質土器	内耳瓶	—	(6.1)	—	石英・長石・雲母・赤色砂子	にぶい赤褐色	普通	ナデ、外面煤付着	覆土中	5%
320	土師質土器	内耳瓶	—	(5.5)	—	石英・長石・雲母・赤色砂子	にぶい橙	普通	ナデ、外面煤付着	覆土中	5%
321	土師質土器	内耳瓶	—	(4.3)	—	長石・雲母・赤色砂子	にぶい橙	普通	ナデ、外面煤付着	覆土中	5%
322	土師質土器	内耳瓶	[34.0]	(8.6)	—	石英・長石・雲母・赤色砂子	にぶい青褐色	普通	横ナデ	埋没面から5.0cm	5%
323	土師質土器	内耳瓶	—	(8.3)	—	石英・長石・雲母・赤色砂子	にぶい青褐色	普通	横ナデ	埋没面から1.1cm	5%
324	土師質土器	内耳瓶	—	(4.7)	[22.0]	石英・長石・雲母・赤色砂子	にぶい赤褐色	普通	内面ヘラナデ	覆土中	30%
325	土師質土器	内耳瓶	—	(8.6)	[24.0]	長石・雲母・赤色砂子	にぶい赤褐色	普通	内面ヘラナデ	覆土中	20%
326	土師質土器	内耳瓶	—	(8.3)	[28.2]	長石・雲母・赤色砂子	にぶい赤褐色	普通	内面ヘラナデ、体部外面ヘラ痕	覆土中	10%
327	瓦質土器	壺	[24.2]	(10.1)	—	石英・長石・雲母	赤褐色	普通	体部横ナデ	覆土中	10% P1.52
328	瓦質土器	壺	[23.5]	(7.3)	—	石英・長石・雲母	赤褐色	普通	内面ナデ	覆土中	5%

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	胎付	胎色	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
329	磁器	小瓶	—	(2.3)	3.2	—	灰白	染付け	透明	肥前	17世紀後半	埋没面から0.9m	50%
330	陶器	皿	—	(2.9)	—	—	灰黄	—	灰黄	畿内・美濃	古瀬戸前期	覆土中	10%
331	陶器	大瓶	—	(1.6)	—	黄白	—	染ナリ	灰輪	瀬戸・美濃	15世紀前半	覆土中	5%
332	陶器	片山鉢	—	(2.6)	—	長石	—	—	自然釉	常滑	—	埋没面から0.6m	5%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M19	茶	(9.5)	(4.8)	3.6	227.0	鉄	刃部一部欠損	覆土中	P1.61
M20	不明品	4.3	4.3	0.6	17.5	鉄	刃先一部欠損、基部に孔(1.9×1.3)	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
Q46	瓦	F4	—	[39.4]	16.9	(8180.0)	安山岩	芯部孔径(4.6)、彫溝有	覆土中	F口 P1.59
Q47	石	F4	—	[31.0]	14.5	(3610.0)	安山岩	くぼみの一部残存	覆土中	F口
Q48	灰石	16.7	13.2	7.2	2080.0	砂岩	二面使用	覆土中		
Q49	砥石	12.4	8.5	7.7	1290.0	砂岩	一面使用	覆土中		
Q51	砥石	(11.0)	8.4	2.6	(372.0)	粘板岩	二面使用	覆土中		
Q52	砥石	12.5	6.2	2.3	172.0	粘板岩	二面使用	覆土中		
Q53	砥石	(9.3)	7.0	3.7	(389.0)	砂岩	溝状切痕が5条	覆土中	P1.60	
Q54	砥石	(8.8)	2.8	2.6	(93.1)	安山岩	四面使用	覆土中	P1.60	

第2号溝跡(第356~359図・付図)

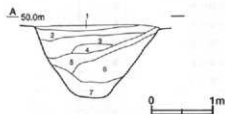
位置 調査区中央部のE7h2~F7b1区に位置し、台地の南側で南北に延びている。

重複関係 第5号溝跡を掘り込んでいる。第23号溝跡、第1301号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 E7h2区から南西方向(N-15°-E)に直線的に延びている。南西方向は調査区域外に延びているため、全体の規模は不明である。確認できた長さは18.5mで、上幅1.6~2.2m、下幅0.3~0.8m、深さ117~132cmである。壁は外傾して立ち上がり、断面は逆台形状を呈している。

覆土 7層からなり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

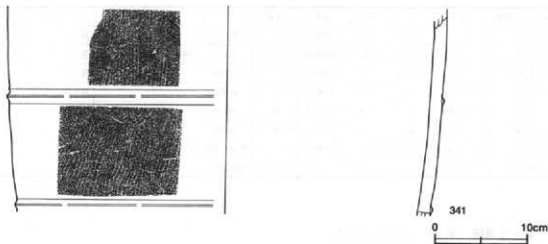
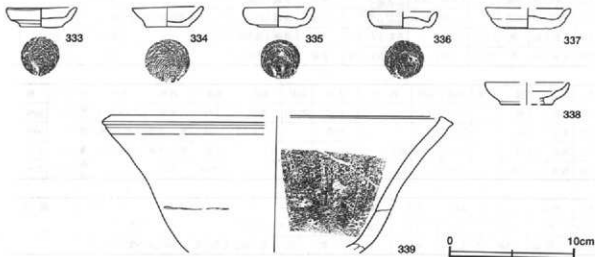
土層解説		5	黒褐色	ロームブロック中量、炭化物少量
1	褐色	2	暗褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	6	暗褐色	ロームブロック多量
4	暗褐色	7	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量



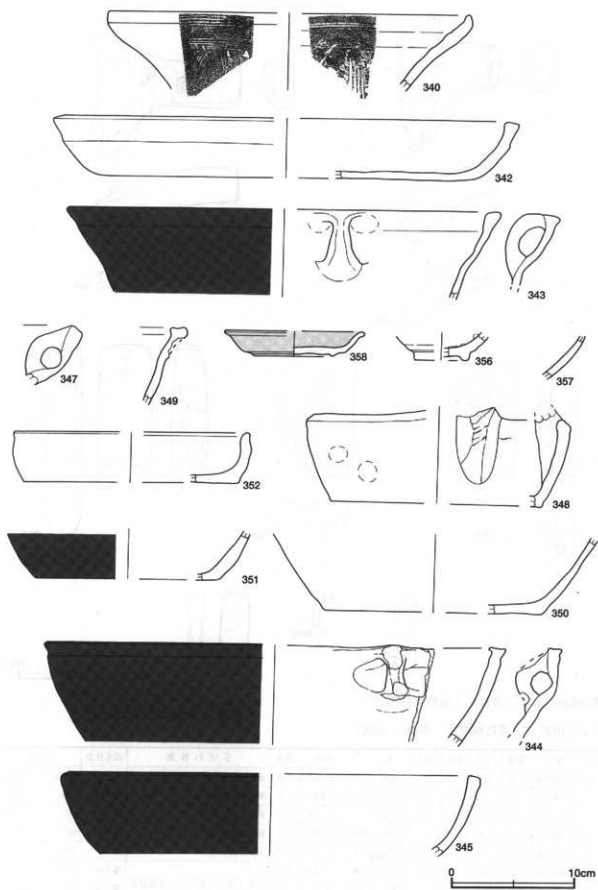
第356図 第2号溝跡土層実測図

遺物出土状況 弥生土器片1点、土師器片152点、須恵器片13点、土師質土器片198点(内耳鍋174、小皿20、火舎1、鉢3)、瓦質土器片8点(火舎4、焙烙3、十能1)、陶器片3点(碗2、皿1)、石器31点(砥石7、磨石・敲石24)、鉄製品3点(鏃1、不明2)、鉄滓5点が出土している。遺物の大半は人為堆積時の混入と考えられる。

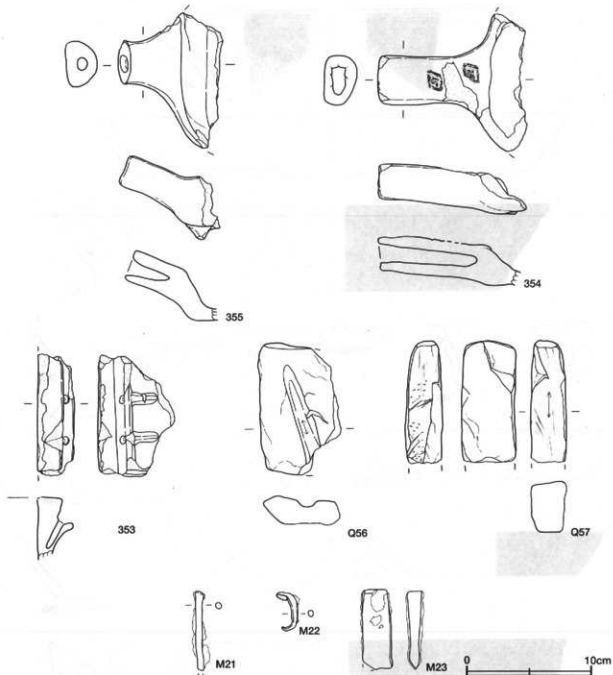
所見 第1号溝跡に平行して延びており、断面が逆台形状を呈している。時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第357図 第2号溝跡出土遺物実測図(1)



第358图 第2号沟跡出土遺物実測図(2)



第359図 第2号溝跡出土遺物実測図(3)

第2号溝跡出土遺物観察表 (第357~359図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
333	土師質土器	小皿	5.4	1.6	3.3	赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	底部回転糸切り, 内外面ナデ	覆土中	100% PL.51
334	土師質土器	小皿	5.6	1.6	3.5	長石・白色粒子	浅黄褐色	普通	底部回転糸切り	覆土中	96% PL.51
335	土師質土器	小皿	5.6	1.7	3.2	白色粒子	にぶい黄褐色	普通	底部回転糸切り	覆土中	70% PL.51
336	土師質土器	小皿	[5.6]	1.3	3.2	白色粒子・微塵	にぶい黄褐色	普通	底部回転糸切り	覆土中	60% PL.51
337	土師質土器	小皿	[6.8]	1.6	4.0	雲母・赤色粒子・微塵	にぶい黄褐色	普通	底部回転糸切り	覆土中	60%
338	土師質土器	小皿	[6.8]	1.8	[4.2]	赤色粒子・微塵	にぶい黄褐色	普通	ナデ	覆土中	20%
339	瓦質土器	鐏鉢	[26.3]	(11.0)	—	石英・長石・雲母	黄灰	普通	13条1単位の摺り目。体部縦方向ナデ	覆土中	30%
340	瓦質土器	鐏鉢	[29.2]	(6.3)	—	白色粒子・雲母	にぶい黄褐色	普通	4条1単位の粗い摺り目。体部縦方向ナデ	覆土中	5%

番号	種別	素材	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
341	瓦質土器	大倉ヶ	-	(22.5)	-	長石・高砂粒多・雲母	灰黄褐色	普通	体部縦方向ハケ目	覆土中	5%
342	土師質土器	滑岩	[35.8]	4.9	[30.0]	長石・赤色砂子・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部横ナデ	覆土中	20%
343	土師質土器	内耳鍋	[35.0]	(7.2)	-	石英・長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部横ナデ	覆土中	5%
344	土師質土器	内耳鍋	[37.0]	(8.7)	-	石英・白色砂子・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部横ナデ	覆土中	5%
345	土師質土器	内耳鍋	[32.2]	(6.6)	-	石英・長石・白色砂子・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部横ナデ	覆土中	5%
347	土師質土器	内耳鍋	-	(4.9)	-	石英・長石・雲母・鐵屑	にぶい褐色	普通	口縁部横ナデ、外周縁付着	覆土中	5%
348	土師質土器	内耳鍋	[20.2]	(7.5)	[17.1]	石英・長石・雲母	赤褐色	普通	体部ナデ	覆土中	5%
349	土師質土器	内耳鍋	-	(6.3)	-	石英・長石・雲母	赤褐色	普通	体部ナデ、外周縁付着	覆土中	5%
350	土師質土器	内耳鍋	-	(6.4)	[17.6]	長石・雲母・鐵屑	灰黄褐色	普通	体部ナデ	覆土中	5%
351	土師質土器	内耳鍋	-	(4.0)	[15.0]	石英・長石・雲母	にぶい褐色	普通	体部ナデ	覆土中	5%
352	土師質土器	給器	[18.8]	4.1	[17.4]	白色砂子・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部横ナデ	覆土中	10%
353	瓦質土器	不明	-	(5.1)	-	石英・長石・赤色砂子・雲母	にぶい褐色	普通	片面は磨き、反対面に斜め穿孔	覆土中	5% PL32
354	瓦質土器	土籠	(11.9)	4.0	(11.1)	雲母	にぶい黄褐色	普通	ヘラ削り	覆土中	30% PL52
355	瓦質土器	土籠	(8.0)	6.7	(10.9)	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	ヘラ削り	覆土中	25% PL52

番号	部賞	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	胎色	輪表	家地	年代	出土位置	備考
356	陶器	天目茶碗	-	(2.3)	[4.3]	長石	淡黄	-	黒	鉄軸	瀬戸・美濃	-	覆土中	15%
357	陶器	天目茶碗	-	(4.1)	-	長石	灰色	-	灰赤	鉄軸	瀬戸・美濃	-	覆土中	
358	陶器	丸瓶	[11.2]	2.1	6.3	石英・長石	淡黄	-	オリーブ	灰輪	瀬戸・美濃	16世紀末	覆土中	55%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
Q56	瓦	石	10.7	6.6	2.4	226.0	砂岩	半円厚切状削面が1条	覆土中	PL00
Q57	瓦	石	9.8	4.4	4.2	214.0	粘板岩	二面使用	覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M21	鐵	(6.4)	0.6	0.5	(8.6)	鐵	葉部のみ残存	覆土中	
M22	不明品	3.0	0.5	0.7	2.6	鐵	両端が対照的に屈曲	覆土中	刀装具の可能性あり
M23	くさび	6.2	2.3	1.2	(60.5)	鐵	先端部がやや薄く加工されている	覆土中	PL51

第3号溝跡 (第360図・付図)

位置 調査区中央部のD7J6~E7g3区に位置し、台地の南側で南北に延びている。

重複関係 第5号溝跡、第177・230・246・285・523・945・1909号土坑を掘り込み、第16号土坑に掘り込まれている。また、第17・29・252・259・312・314・714・989・1715・1716号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 D7J6区から南西方向(N-17°-E)に直線的に延びている。長さは33.5mで、上幅2.3~2.4m、下幅0.3~0.7m、深さ170~180cmである。壁は外傾して立ち上がり、断面は逆台形状を呈している。

覆土 11層からなり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

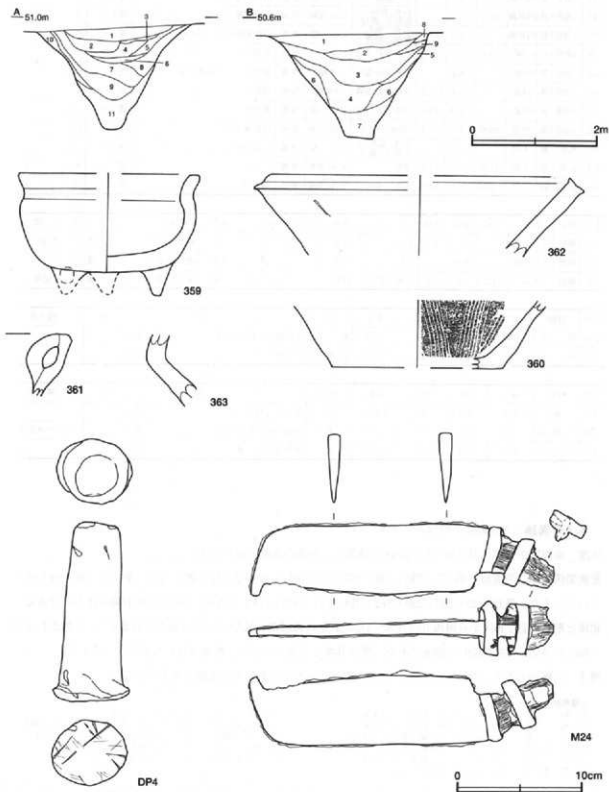
土師解製

1	紫	色	ロームブロック・黄泥パミス多量	7	緑	色	ロームブロック中長
2	褐	色	ローム粒子多量、黄泥パミス少量	8	灰	褐色	黄泥パミスブロック少量、ロームブロック少量
3	褐色	色	ロームブロック中長、黄泥パミス少量	9	にぶい	褐色	ロームブロック中長、黄泥パミス少量
4	暗	褐色	ロームブロック少量、黄泥パミス微量	10	褐色	色	ローム粒子中量
5	褐色	色	ロームブロック・黄泥パミス少量	11	にぶい	褐色	ローム粒子中量
6	暗	褐色	ロームブロック少量				

遺物出土状況 縄文土器片248点、土師器片86点、須恵器片2点、土師質土器片34点(内耳鍋19、小皿1、香炉2、鉢4、甕8)、灰釉陶器1点、陶器片5点(鉢1、甕2、碗2)、石器2点(砥石)、鉄製品1点(鉈)、鉄

洋1点が出土している。遺物の大半は人為堆積時の混入と考えられる。

所見 第2号溝の北側に位置し、第1号溝に平行して延びており、断面が逆台形状を呈している。時期は、出土土器から15~16世紀代と考えられる。



第360図 第3号溝跡土層・出土遺物実測図

第3号溝跡出土遺物観察表(第360図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
359	十層瓦土器	香炉	[14.3]	9.8	7.3	灰石・赤色粘土・凝灰	にぶい焼	普通	体部横ナデ、二足キ	覆土中	45% PL51
360	土師瓦土器	横鉢	—	(5.4)	[13.8]	石灰・長石・赤色粘土・凝灰	にぶい焼	普通	7条1単位の様子目	覆土中	5%
361	十層瓦土器	内耳鍋	—	(5.0)	—	石灰・長石・雲母	黒焼	普通	内面ヘラナデ、外面深付葉	覆土中	5%

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	輪帯	施地	年代	出土位置	備考
362	陶器	片1鉢	[23.5]	(6.4)	—	石灰・長石	灰赤	—	—	—	常滑	15世紀後半	覆土中	5%
363	陶器	壺a	—	(5.7)	—	長石	灰赤	—	—	—	常滑	—	覆土中	5%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置	備考
DP4	土	14.5	6.2	5.2	422.0	円柱状、J字ナデ	覆土中	PL57

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M24	土	24.5	6.3	4.4	402.0	土	柄の部分に木質残存	覆土中	PL61

第5号溝跡(第361・362図・付図)

位置 調査区中央部のD714~F7b2区に位置し、台地上を南北に立地している。

重複関係 第10号井戸跡、第20・1909号土坑を掘り込んでいる。また第1・2・3・6・23号溝、第19号竖穴状遺構、第7号土坑に掘り込まれている。第6号井戸跡、第945・1604号土坑との新旧関係は不明である。

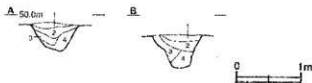
規模と形状 D714区から南西方向(N-10°-E)に直線的に延び、2.2m地点で約2m幅が調査区域外となる。その後さらに直線的に延び44.0m地点で西方(N-90°)に屈曲し6.5m延びている。南側が第1号溝に掘り込まれているため、全体の規模は不明である。確認できた長さは52.7mで、上幅0.5~0.8m、下幅0.2~0.4m、深さ40~50cmである。壁は外傾して立ち上がり、断面は逆台形状を呈している。

覆土 4層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 灰褐色 ローム粘土小粒、焼土粒子散見
- 2 黒色 ローム粘土、焼土粒子散見
- 3 黒褐色 ローム粘土少量
- 4 灰褐色 ロームブロック中量、焼土パミス少量

遺物出土状況 縄文土器片4点、弥生土器片1点、土師器片158点、須恵器片15点、土師瓦土器片17点(小皿2、内耳鍋14、鉢1)、鉄滓1点が出土している。縄文土器片等は埋め戻しの際に混入したものと考えられる。内耳鍋片が出土しているが、細片のため図示することができなかった。

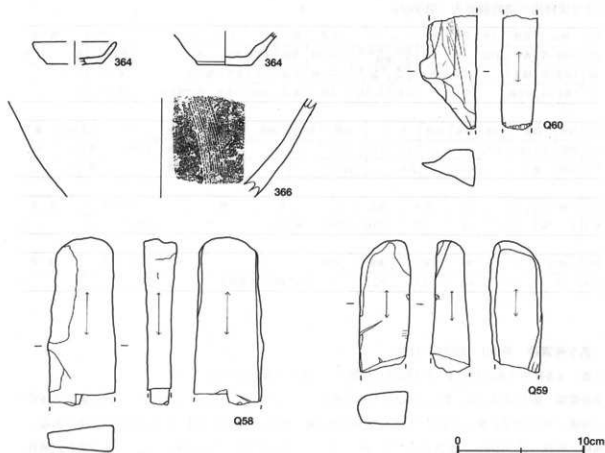


第361図 第5号溝跡土層実測図

所見 第1号溝、第2号溝に掘り込まれているが、出土土器からは時期差はほとんどなく、15世紀以降16世紀代までには、溝としての機能を終えたものと考えられる。

第5号溝跡出土遺物観察表(第362図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
364	十層瓦土器	小皿	[6.4]	1.8	[4.4]	石灰・雲母	にぶい焼	普通	ナデ	覆土中	20%
365	土師瓦土器	小皿	—	(2.7)	[4.1]	長石・赤色粘土・雲母	にぶい焼	普通	底面回転糸切り	覆土中	20%
366	十層瓦土器	横鉢	—	(8.0)	—	石灰・長石・雲母	にぶい焼	普通	11条1単位の様子目	覆土中	5%



第362図 第5号溝跡出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
Q58	甌 石	(13.1)	5.4	2.6	(258.0)	粘板岩	三面使用	覆土中	PL.60
Q59	甌 石	(10.5)	4.2	3.1	(202.0)	粘板岩	三面使用	覆土中	
Q60	甌 石	(9.1)	(4.4)	2.9	(125.0)	粘板岩	一面使用	覆土中	

第6号溝跡 (第363~365図・付図)

位置 調査区中央部のE7h4~F7d4区に位置し、台地の南側に立地している。

重複関係 第5号溝跡、第59・539・754・755・607・918・1890号土坑を掘り込み、第23号溝に掘り込まれている。第746号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 E7h6区から西方向(N-75°-W)に直線的に伸び、7m地点から東西に彎曲しながら南西方向(N-22°-E)に約15m伸びている。その後、南東方向(N-61°-W)に伸び、6m地点で屈曲し南方向に伸び調査区域外に至っている。南方向が調査区域外に伸びているため、全体の規模は不明である。確認できた長さは36.6mで、上幅0.6~1.8m、下幅0.2~0.8m、深さ50~97cmである。壁は外傾して立ち上がり、断面は逆台形状を呈している。

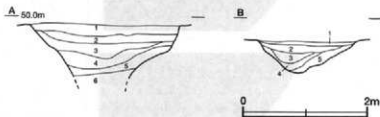
覆土 6層からなり、ロームブロックや粘土ブロックが不規則に含まれていることから人為堆積と考えられる。

土層解説

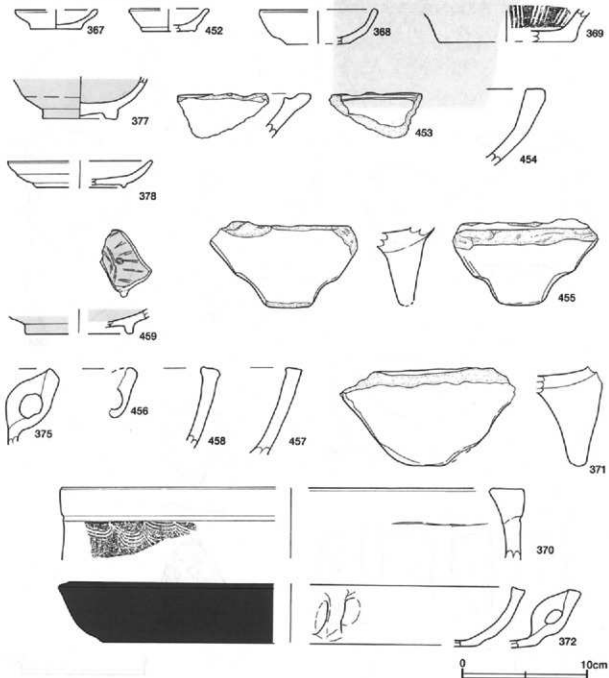
1 極暗褐色	ロームブロック・粘土粒子微量	4 極暗褐色	ローム粒子・炭屑パミスブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量	5 褐色	炭屑パミス中量、ローム粒子少量
3 極暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量	6 極暗褐色	炭屑パミス中量、ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片124点、土師器片101点、須恵器片6点、土師質土器片105点（小皿19、内耳鍋57、鉢13、甕16）、瓦質土器片3点（鉢）、陶器片4点（碗）、磁器片2点（碗）、石器4点（石鉢1、砥石3）、木器・木製品（漆桶）、鉄製品2点（不明）、鉄滓7点が出土している。遺物の大半は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

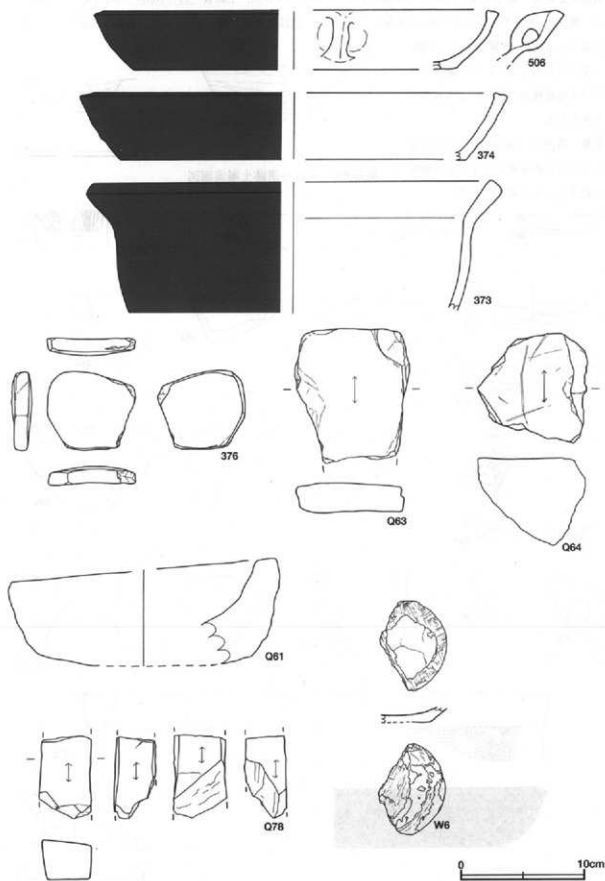
所見 時期は、出土土器から15世紀後半以降17世紀前半までは機能を終えていると考えられる。



第363図 第6号溝跡土層実測図



第364図 第6号溝跡出土遺物実測図(1)



第365图 第6号沟出土文物实测图(2)